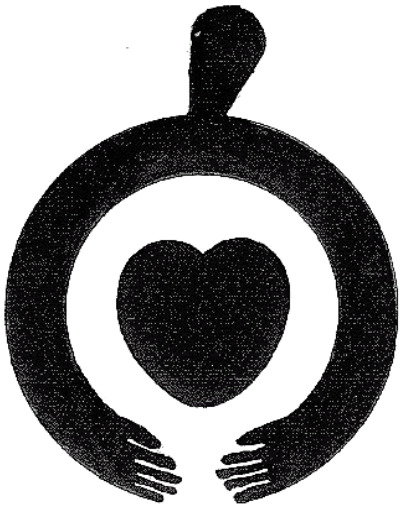
令和７年度
事業報告書



社会福祉法人　愛泉会

目次　　令和７年度事業報告書

Ⅰ　全体総括　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
Ⅱ　法人本部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
　Ⅱ―１　法人運営状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
　Ⅱ―２　総務課　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
　Ⅱ―３　会議　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
　Ⅱ―４　苦情の状況、解決状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
　Ⅱ―５　職員の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
　Ⅱ―６　決算報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

Ⅲ　創造企画部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

Ⅳ　事業の部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
　Ⅳ―１－①　障害者支援施設向陽園（入所施設支援）　・・・・・・・・・・・２３
　Ⅳ―１－②　障害者支援施設向陽園（生活介護）　・・・・・・・・・・・・・２５
　Ⅳ―１－③　障害者支援施設向陽園（障がい者乗馬）　・・・・・・・・・・・２７
　Ⅳ―２　向陽園ショートステイサービス　・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
　Ⅳ―３　エコファームもとさわ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
　Ⅳ―４　グループホーム支援センター向陽園　・・・・・・・・・・・・・・・３１
　Ⅳ－５　デイサポートさくら　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
　Ⅳ―６　デイサポートたんぽぽ工房　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
　Ⅳ―７　グループホーム支援センター心音　・・・・・・・・・・・・・・・・４０
　Ⅳ―８　ショートステイサービス心音　・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
　Ⅳ―９　児童デイサービス月のひかり　・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
　Ⅳ―１０　ショートステイサービス月のひかり$_1$　・・・・・・・・・・・・４９
　Ⅳ―１１　向陽園ホームヘルプステーション心音　・・・・・・・・・・・・５０
　Ⅳ―１２　グループホーム支援センターみらい　・・・・・・・・・・・・・５３
　Ⅳ―１３　あすなろショートステイサービス　・・・・・・・・・・・・・・５７
　Ⅳ―１４　デイサポートちとせんぼ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８
　Ⅳ―１５　デイサポートにじいろ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６３
　Ⅳ―１６　向陽園地域生活支援センター心音　・・・・・・・・・・・・・・・６６
　Ⅳ－１７　居宅介護支援事業所心音　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
　Ⅳ―１８　地域生活支援センター天花　・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
　Ⅳ－１９　デイサポート天花　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７２

Ⅳ―２０　グループホーム支援センター天花　・・・・・・・・・・・・・・・・・　７４
Ⅳ―２１　ぶどうの木ショートステイサービス　・・・・・・・・・・・・・・・・　７６
Ⅳ―２２　地域活動支援センター天花　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７７
Ⅳ―２３　多機能型事業所なかやま虹の丘　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８０
Ⅳ―２４　グループホーム支援センターなかやま　・・・・・・・・・・・・・・・　８３
Ⅳ―２５　ショートステイサービスゆるっとなかやま　・・・・・・・・・・・・・　８６
Ⅳ―２６－①　事業調整課　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７
Ⅳ―２６－②　やまがたアートサポートセンターら・ら・ら　・・・・・・・・　９０

Ⅴ　各委員会等
Ⅴ―１　（虐待防止及び身体拘束等の適正化委員会）　・・・・・・・・・・　９３
　　権利擁護・意思決定支援委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９３
Ⅴ―２　リスク検討委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９４
Ⅴ―３　支援検討委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９６
Ⅴ―４　政策委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０２
Ⅴ―５　衛生委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０３
Ⅴ―６　研修検討委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０４
Ⅴ―７　表現活動推進委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０５
Ⅴ―８　感染症対策委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０６
Ⅴ―９　中長期計画作成委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０７

Ⅵ　参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１２

Ⅰ　全体総括

庄司　泰夫

令和７年度は、「ソーシャルワークの原則に基づく実践」、「中長期計画の作成」、「組織体制及び事業環境の見直し」、「県内の社会福祉法人との連携の推進」、「IT 化・DX 化・業務効率化、収支の改善」、「専門性の向上と人材の確保・育成」、「高齢化への対応」の７つの項目に重点を置き、事業を行ってきた。

１，ソーシャルワークの原則に基づく実践

ミクロ、メゾ、マクロそれぞれの視点から支援を行ってきた。ミクロの視点では、各事業所とも利用者本人の意思決定・権利擁護を大切にし、意思形成のために体験や経験の機会が多く持てるように支援を行ってきた。令和７年度は、１名の方が向陽園から地域生活に移行したが、ご本人の意思決定のために２か月ほど体験期間を設け、どこで生活するかご本人が決定した。メゾの視点では、向陽園、グループホームを中心にそれぞれの事業所で「地域連携推進会議」を開催した。利用者、家族、地域の中の福祉事業所の方、地域住民の方に委員になってもらい、第三者サービス評価の視点も合わせて事業所運営の仕方や事業所内で発生した事故や利用する方々、ご家族、地域の方々からいただいた苦情等のご意見も報告させていただきながら、ご意見、ご助言をいただいた。地域の方々に事業所を知っていただき、関係を作る良い機会になっている。マクロの視点では、知的障害者福祉協会や山形市福祉団体連絡会等を通じて、行政に政策等の提言を行った。重い障がいを持つ方々が地域で生活するようになり、地域の方々また多職種の方々と連携し支援を行う機会も多くなってきている。利用する方々の言動や状況の変化から事業所内で不適切な支援が行われているのではないかと、疑念を持たれるケースも出ている。権利擁護のための研修や振り返りの機会が持てるようにするとともに、カメラ等の設置も検討していきたい。

２，中長期計画の作成

令和６年度の末からプロジェクトチームを立ち上げ作成を開始し、７年度末に完成した。物価の高騰、深刻な働き手不足等により、先行きが不透明なことから、新規事業の立ち上げ等は今回計画に入れることができなかった。今後、新規事業等の立ち上げや事業の改廃等については、それぞれにプロジェクトチームを立ち上げ社会情勢、障がい福祉の動向等も鑑みながら検討していきたい。

３，組織体制及び事業環境の見直し

組織体制については、検討が不十分であったため、令和６年度の体制のままとして事業を行った。事業所間での情報交換、意思疎通が不十分なエリアもあり、課題や問題等の対応が遅れてしまうことがあった。次年度は、各エリアにエリア長を配置するとともに、常勤理事の役割等も明確にし、課題、問題等が迅速にエリア長、本部に報告され、速やかに対応が図れるような組織体制にしていきたい。

４，県内の社会福祉法人との連携の推進

愛泉会で行った実践報告会に酒田市の社会福祉法人明松会、寒河江市のさくらんぼ共生会の職員に参加していただくのみとなってしまった。今後、国の方では報酬や加算等で法人連携に取り組む法人を評

価していく方向性が示されており、「ゆるやかな連携法人」を含めた他法人との連携を検討していきたい。

５，IT 化・DX 化・業務効率化、収支の改善

グループホーム支援センター向陽園で介護テクノージー導入支援事業補助金をもらい、見守りセンサーを導入した。また、事務員の業務の効率化のため、給与支給明細書を職員個々のスマートフォン等にメールで送信できるように業者とやり取りを行った。収支については、新型コロナ、インフルエンザ感染等や向陽園、グループホーム利用者のけがや疾病による入院等があったが、昨年度に引き続き４，２００万円プラスとなっている。向陽園に代わる居住の場の新設、職員に安心して働き続けてもらうための待遇の改善のためには、ある程度の資金が必要である。利用者に選ばれる事業所づくり、安全管理、健康管理等を行いながらより多くの資金が確保されるように取り組んでいきたい。

６，専門性の向上と人材の確保・育成

８年度も県社会福祉人材センターや知的障害者福祉協会等の研修会に派遣するとともに、法人内で階層別研修を行い、人材育成を行ってきた。コロナにより先進施設視察研修が実施されないままになっている。次代を担う職員の育成のためにも、視察研修を実施していきたい。

「人材確保」については、ハローワーク等にも協力していただき、中途採用の支援員の確保はできるようになってきているが、変則勤務を行える職員の確保、新卒職員の確保が十分にできていない状況にある。新卒者については、１名のみであった。対策を検討し、講じていきたい。

７，高齢化への対応

グループホーム利用者の高齢化、全般的に利用者の早期退行現象が顕著に見られている。ホーム等で十分な支援ができないことから、２名の方が介護施設、療養介護事業所に移られている。医療機関、介護施設等と連携しながら利用する方々の生活の質が維持、向上されるように手立てを講じていきたい。

８，その他

長年利用者の方々に親しまれてきた乗馬を、馬の高齢化等から令和７年６月に終了とするとともに、木材の確保と利用する方々の高齢化等から、エコファームもとさわ(就労Ａ型事業所)についても令和８年３月で廃止とした。事業の廃止に際しては、様々な方からご意見をいただいた。これまで愛泉会は、様々な要望に応えるために総合的に事業を展開してきたが、ＮＰＯ法人、民間企業等が福祉に参入する中で、多様な福祉サービスが提供されるようになってきている。今愛泉会に求められているのは、家庭で支えることが困難な、行動障がいのある方々や家庭での支え手を失い、社会的な支援が必要な方々への支援である。より専門的な支援が求められるケースが多く、様々な業務を兼務しながら対応することは困難になってきている。仕事と家庭を両立させながら、専門性を磨き、業務に専念できるような体制に整えることが必要と思われる。社会資源の整備も含め、愛泉会に求められている支援を行うとともに、体制等の整備も行っていきたい。

Ⅱ　法人本部

報告者：豊田　裕一

第２期中長期計画については、令和８年度から１６年度までの９年間を３年単位に区切り、法人課題や取り組むべき項目を６つの基本計画にまとめ、今後の法人活動の道標としていくものとして令和８年３月の通常理事会において承認された。前回の中長期経営計画に関する総括において、計画の共有や進捗管理の状況が法人内で全体化されていないとの声が多く寄せられたことを踏まえ、令和８年度以降の事業計画等については今計画に沿ったものとするとともに、全体会等での全職員への周知と共有に努めていきたい。

財務状況については、収益面では生活介護事業所における職員補充に伴う人員配置体制加算の上位加算や向陽園における中核的人材配置加算の取得等により、自立支援給付費収益については前年に比べ 28,268 千円の増収となり、加えて福祉職員に係る処遇改善に関する補助金計 23,452 千円等の取得により、障害福祉サービス等事業収益について 59,892 千円増収となった。費用の面では、前年度１０月からの月額給料のベースアップに加え、４月の定期昇給、１２月からの山形県最低賃金引き上げに伴う月額給料職員のベースアップ、賞与の増額や補助金を財源とした臨時一時金の支給、パート職員から常勤職員への雇用形態の転換等により人件費が 79,958 千円増加したことから、経常増減差額については前年度に続き黒字となったものの、前年度に比べ 26,565 千円減少となっている。当期資金収支差額については 42,488 千円計上しているが、事業活動支出の３カ月分は必要とされている期末現金預金残高は２．１カ月分程度であり、人件費や物価の高騰及び事業所設備の修繕や家電等の更新、向陽園の今後に備えた費用の確保が必須であるため、課題となっている事務事業の見直し継続等により資金の確保に努めていきたい。

昨今、全国各地で障害福祉サービス事業所での不適切な運営等が取り沙汰されている状況を踏まえ、毎年実施している全事業所への業務執行状況の点検及び確認巡回に加え、管理職員層を対象にコンプライアンス研修を実施し、改めて法令遵守に対する意識の醸成を図っている。令和８年度については、中長期計画において掲げられている内部統制の強化を図るため、内部監査体制を検討し実施するとともに、組織作りに関する試金石として南エリアに事務長を配置しエリア内の労務や財務等の管理体制の強化を図るとともに、各地に点在しているエリア内事業所に関する事務効率化の検討を行うこととしている。

職員の処遇改善について、前期の「障害福祉人材確保・職場環境改善事業費補助金」と後期の「処遇改善等緊急支援事業費補助金」を活用し、年度合計で一人あたり 105，000 円を上限とし一時金を支給した。また、令和７年１２月の山形県最低賃金改定に伴い、正規職員及び嘱託職員について給料月額を月額 6,000 円ベースアップし、全ての日給時給職員についても時給 77 円増となる単価改定を実施している。今後も、最低賃金引上げ等の動向を踏まえつつ、処遇改善加算を財源としながら勤務形態等に応じた各種手当の支給額の見直しによる賃金改善を継続していきたい。働きやすい職場環境づくりとして、前期はリーダー職層及び管理職層それぞれを対象に社会保険労務士によるハラスメント防止研修を実施し、後期においては令和 8 年度 10 月から事業主の義務となるカスタマーハラスメント対策について検討し、各事業所運営規程に対応策を規定し、風通しの良い組織風土づくりと職員が安心して働くことのできる環境づくりについて取り組んでいる。また、ワー

クライフバランスや女性活躍推進に関する取り組みの実績により、後期において「やまがたダイヤモンドスマイル企業」の認定を受けた。令和８年度からは処遇改善加算取得要件である職場環境等要件事項もより多く求められることから、各項目の実施により職場環境の改善や業務の見直しと整備を図っていきたい。

ＩＣＴ関連の取り組みとして、従来使用していた人事・給与システムの見直しを行い、新たな人事・給与システムを導入したことにより、紙媒体で配布していた給与明細書等を電子化によるウェブ閲覧方式とし、明細書封入作業や配送業務の削減による業務効率化及びペーパーレス化を図った。また、夜間や感染症発生時における健康管理体制の強化と効率化及び職員の夜間業務の負担軽減を図るため「山形市介護テクノロジー導入支援事業費補助金」を活用しグループホーム支援センター向陽園へ見守り機器を導入した。職員の心的負担の軽減にも効果的であったことから、引き続き効果測定等を実施しながら他事業所への導入検討と併せ、更なるＩＣＴ推進による業務の効率化に取り組んでいきたい。

危機管理に関する取り組みについては、新たに外部講師によるＢＣＰ（自然災害）研修会を実施し、各事業所ＢＣＰの確認と検証を行った。法人全体での危機管理マニュアルの策定や防災訓練の実施、居住系事業所への自家発電機設置、新興感染症対策に関する対策及び個人情報保護規程の整備について未実施となっていることから令和８年度の重要項目として取り組みたい。

≪Ⅱ－１　法人運営状況≫

１，役員構成

理事	理事長　庄司　泰夫 加利屋裕子、村上　実、八柳　律子、高橋　幹則、色摩　誠、村井　弘伸
評議員	榊　従子、遠藤　正明、奥山　優佳、小野　隆一、伊藤　順哉、伊藤　和雄 鞠子　克己、遠藤　暁子
監事	鈴木　一成、平　憲治
評議員選任解任委員会	黒沼　祐蔵、工藤　恭子、佐藤　和則

２，評議員会開催状況

月日	議題
① 日時　令和７年６月 25 日（水）午後６時 30 分から午後８時 00 分 ② 場所　愛泉会事務局会議室 ③ 定数　評議員　８名	報　告　令和６年度社会福祉法人愛泉会事業報告及び付属明細書の報告について 議 第 １ 号　令和６年度社会福祉法人愛泉会貸借対照表、収支計算書、貸借対照表及び収支計算書の付属明細書、及び財産目録の承認について

（現員　８名） 出席評議員　　８名 欠席評議員　　０名 監事　２名（現員　２名） 出席監事　　１名 ④説明のために出席した職員 ５名	議 第 2 号　社会福祉法人愛泉会理事、監事の選任について 議 第 3 号　社会福祉法人愛泉会評議員等報酬及び旅費規程の一部を改正する規程の制定について 報 告 事 項 そ の 他
① 日時　令和７年 11 月 20 日（木）午後６時 30 分から午後８時 20 分 ② 場所　愛泉会事務局会議室 ③ 定数　評議員　８名 （現員　８名） 出席評議員　　８名 欠席評議員　　０名 監事　２名（現員　２名） 出席監事　　２名 ④ 説明のために出席した職員 ５名	報　　告　令和７年度社会福祉法人愛泉会前期事業報告について 令和７年度社会福祉法人愛泉会前期収支状況等報告について そ の 他

３，理事会開催状況

月日	議題
① 日時　令和７年６月 10 日（火）午前 10 時 00 分から午後 11 時 30 分 ② 場所　愛泉会事務局会議室 ③ 定数　理事７名（現員７名） 出席理事　５名 欠席理事　２名 監事２名（現員２名） 出席監事　１名 欠席監事　１名 ④説明のために出席した職員 ２名	議第１号　令和６年度社会福祉法人愛泉会事業報告及び事業報告の付属明細書の承認について 議第２号　令和６年度社会福祉法人愛泉会貸借対照表、収支計算書、貸借対照表及び収支計算書の付属明細書、及び財産目録の承認について 議第３号　令和７年度社会福祉法人愛泉会１次補正収支予算の承認について 議第４号　社会福祉法人愛泉会評議員候補者の選任について 議第５号　社会福祉法人愛泉会評議員選任･解任委員会の招集について 議第６号　社会福祉法人愛泉会理事・監事選任候補者の選任について 議第７号　指定生活介護事業所デイサポートたんぽぽ工房運営規程等の一部を改正する規程の制定について 議第８号　令和７年度定時評議員会の招集について

	議第９号 報告事項 その他	社会福祉法人愛泉会評議員等報酬及び旅費規程等の一部を改正する規程の制定について
① 日時　令和７年６月 26 日（木）午前 11 時 00 分から午前 11 時 40 分 ② 場所　愛泉会事務局会議室 ③ 定数　理事７名（現員７名） 出席理事　７名 監事２名（現員２名） 出席監事　２名 ④説明のために出席した職員 ２名	議 第１号 議 題２号 議 第３号 報告事項 その他	社会福祉法人愛泉会理事長の選定について 社会福祉法人愛泉会育児・介護休業等規程の一部を改正する規程の制定について パソコンリース契約について
① 日時　令和７年９月 26 日（書面決議）	議　　題	向陽園給湯設備工事の実施について
① 日時　令和７年 11 月 11 日（火）午後 2 時 00 分から午後３時 40 分 ②場所　愛泉会事務局会議室 ③定数　理事７名（現員７名） 出席理事　７名 監事２名（現員２名） 出席監事　２名 ④説明のために出席した職員 ２名	報　　告 議 第１号 議 題２号 議 第３号 議 第４号 議 第５号 議 第６号 議 第７号 議 第８号 議 第９号 報告事項 その他	令和７年度前期職務執行状況報告 指定就労継続支援Ａ型エコファームもとさわの廃止について 令和７年度２次補正収支予算の承認について 社会福祉法人愛泉会就業規則の一部を改正する規則の制定について 社会福祉法人愛泉会職員審査会運営規程の制定ついて 社会福祉法人愛泉会給与規程の一部を改正する規程の制定について 指定共同生活援助事業グループホーム支援センターなかやま運営規程等の一部を改正する規程の制定について 令和７年度臨時評議員会の招集について 多機能型事業所なかやま虹の丘における日中一時支援事業の実施について 日中一時支援事業多機能型事業所なかやま虹の丘運営規程の設定について
① 日時　令和７年 12 月 16 日	議　　題	グループホーム支援センター向陽園見守りシステム物

（書面決議）	品購入について
①日時　令和８年３月 16 日（月）午後１時 30 分から 午後３時 25 分 ②場所　愛泉会事務局会議室 ③定数　理事７名（現員７名） 出席理事　７名 監事２名（現員２名） 出席監事　２名 ④説明のために出席した職員 ２名	報　告　令和７年度社会福祉法人愛泉会理事長職務執行状況報告 議第１号　令和７年度第３次補正収支予算の承認について 議第２号　社会福祉法人愛泉会第２期中長期計画の承認について 議第３号　社会福祉法人愛泉会令和８年度事業計画の承認について 議第４号　社会福祉法人愛泉会令和８年度当初予算の承認について 議第５号　社会福祉法人愛泉会定款施行細則の一部を改正する細則の制定について 議第６号　社会福祉法人愛泉会給与規程の一部を改正する規程の制定について 議第７号　社会福祉法人愛泉会職務等級資格制度規程の一部を改正する規程の制定について 議第８号　指定障害者支援施設向陽園運営規程等の一部を改正する規程の制定について 議第９号　障害者支援施設向陽園食事サービス提供業務委託契約の締結について 議第 10 号　障がい福祉利用者管理システム等に係るリース契約の締結について 議第 11 号　役員賠償責任保険契約の締結について 議第 12 号　令和８年度計上資金借入限度額等の設定について 議第 13 号　事業所長の選任について 報告事項 その他

４，評議員選任・解任委員会開催状況

月日	議題
②　日時　令和７年６月 17 日（火）午後 1 時 30 分から 午後２時 00 分 ②場所　愛泉会事務局会議室 ③定数　委員３名（現員３名） 出席委員　２名 欠席委員　１名 ④説明のために出席した職員 ２名	議第１号　社会福祉法人愛泉会評議員選任･解任委員会委員長の互選について 議第２号　社会福祉法人愛泉会評議員の選任について

５，監査・指導監査・実地指導

月日	実施者	監査・実地指導項目
５月 27 日	武田庄司監事 倉田吉典監事	法人定款第 22 条の規程に基づき、令和６年度事業に係る理事の業務執行及び法人の財産状況
1 月 26 日	山形市福祉推進部指導監査課	向陽園ﾎｰﾑﾍﾙﾌﾟｽﾃｰｼｮﾝ心音 ・人員、施設及び設備並びに運営全般 ・介護給付費、訓練等給付費等の請求関係

≪Ⅱ－２　総務課≫

報告者：豊田　裕一

１，当初目標及び評価

当初目標	評価
①新組織体制による円滑な法人運営を目指す	○
②ICT 化による効率的な事務体制の検討を推進する	○
③法人内規程や事務取り扱い等の遵守を徹底し規律ある組織作りを目指す	○
④財務体質の強化を図る	△
⑤適切な労務管理により働きやすい職場づくりに努める	○
⑥中長期計画と連動しながら事務体制の整備等について検討する	△
⑦各種リスクに対応する危機管理体制の整備に取り組む	△

２，実施状況

①新組織体制による円滑な法人運営を目指す

・当初予定した「４事業部体制」については頓挫し従来の組織体制による運営となったが、本部と事業所の円滑な意思疎通に留意し適切な事務の実施に努めた。

・毎月の調整会議及び経営会議に各種課題や留意事項の取り扱い等に関する情報提供や提起を行い、議論と共有のある会議運営に努めた。

・法人運営状況、諸規程、処遇改善状況等各種情報について、経営会議や諸通知、クラウドや勤怠システムのお知らせ機能を活用し実施しているが、職員全体に行き渡らせる工夫を継続して行う必要がある。

②ICT 化による効率的な事務体制の検討を推進する

・法人全体の PC リース更新に合わせ、改めて使用者権限・使用目的や台数、セキュリティの整理を行い法人内ネットワークに関する環境の再整備を行った。

・人事給与システムの新たなシステムへの移行により、紙媒体で配布していた給与明細書等を電子

化（ウェブ閲覧方式）し、業務効率化及びペーパーレス化を行った。
・夜間体制における巡回等に係る業務負担の軽減を図るため山形市 ICT 導入支援事業補助金を活用し、グループホーム支援センター向陽園への見守りシステム導入に関する事務手続きを行った。

③法人内規程や事務取り扱い等の遵守を徹底し規律ある組織作りを目指す
・法令や法人規程の理解により、よりコンプライアンスに立脚した業務執行に資するためリーダー職員以上を対象にコンプライアンス研修を実施し、法令遵守についての意識の醸成を図った。
・職員の表彰及び制裁に関する審査会の適切な運用を図るため新たに「職員賞罰審査会規程」を制定した。
・1 月から 2 月にかけ月のひかりを除く全事業所について業務執行状況の点検及び確認巡回を実施した。

④財務体質の強化を図る
・毎月経営会議に収支状況及び稼働状況を報告し、課題の共有と目標達成に対する意識の醸成を図った。
・総務課と事業所事務員の連携を図り適切な予算作成・管理に努めた。
・施設整備・修繕計画・更新固定資産一覧を作成し法人での共有を図っている。
・予算積算の精度は上がってきているものの、予算目標額と実績との乖離、事務員の制度理解による加算取得に課題が残っている。

⑤適切な労務管理により働きやすい職場づくりに努める
・勤怠システムにより職員の毎月の勤務状況を確認し法令や協定の順守状況の確認を行っている。
・育児介護休業法の改正に伴い法人規程について整備し職員へ周知し適切な運用を図っている。
・職層に分けそれぞれに応じたハラスメント防止研修を実施した。
・「ワークライフバランス」「女性活躍」の推進により組む企業を山形県が認定する制度である「やまがたスマイル企業認定制度」の最上位認定であるダイヤモンドスマイル企業の認定を受けた。

⑥中長期計画と連動しながら事務体制の整備等について検討する
・事務体制について、本年度で定年退職となる事務員との円滑な業務引継ぎと今後の事務体制や効率化及び管理体制を模索し事業所業務の洗い出しと整理を行うため、年度後半から本部事務職員 2 名を向陽園に派遣した。併せて、今後を見据えた事務員育成と事務体制継続のため本部に正規職員の事務員を1名採用した。
・事業所兼務における決裁事務の省力化や事務フローのマニュアル化による効率化、消耗品や給食材料の共同購入、事務員の福祉制度理解に関する研修等について未実施となった。

⑦各種リスクに対応する危機管理体制の整備に取り組む
・管理職職員を対象に自然災害における BCP 研修会を開催し、各事業所の BCP の確認と研修を行った。
・法人全体での危機管理体制に係る規程整備や防災訓練実施については未実施となった。

３，課題
・エリアにおける労務や財務管理体制の強化を図り、向陽園の将来構想についてもより具体的に推進するため、南エリアへ令和８年度より事務長を配置した。効果

測定を行いながら、各エリアへの事務長配置、現金取り扱いに関する業務の縮小、電子決裁導入及び人材育成等、効率的な事務体制の構築と事務の省力化について検討していきたい。

・第２期中長期計画が策定され、各事業所のあり方検討が始まる一方で将来への積み立てが全くなされていない状況であり、現金預金についても運転資金３カ月相当分残高に及んでいないことが大きな課題あることから、令和８年度末までに 300,000 千円を達成するため、引き続き収入目標達成と経費削減等による収支差額の確保に努めたい。

・サービス向上と職場環境改善に向けた業務効率化を推進していくための ICT や DX に対する専門的人材が不足しているため、先進施設視察の実施や ICT 推進担当者会議を活用し法人全体のリテラシーを高めるとともに、事業所のコンセプトと連動した各種機器の導入を検討していきたい。

・社会福祉法人における入札契約等の取り扱いの一部改正に伴う契約事務の整理、処遇改善加算を財源とする職員給料や職場環境改善内容の見直しと最低賃金引き上げに対する対応策の検討、令和８年度事業主に義務化されるカスタマーハラスメント対策やこども性暴力防止法関連法令や令和９年度労働関係法の大幅な改正への対応、次期報酬改定への準備等々に加え、令和７年度策定に至らなかった資格取得サポート要綱やメンタルヘルスガイドライン、文書の取り扱いに関する保存年限表、個人情報の取り扱いを含めた危機管理に関する規程等々、山積する懸案事項について整理しながら整備していきたい。

≪Ⅱ－３　会議等≫

１，調整会議

実施回数	主たる協議内容
12 回	・理事長、常勤理事、事務局長 ・法人本部、事業部の事業の進捗状況、課題等を報告するとともに、経営課題等について協議を行った。

２，経営会議

実施回数	主たる協議内容
12 回	・理事長、常勤理事、事務局長、園長・所長、看護師リーダー ・各部、事業所の月次報告、委員会の報告とともに、経営課題の検討を行った。

３，全体会

実施回数	主たる協議内容
１回	・Ｗａｂにて開催。 ・令和７年度事業方針、事業計画について

４,会議

（１）事務員連絡会議

月日	内容等
９月 29 日	・育児介護休業法の改正と事務手続きについて、労災書類に係る事業場名の記載について、令和 7 年度第二次収支補正予算について
２月 16 日	・給与明細電子化について、利用者のゆうちょ銀行に係る取扱いについて

（２）ＩＣＴ推進担当者会議

月日	内容等
６月 16 日	・令和 7 年度事業計画について、障害介護福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業について、各事業所の取り組みについて
９月８日	・改正個人情報保護法について、SNS の利用に伴うリスクについて、情報交換ツールについて
９月 24 日	・情報交換ツールの導入検討のため、LINE WORKS 株式会社によるデモンストレーションを実施
12 月 8 日	・情報交換ツールの運用について、見守りカメラについて、障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業について

５，研修

月日	研修名	参加対象者	研修形式
９月 11 日	ハラスメント防止研修	ﾘｰﾀﾞｰ職～ｻﾋﾞ管職	集合（あさひ会計ｾﾐﾅｰﾎｰﾙ）
９月 16 日	ハラスメント防止研修	管理職職員	集合（あさひ会計ｾﾐﾅｰﾎｰﾙ）
12 月 15 日	コンプライアンス研修会	ﾘｰﾀﾞｰ職～管理職職員	集合（本部会議室）
３月 10 日	ＢＣＰ（自然災害）研修会	管理職職員	ＺＯＯＭ

≪Ⅱ－４　苦情の状況、解決状況≫

事業所名	苦情内容	受付件数	苦情解決の経緯	結果	
			話し合い	解決	継続中
障害者支援施設向陽園	利用者ご家族からの苦情	3	3	3	0
向陽園ﾎｰﾑﾍﾙﾌﾟｽﾃｰｼｮﾝ心音	地域住民からの苦情	1	1	1	0
ﾃﾞｲｻﾎﾟｰﾄ天花	利用者ご家族からの苦情	1	1	1	0
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ支援ｾﾝﾀｰ なかやま	地域住民からの苦情	1	1	1	0

≪Ⅱ－５　職員の状況≫

１，入退職状況　　（単位：人）

	令和７年４月１日在籍職員	退職（年度中・年度末）	採用（年度中・８年４月１日採用含む）	令和８年４月１日在籍職員
正規職員	１２４	６	７	１２５
非正規職員	１５４	１９	１９	１５４
	２７８	２５	２６	２７９

※　60 歳定年により正規職から非正規職での再雇用、正規職転換試験合格により、正規職員に転換した職員を含む

２，平均年齢及び在職年数

・平均年齢　正規職員　４１歳６月　※職員全体５２歳４月

・在職年数　正規職員　１０年８月　※職員全体　８年９月

３，離職率

令和７年度離職率　７．８％（令和６年度１１．２％）　※離職人数÷従業員数×100

（厚生労働省「令和６年雇用動向調査の概況」全産業平均離職率１４．２％）

４，年次有給休暇取得率　　※令和７年１月１日から１２月３１日までの期間

令和７年度全職員平均　６１．０％（令和６年度６３．０％）　※取得日数計÷付与日数計×100

（厚生労働省「令和６年就労条件総合調査」全産業平均６５．３％）

５，産休・育休取得率

令和７年度産休・育休取得率　１００．０％　（令和６年度１００．０％）

※育休等取得人数÷育休等取得対象人数×100

６，女性管理職の比率

令和７年度女性管理職の比率　３６．３％　（令和６年度３４．８％）

※管理職女性人数÷管理職全体人数×100

（厚生労働省「令和６年度雇用均等基本調査」　平均１５．８％）

≪Ⅱ－６　決算報告≫

１，寄附の状況

寄附者	寄附金		寄付物品		合計		
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	備考
企業・団体等	3	629,493			3	629,493	
個人	3	75,000			3	75,000	
合計	6	704,493			6	704,493	

２，決算の状況

貸借対照表

（令和8年3月31日現在）

単位：円

貸借対照表

流動資産	465,555,440	流動負債	143,624,030
固定資産	683,990,223	固定負債	258,549,188
基本財産	432,096,391	負債の部合計	402,173,218
その他の固定資産	251,893,832	基本金	30,554,767
		国庫補助金等特別積立金	190,906,206
		その他の積立金	12,000,000
		次期繰越金増減差額	513,911,472
		（うち当期活動増減差額）	44,255,208
		純資産の部合計	747,372,445
資産の部合計	1,149,545,663	負債及び純資産の部合計	1,149,545,663

事業活動計算書

（自：令和7年4月1日　至：令和8年3月31日）

サービス活動収益計①	1,412,766,388
サービス活動費用計②	1,375,073,355
サービス活動増減差額③＝①－②	37,693,033
サービス活動外収益④	14,873,512
サービス活動外費用計⑤	6,591,445
サービス活動外増減差額⑥＝④-⑤	8,282,067
経常増減差額⑦＝③+⑥	45,975,100
特別収益計⑧	5,123,000
特別費用計⑨	6,842,892
特別増減差額⑩＝⑧-⑨	△ 1,719,892
当期活動増減差額⑪＝⑦+⑩	44,255,208
前期繰越活動増減差額⑫	469,656,264
当期末繰越活動増減差額⑬＝⑪+⑫	513,911,472
その他の積立金取崩額⑭	0
その他の積立金積立額⑮	0
次期繰越活動増減差額⑯＝⑬+⑭+⑮	513,911,472

資金収支計算書

（自：令和7年4月1日　至：令和8年3月31日）

事業活動収入計①	1,426,885,802
事業活動支出計②	1,324,268,196
事業活動資金収支差額③＝①+②	102,617,606
施設整備等収入計④	5,123,000
施設整備等支出計⑤	46,364,454
施設整備等資金収支差額⑥＝④-⑤	△ 41,241,454
その他の活動収入計⑦	5,072,248
その他の活動支出計⑧	23,959,510
その他の活動資金収支差額⑨＝⑦-⑧	△ 18,887,262
当期資金収支差額合計⑩＝③+⑥+⑨	42,488,890
前期末支払資金残高⑪	346,379,763
当期末支払資金残高⑫＝⑩+⑪	388,868,653

Ⅲ　創造企画課

報告者：八柳　律子

１，当初目標

目標	取り組み	評価
①職員個々人の研修計画を基に職員１人ひとりの研修ニーズに合わせた研修に派遣するとともに、職階別研修の内容を充実させ、支援の質の向上を目指す。	職員 1 人ひとりに自身の研修計画を作成してもらい、研修ニーズ等を確認しながら、派遣研修や法人内研修を受講してもらった。	△
②法人のホームページを活用し、福祉の仕事の意義や仕事を通して得られる喜び、当法人の取り組み等をより多くの方に伝えるとともに、関係機関と連携し、人材の確保に努める。	新卒者の募集について、「キャリタス」への登録を求める学校が多くなってきたため、キャリタスに登録した。中途採用職員の募集のため、ハローワークで行う説明会等にできるだけ参加させてもらい、募集を行った。	○
③県から委託を受けている強度行動障がい支援者養成研修を行うとともに、研修受講後のフォローアップ研修等を行い、県内の障害福祉の支援レベルの向上に寄与する。	強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）を８月、９月に強度行動障がい支援者養成研修（実践研修）を 10 月に実施した。	◎
④日々のサービス提供の中で感じられる制度上の課題や地域ニーズ等を集約し、知的障害者福祉協会等の活動等と連動させながら、行政等に要望を行い、地域に貢献する。	県に対する要望については、県の知的障がい者福祉協会を通して、市に対しては、福祉団体連絡会で行っている「市長と語る懇談会」の際に要望した。また、県議会議員との懇談会等にも愛泉会職員が多く参画できた。	○
⑤県内の社会福祉法人と人材育成、確保等を通して連携を行っていく。	福祉協会会員事業所２事業所に、愛泉会実践研修発表会を案内し参加していただいたが、それだけとなってしまった。	×

（評価　◎目標達成　○良好に進捗している　△やや不十分　×未達成）

２，総括

①人材育成、人材確保

⑴人材育成

・内部研修については、新任職員、初任職員を対象に「ソーシャルワークの基礎知識」、中堅研修として「自己覚知」「ソーシャルワーク演習（グループワーク）」について、研修を行った。

・派遣研修については、今年度、常勤職員を中心に「個別研修計画」を作成してもらい、それぞれの事業所の所長と相談し、職員それぞれの研修ニーズ、希望に沿った研修に派遣し、学んでもらうこととした。

⑵人材確保

・「令和７年度職員募集要項」をより見やすい、学生が欲しい情報を整理するなど見直しを行った。福祉・保育系大学、短大、専門学校に送付したが、山形県、宮城県内の福祉・保育系大学、短大、専門学校の訪問が年末になってしまった。

・ハローワークの協力で求人説明会やお仕事フェアも多く開催でき、見学者や応募も多かった。また募集する事業所や業務の内容を理解してもらうため、募集要項もその都度ホームページに掲載し、募集を行った。

(1) 研修実施状況

イ，内部研修

月日	研修名	参加者
４月 1～2 日	第１回新任職員研修 「法人諸規程、倫理綱領、感染症対策、接遇マナー等」 「事業所見学」	10 名
５月 22 日	第２回新任職員研修 「ソーシャルワークの基礎知識～価値と倫理～」	11 名
６月 11 日	第１回初任職員３研修「グループワーク１」	５名
６月 13 日	第３回新任職員研修「安全運転研修」	５名
６月 20 日	送迎担当者職員研修「安全運転講習研修」	９名
７月 3 日	第１回初任職員２研修「価値と倫理」	７名
７月 24.31 日	第２回新任職員研修「権利擁護」	13 名
８月 19 日	第２回初任職員３研修「グループワーク２」	５名
８月 28 日	第２回初任職員２研修「記録について①」	５名
９月 25 日 10 月９日	第３回新任職員研修「アセスメント①」	15 名
10 月 14 日	第３回初任職員３研修「グループワーク３」	３名
10 月 24 日	第３回初任職員２研修「記録について②」	５名
11 月 12 日	中堅職員研修　「自己覚知」	60 名
11 月 27 日 12 月４日	第３回新任職員研修「アセスメント②」	５名
12 月９日	第４回初任職員３研修「グループワーク④」	４名
12 月 25 日	第４回初任職員２研修「意思決定支援」	６名
２月 26 日 ３月５日	第５回新採職員研修「自己覚知」	11 名
３月７日	社会福祉法人愛泉会実践研究発表会	70 名
３月 10 日	第５回初任職員３研修「グループワーク⑤」	３名
３月 12 日	第５回初任職員２研修 「リフレーミング演習」「ケアマネージメンと実践」	５名

ロ，派遣研修

ａ，山形県社会福祉研修センター主催研修

月日	研修名	参加者
6 月 11,12 日	障がい児・者福祉関係新任職員研修１	1 名
6 月 17 日	社会福祉専門講座１　「認知症基礎編 ～認知症の基礎を学ぶ～」	1 名
7 月 8 日	障がい児・者施設職員研修１ ～利用者の権利擁護と自己決定/意思決定支援を考える～	3 名
7 月 11 日	栄養士・調理担当者研修（7 月開催分） ～食の現場のリスク管理と災害時の備え～	1 名
7 月 24 日	サービス提供責任者研修～利用者の安全管理とリスクマネジメント～	１名
7 月 30 日	福祉サービス苦情解決について学ぶ研修会	2 名
7 月 31 日	社会福祉専門講座 4～施設内の感染症予防（高齢者施設・障がい者施設編）～	4 名
8 月 22 日	栄養士・調理担当者研修（8 月開催分） ～食の現場のリスク管理と災害時の備え～	3 名
9 月 1 日	コミュニケーション力向上研修１ 「成長とさまざまな関係形成に活かす」	1 名
9 月 2 日	職場内ハラスメント防止研修 ～ハラスメントのない働きやすい職場環境づくり～	2 名
9 月 11 日	障がい児・者施設職員研修２ ～虐待防止・身体拘束について～	3 名
9 月 19 日	コミュニケーション力向上研修 2 ～Z 世代職員とのコミュニケーション講座～	１名
10 月 8 日	メンタルヘルス研修１ 「心の健康と働き方を考える」	１名
11 月 25 日	メンタルヘルス研修 2 「心の健康チェックとセルフケアについて」	１名

ｂ，山形県主催研修

月日	研修名	参加者
6 月 19～20 日	サービス管理責任者研修(更新研修)及び児童発達支援管理責任者研修（更新研修）	6 名
9 月 24～25 日、10 月 2～3 日 11 月 7 日、12 月 2～3 日	相談支援従事者研修（初任研修）	2 名
9 月 24～25 日	相談支援従事者研修（特別研修）	1 名

9 月 30 日、10 月 22、23 日	サービス管理責任者研修及び児童発達管理責任者研修（基礎研修）	1 名
12 月 5 日	専門コース別研修(意思決定支援)	4 名
12 月 18～19 日、1 月 22 日	サービス管理責任者研修(実践研修)及び児童発達支援管理責任者研修（実践研修）	1 名
2 月 10 日	専門コース別研修（障がい児支援）	4 名
7 月 29, 30 日、8 月 6, 7 日 9 月 3, 4 日	強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）	13 名
10 月 2, 3 日、21, 22 日	強度行動障がい支援者養成研修	12 名

ｃ，知的障害者福祉協会関係

月日	研修名	参加者
4 月 25 日	山形県知的障害者福祉協会　総会及び施設長・管理者等研修会	13 名
6 月 2 日	支援スタッフ部会代表者会議	9 名
6 月 16.17 日	東北地区知的障害者福祉協会　総会及び施設長等連絡会	8 名
7 月 10 日	権利擁護推進員研修会	12 名
8 月 8 日	山形県就労選択事業研修会	4 名
8 月 22 日	権利擁護セミナー	16 名
９月 9 日	児童発達支援部会　研修会	13 名
9 月 18.19 日	令和 7 年度全国グループホーム等研修会東北大会 in やまがた	16 名
10 月 15 日	医療系・食事サービス系職員研修会	6 名
10 月 11 日	権利擁護推進員研修会	18 名
11 月 12 日	支援スタッフ部会研修会意思決定支援研修会	8 名
11 月 25.26 日	山形県知的障害者福祉協会　施設長等研修会	13 名
12 月 1 日	家族と支援者が共に学ぶセミナー	5 名
12 月 16.17 日	東北地区知的障害者福祉協会　東北フォーラム 2025in あおもり	4 名
12 月 16 日	JIC セミナー（サビ管・リーダー研修　BCP/ハラスメント研修会）	9 名
３月 13 日	山形県知的障害者福祉協会 強度行動障害支援者養成研修フォローアップ研修	3 名
3 月 18 日	支援スタッフ部会代表者研修会	8 名

ｄ，その他

月日	研修名	参加者
７月 18 日	福祉サービス苦情対応実践初任者研修会	３名
９月 20 日	福祉サービス苦情解決リーダー研修会	２名

ハ，その他～さぽーと読書レポート～

・入職５年目までの職員を対象に「知的障害福祉研究さぽーと」を公費で購入し、読んでもらった。また、学びを深めてもらうため、四半期ごとにレポートを提出してもらった。

②山形県強度行動障がい支援者養成研修

ア,実施内容

研修内容については、昨年度完全集合で実施したため、今年度は大きな混乱もなく実施することができた。しかし会場について、８月 6.7 日の村山総合支庁北庁舎は猛暑にも関わらず冷房が効かず風の通りも悪く研修に集中する状況ではなかった。実践研修で使用した山形市総合福祉センターも 10 月の実施ではあったが気温が高く、特別に冷房を入れていただいたがそれでも暑く、受講者・講師とも大変な研修となった。次回からは会場の選定にも工夫の必要がある。

今回の基礎研修には定員の 180 名を大きく上回る 217 名の希望があった。県担当者から全員受講可としたい旨の意向があり全員受講可としたが実質 203 名の修了となった。実践研修に関しては 16 名ほどの不可決定となった。

今年度も株式会社等のいわゆる経験年数「0 年 0 か月受講者」が増えており、実践研修については講師に内容の工夫などしていただき全員が修了となったが、今回初めて課題を提出せず帰宅した受講生がおり、所属事業所へ連絡し後日提出してもらった。課題提出の仕方に工夫したい。

イ，強度行動障がい支援者養成研修

月日	研修名	参加者
７月 29 日 30 日 ８月 6 日 7 日 ９月 3 日 4 日	強度行動障がい支援者養成研修(基礎研修)	203 名
10 月 2 日 3 日 10 月 21 日 22 日	強度行動障がい支援者養成研修(実践研修)	125 名
毎月第４火曜日(午前中)で開催	講師連絡会　毎月開催	

③広報・情報発信

・ホームページについては法人情報等を定期評議員会承認後に更新した。

・より多くの方に法人の取り組みや福祉の仕事を理解していただくため、ホームページの更新に努めた。入職後の法人としてのフォローアップ体制を理解してもらうため、研修会等についての発信を行った。

イ，機関紙の発行

発　　行　　７月、１１月、３月　年３回発行

発行部数　　１，０００部

配布先　　利用者、利用者家族、近隣・地域住民、行政、関係機関、賛助会員等

３，課題

・人材育成については、職員個々に「個別研修計画」を作成してもらっており、個々の研修ニーズ、希望等にできるだけあった研修に参加し、学んでもらうよう、各事業所の所長等とも相談しながら派遣を行っているが、どれだけ実施されているかの検証までが至っていないため、次年度は受講者の把握にも努めたい。また各種研修案内が多く届くが、受講につながるようなつなぎを行っていきたい。内部研修については、新任職員、２～３年目までの初任職員の研修に重点を置き、ソーシャルワークの基礎、利用者をより理解してもらうための、気づきや観察力を学んでもらうための研修を行った。

・山形県強度行動障がい支援者養成研修について、令和８年度から山形県庁の事前予約ができなくなること、受講生・講師の研修環境確保のため有料会場を使用することを県担当者と合意している。委託料及び受講料の値上げも確定しているため、気候等に影響されずに開講できる環境整備に努めたい。また令和９年度からの中核的人材育成の山形県実施導入に向けても、山形県知的障害者福祉協会の支援力向上研修会やフォローアップ研修と連動していけるよう検討・協議していきたい。

≪Ⅳ　事業の部（総括）≫

報告者：加利屋　裕子

令和 7 年度は、一つひとつの事業所がコロナ禍前の生活や活動を目指して地域とのつながり・行事や外出・小旅行など利用者の希望に沿った支援を行った。
そのような中で起きた、6 月の入所施設での誤嚥死亡事故は、支援の在り方について再度問い続けた 1 年となった。令和 4 年の事故後、食の見直し、支援の在り方検討を重ね改善に取り組んできていたが、再び誤嚥により大切な命を失う結果となったことを重く受け止め、更なる食形態の見直し、専門家も交えた嚥下機能の評価、食事介助や心肺蘇生などの救急法の訓練を繰り返し取り組んでいる。利用される方々の満足する生活や活動を目指すこと、そこには「安心・安全」が必須であることを再度考え・工夫して取り組むことを継続していく必要がある。

児童のサービスや相談支援事業所も含め全体的には、感染状況を踏まえ予防対策をうちながら季節の行事や旅行なども楽しめるようになってきている。地域とのつながりを大切にした「事業所のお祭りの開催」や、地域行事への参加、社会経験活動など余暇や活動の幅が広がってきている
職員研修においても、事業所交換研修や他事業所への見学など職員同士の交流を目的としたものを実施できるようになった

居住系サービスを中心とした地域連携推進会議では利用されている方も参加し、それぞれの事業所で開催している。地域の方に事業所を見学して頂くことでより一層事業所への理解も深まり、利用されている方々の話を聞くことで障がい理解も深まっているようである。地域で協力して生活するために今後も定期的に開催していくことが大切と感じた

現場の安全な効率化や労働力軽減のため、入所施設ではインカムの使用、グループホームでは見守りセンサー導入、多くの事業所でケアパレットの導入を行った。実際の使用における検証をしながら、順次必要な事業所へ必要なものを導入していきたい

会議状況

会議名	開催数	内　容
相談支援事業所連絡会議	１回	情報交換・課題の共有
居住系事業所連絡会議	１１回	情報交換・課題の共有 月リーダー会議・事業所見学 月現場職員会議・事業所見学
短期入所事業所連絡会議	５回	情報共有・課題の共有
就労支援事業所連絡会議	３回	就労支援の在り方検討
日中系事業所連絡会議	５回	活動紹介・課題の共有 事業所交換研修の実施
看護師・管理栄養士会議	４回	感染症委員会との連携 事業所の課題や利用者の健康管理について話し合った

		法人全体の感染症対策備品の管理

課題としては、①同じような事故を繰り返さない為の取り組みを強化することが最も重要な一つと考える。リスク検討委員会で検討された内容が一つ一つの事業所へ浸透していない現状があり、システムとして再構築する。専門家の意見を聞く、他法人の取り組みを参考にする等次年度もリスク検討委員会中心に再発防止策を検討し事業所と連携しながら、事故等を減らし、安心安全な事業所づくりを進める
②権利擁護の視点や意思決定支援を進めていくうえで、意思決定支援事例を集め全体で共有する。「意思決定支援」の言葉だけがひとり歩きしないよう、実践の上に積み重ねていくようにする
③人材確保の課題もあげられるが、人材育成の課題も大きいと感じている。法人として望む職員像を基礎として、それぞれの事業所特色にあわせた人材育成をすすめる。日々のＯＪＴを大切にし、互いに成長していけるような環境づくりに取り組む

≪Ⅳ－１－①　障害者支援施設向陽園（施設入所支援）≫

報告者：吉田　一斉

事業種別：施設入所支援　定員：４０名　契約者数：３９名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①通過型の入所施設の機能を強化する	・ホームの空床を活用した体験からの地域移行を実現できた	○
②ケアパレット、インカム等を活用し、業務の効率化を図る	・ケアパレット活用による支援時間内での記録入力、インカム活用による利用者所在確認の迅速化を図れた	◎
③関係機関との連携を強化し、支援内容の見直しと環境改善を図る	・専門職によるリハビリの充実を図れた ・外部より専門家を招いて、職員の技術の向上を図る研修を実施	○
④計画的な設備更新を進めながら、向陽園の中長期的な展望を検討する	・年度計画通り、給湯設備更新工事が終了している ・施設全体の機能の中期的な展望についての検討の場は未設置	△

２，実施状況

① 利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30
実利用者数(名)	1126	1167	1194	1204	1186	1159
利用率（%）	93.8	94.1	99.5	97.1	95.6	96.6

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6　計
開所日数(日)	31	30	31	31	28	31	365	365
実利用者数(名)	1193	1124	1124	1132	1013	1152	13773	14194
利用率（%）	96.2	93.7	90.6	91.3	90.4	92.9	94.3	97.2%

（評価）

・期間中新規入所 1 名、退所 2 名。3 月末時点で 1 名の空床がある。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
安心安全チーム	月１回	１２回	安全確保と、事故発生の未然防止のための方策の検討
リーダー会議	月１回	１２回	サブリーダー以上の職員での意思決定会議
フロア会議	月１回	１２回	夜勤チーム職員の事業所会議
生活介護会議	月１回	１２回	日勤チーム職員の事業所会議

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
５	２１、２２、２３	救命法講習（日本赤十字）
７	２６	ご家族会（給食試食会）
７	２９	認知症研修（西部地域包括支援センター）
８	５	食事介助研修会（至誠堂総合病院ＳＴ）
８	２６	身体拘束適正化研修（スピーチロック：かみのやま病院認定看護師）
１０	２５	ご家族職員芋煮会（奉仕活動）
１１	１１	BCP 研修
１２	２	虐待防止研修
１	２７	BCP 訓練・研修
３	２４	愛泉会のこれまでの取り組み、歴史、大切にしてきたもの

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
６	２４	水害時避難訓練（メール配信訓練）
７	１	水害時避難訓練（図上訓練）
７	２２	夜間帯避難訓練（図上訓練）
１０	８	日中帯避難訓練

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
９	２９	誤嚥事故の報告 活動状況報告	・誤嚥事故についての検証、振り返り、対応はしっかりできている ・クマ、ハチなど十分注意してください ・老朽化に対応した中期的な計画の策定、職場環境の改善を進めてください

１２	２３	地域連携推進会議 事業所沿革 活動状況報告	・地域住民から見ると、利用者については、昔に比べると落ち着いてきている ・利用者からの職員の怪我が見られるので、スタッフを守っていくことを頑張ってもらいたい ・日中活動が充実している ・制約ある中でよくやっていると思う。
３	２４	アンケート調査報告 活動状況報告	・怪我が多いのが気になる、十分気をつけていただきたい ・アンケートについて、返ってこない方も多数いることが課題。言いたいことがあればあるほど書かないこともあると思う。 ・カスハラ対応も今後は進めていってもらいたい

３，課題

・通過型の入所施設を目指し、ホームの空床を活用した体験からの地域移行を実現している。長期間入所されている方の、地域移行への意欲をどのように引き出すのかについて、支援の工夫がより一層求められる。

・誤嚥事故を振り返り、咀嚼機能のサポート（食材カット等）から、嚥下機能のサポート（食材の固さ調整、とろみの使用、ミキサー食の導入検討）に方針を転換している。嚥下機能評価をとおして、個別の食形態の改善を進めている。

・設備の老朽化へは、今後の使用目安を 10 年と想定し、大規模修繕ではなく中小規模修繕にて対応している。期間中、給湯設備更新工事が終了している。施設全体の機能の中期的な展望については、検討の場を設けられていない。

・施設東側急傾斜地が、土砂災害特別警戒区域に新たに指定され、本沢川の氾濫と合わせて災害時対応がより一層難しくなっている。職住分離の推進、夏場の体育館の環境も考慮し、施設立地の場所についての検討が喫緊の課題となっている。

≪Ⅳ－１－②　障害者支援施設向陽園（生活介護）≫

報告者：吉田　一斉

事業種別：生活介護　定員：４０名　契約者数：６２名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①意思決定を最優先に支援する	・定期的な利用者による会議を実施 ・季節の行事やグループ外出等の体験経験を増やすための活動の実施、働くことを尊重した活動の提供	○
②～④施設入所と同じ	②　～④施設入所と同じ	

２，実施状況

① 利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	22	23	23	23	23	22
実利用者数(名)	805	863	852	871	844	808
利用率（%）	91.4	93.8	96.8	94.6	91.7	91.8

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	23	22	23	23	20	23	269	270
実利用者数(名)	845	756	795	817	653	825	9734	10136
利用率（%）	91.8	85.9	86.4	88.8	81.6	89.6	90.5	94.2%

（評価）

・期間中退所 2 名。利用率 95%を達成できていない。

・施設入所における感染症拡大時等に、利用率が大きく低下する。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
安心安全チーム	月１回	１２回	安全を確保と、事故発生の未然防止のための方策の検討
リーダー会議	月１回	１２回	サブリーダー以上の職員での意思決定会議
フロア会議	月１回	１２回	夜勤チーム職員の事業所会議
生活介護会議	月１回	１２回	日勤チーム職員の事業所会議

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
５	２１、２２、２３	救命法講習（日本赤十字）
７	２６	ご家族会（給食試食会）
７	２９	認知症研修（西部地域包括支援センター）
８	５	食事介助研修会（至誠堂総合病院ＳＴ）
８	２６	身体拘束適正化研修（スピーチロック：かみのやま病院認定看護師）
１０	２５	ご家族職員芋煮会（奉仕活動）
１１	１１	BCP 研修
１２	２	虐待防止研修
１	２７	BCP 訓練・研修
３	２４	愛泉会のこれまでの取り組み、歴史、大切にしてきたもの

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
１０	８	日中帯避難訓練

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況（施設入所支援と同じ）

３，課題

・施設入所者で向陽園生活介護を利用されている方について、体験的に外部事業所を利用する機会のさらなる工夫が必要である。
・在宅利用者及びグループホーム利用者の安定的な利用の為、祝日の受け入れを検討する。

≪Ⅳ－１－③　障害者支援施設向陽園（障がい者乗馬）≫

報告者：吉田　一斉

１，当初目標

① ソーシャルワークの原則に基づく実践
「１年をとおして、安全で楽しい乗馬体験を提供する」

② IT 化・DX 化・業務効率化、収支状況の改善の推進
「事業の在り方について、具体的に検討する」

２，実施内容

①地域への乗馬活動の提供

5 月 16 日	はらっぱ保育園
6 月 6 日	飯塚はらっぱ保育園
6 月 10，12，13 日	こまくさ学園
9 月 10 日	山形市立第三小学校
9 月 19 日	さくらんぼ幼稚園
9 月 22，25，30 日	こまくさ学園
10 月 2 日	山形県立酒田特別支援学校
10 月 3 日	山形県立楯岡特別支援学校
10 月 7 日	山形市立第三小学校

②法人内サービス利用者への乗馬活動の提供
年間通して実施

③事業の在り方についての具体的な取り組み

4 月	乗馬事業を実施している団体等から情報収集を実施
5 月	預託先と契約について打ち合わせ開始
7 月	関係各位への終了のお知らせ
9 月	お別れ触れ合い会の実施
10 月 15 日	預託先の牧場（函館）へ４頭出発

≪Ⅳ－２　向陽園ショートステイサービス≫

報告者：吉田　一斉

事業種別：短期入所　定員：４名　契約者数：７名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①ご本人ご家族が、安心して暮らし続けることを支援する	・短期入所、日中一時とも、新規のご希望も含め対応	○
②③施設入所支援と同じ	②　③施設入所支援と同じ	

２，実施状況

① 利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30
実利用者数(名)	14	15	11	12	7	17

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R7　計
開所日数(日)	31	30	31	31	28	31	365	365
実利用者数(名)	11	11	7	8	10	5	128	257

（評価）

・入所利用者の状況により使用できる居室が限られている。また、短期入所者同士の同一居室利用も難しい場合が多い

② 諸会議（施設入所支援と同じ）

③ 地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況（施設入所支援と同じ）

④ 非常災害に対する訓練の状況（施設入所支援と同じ）

⑤ 事業所第三者評価委員会の開催状況（施設入所支援と同じ）

３，課題

・施設全体の個室化を推進するため、使用できる居室が限られている。短期入所者同士の同一居室利用も難しい場合が多く、受け入れに制限がある。

≪Ⅳ－３　エコファームもとさわ≫

報告者：吉田　一斉

事業種別：就労継続支援Ａ型　定員：１０名　契約者数：５名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①個別支援計画作成にご本人参加を進め、ご本人の声を直接反映させる	・個別支援計画書を作成するにあたっては、これまで同様利用者の方に会議に参加していただき、できるだけご本人の声を反映できるよう努めた	○
②障がいがある人たちがやりがいを感じながら安全に安心して働ける職場作りを進める	・利用者の安全への意識向上に向けて、利用者の向けの安全講習を実施 ・夏季期間はサマータイムとして営業時間を変更し、熱中症の対策を実施（営業時間8:00～15:00）	○
③新たな作業種を増やし、身体的負担軽減を目指す	・作業種を増やす取り組みは未実施	×

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	21	20	21	22	16	20
実利用者数(名)	102	90	95	105	78	94
利用率（%）	48.5	45.0	45.2	47.7	48.7	47.0
就労事業収入	979 千円	350 千円	1,380 千円	947 千円	354 千円	845 千円

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
開所日数(日)	22	18	20	19	18	21
実利用者数(名)	106	84	95	86	84	54
利用率（%）	48.1	46.6	47.5	45.2	46.6	25.7
就労事業収入	2,233 千円	2,909 千円	1,775 千円	1,000 千円	1,104 千円	1,992 千円

	合計	R6　計
開所日数(日)	238	239
実利用者数(名)	1,073	1,112
利用率（%）	45.0	46.5%
就労事業収入	15,868 千円	13,584 千円

（評価）

・最低賃金の保障の観点から、利用者増加を実行することが、困難であった。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
事業所会議	月１回	12回	・作業状況、利用者状況の確認 ・販売量、在庫量の確認

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
6	11	山形市社会福祉協議会チャレンジ就労受け入れ
6	23	熱中症予防研修会
6	26	救命法研修会
7	29	安全確認講習会
9	24	感染予防研修会
6	11	山形市社会福祉協議会チャレンジ就労受け入れ

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
5	29	・避難訓練（熊対策）

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
10	1	活動状況報告 チャレンジ就労説明	・クマの出没状況について ・有刺鉄線等での敷地の安全確保も検討してはどうか ・熱中症対策については十分注意を
3	25	事業所閉鎖の経緯説明 活動状況報告	・事業所閉鎖にあたり、個人的には、B型に移行してでも薪作業を継続してもらいたかった ・個別に進路先を支援した、進め方は良かったと思う ・これまで、事業をしっかりと取り組まれている印象であった ・外作業にしては、ひやり事故等も少なかったことは評価できる

３，課題

・事業所廃止に向けた具体的な計画の作成と、実施を進めた

・利用者の進路については、相談支援事業所の協力も仰ぎながら、お一人おひとりの希望に即した形となるよう支援を丁寧に進めたが、お一人のみ進路未定のため、法人にて継続雇用となっている。

・令和８年３月３１日事業終了

≪Ⅳ－４　グループホーム支援センター向陽園　≫

報告者：小林　裕子

事業種別：共同生活援助　定員：１７名　契約者数：１７名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①一人ひとりの想いを尊重し、ご本人らしい生活を送れるようにする	・意思決定支援を軸にした、利用者の想いを反映させた個別支援計画の作成を行った。 ・一人ひとりの希望に合わせた余暇支援の充実、居室空間の整備に力を入れた。 ・様々な場面における自己選択・自己決定の機会を増やした。	○
②権利擁護を推進し、利用者の生活が充実するように取り組む	・権利擁護についての研修会への参加 ・事故報告やヒヤリハットを用いた再発防止への取り組み ・第三者による外部評価を行い、課題や改善点を明確化した。 ・各種マニュアルの再整備を行った。 ・振り返りシートを用いた定期的な業務の振り返りを行った。	○
③地域住民の一員として、地域に根差した生活を送れるようにする。	・地域の一員として地域内行事（清掃、お祭りなど）への参加を行った。 ・自立支援協議会との連携図った。 ・24 時間の職員在中、AED や車椅子、災害時の必要物品などを備えていることを地域に周知した。	△
④ご本人のライフステージに合わせ、自立した生活が送れるようにする	・ライフリズムナビを導入し、個々の状況を迅速に把握できる体制を確保し、夜間帯の安全性を向上させることが出来た。 ・看護師を配置し、体調不良時の早期発見・健康管理の強化を図った。 ・障がい特性や年齢、好みに応じた生活環境の整備を行った。	◎
⑤スタッフ間のコミュニケーションを深め、相互理解、協働し、風通しの良い職場環境を構築する	・スタッフ会議や世話人会議を建設的に意見が交わせる場とし、同じ目標に向かって取り組めるように努めた。 ・不適切な支援なども相互に指摘しあえる関係性を作れるように努めた。	○
⑥職員一人ひとり自己研鑽に努め、レベルアップを図る	・事業所課題に応じた内部研修会を開催した。 ・個々の課題に沿った外部研修会への派遣を行った。	

	・法人内委員会とも連携し、より専門的な視点でのケース会議を実施した。	△
⑦安定した事業収入と将来を見据えた事業展開を検討する	・世話人の確保（人員配置体制加算） ・居住系会議や入居調整会議で居住系事業所の入居状況・課題などの情報共有を図り、スムーズな移行に繋げた。 ・無駄をなくし、計画的・効率的に予算を執行する。	○

２，実施状況

① 利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	３０	３１	３０	３１	３１	３０
実利用者数(名)	１７	１７	１７	１７	１７	１７
利用率（%）	９８．４	９６．７	９８．２	９８．１	９８．１	９８．０

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	３１	３０	３１	３１	２８	３１	３６５	３６５
実利用者数(名)	１７	１７	１７	１７	１６	１６	２０２	２０３
利用率（%）	９７．７	９６．６	９６．９	９８．７	９２．０	９２．０	９６．２	９６．０

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
事業所会議	月 1 回	12 回	・事業所の現状や課題の検討、確認など ・各世話人会議からの議題検討
世話人会議	月 2 回	24 回	・世話人視点での事業所会議(ホームごとの実施)
プラン会議	随時	33 回	・個別支援計画案作成
ケース会議	随時	4 回	・障がい特性を理解し、利用者支援を検討する

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
5	9	GH向陽園内部研修会(理事長講話)
7	17	家族会奉仕活動(各ホームの清掃、懇談会)
9	10	GH向陽園内部研修会(自閉症の障がい特性を理解する)
11	1	家族会懇談会、芋煮会
1	19	GH向陽園内部研修会(とろみの使い方)

※世話人の日中事業所見学を予定していたが、コロナ感染が続き中止となった。

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
10	15	SMS 送信サービス訓練

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
8	20	《事業所サービス評価第三者委員会》 ・R6年度の事業報告とR7年度の取り組みについて ・家族奉仕活動・懇談会報告 ・苦情・事故報告 ・今後の予定・	・家族会行事への参加ご家族が増えている。今後も家族に興味を持っていただけるような行事運営が必要である。 ・事故防止のため設備不具合への早期対応 ・災害時、地域住民も被災した中でどう支えてもらうかが課題となっている。 ・制度の変化により事務的業務が増えてきた。利用者支援が疎かになってしまわないようにしたい。
3	20	《地域連携推進会議》 ・第三者委員との家族懇談会報告 ・苦情・事故報告 ・家族アンケート報告 ・R7 年度の事業報告 ・当事者からのご意見 ・見守りシート運用について	・見守りシステムの導入について、利用者の安全管理はもちろんだが、職員の心身の負担軽減にも繋がってくると思うのでとても良い。 ・ヘルパー事業所数の課題もあって、なかなか余暇支援の充実が難しい状況にある。ヘルパーを利用することで職員さんには別の支援ができる余裕もうまれるのでぜひ活用してほしい。 ・事故（ヒヤリ）報告を見る中で、防ぎようがない事故も起きることが予想される。また、言葉のない利用者さんも多い中で私たちの気づきや判断がとても重要になってくる。

３， 課題

・ホームの経年劣化や設備不具合箇所へ随時対応し、安全な環境を作ることが重要である。

・利用者一人ひとりの意思を尊重した個別支援計画、支援に重きを置いているが、ご自身の言葉で表現できない方の意思を確実にくみ取れているかどうかが課題である。日々、利用者の表情や行動からくみ取れる気づきを大切にし、情報提供の工夫や経験、体験の場を拡大していく。

・職員が常勤していない西の家の支援体制強化が必要である。（巡回頻度の増、迅速なバックアップ体制）勤務体制の見直しを行いながら、西の家世話人や夜警員との連携を強化し、その時々の場面に対応した支援がタイムリーに確実に行えるようにする。

・物価高に伴う食費、光熱水費の高騰があり、年金の大半が生活費を占めている。QOL の向上を目指しながら、より計画的に物品の購入を行っていく。

・ライフリズムナビをより活用し、データを元にした支援方法の検討・実施・振り返りを行いながら、より有効かつ効果的な支援につなげる。

・世話人の確保で間接業務が軽減され、利用者と関わる時間を増やすことが出来きている。より丁寧で質の高い、利用者一人ひとりのライフステージに沿った支援が必要である。

≪Ⅳ－５　デイサポートさくら　≫

報告者：北島　英幸

事業種別：生活介護　定員：２０名　契約者数：３８名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①　ソーシャルワークの原理基づく実践 ・様々なネットワークを活用し、地域社会の中で経験体験を積む活動を展開していく エリア事業所と連携し体験利用を実施する	・本人参加の意思決定支援会議（プラン会議）「わたしのけいかく会議」については、計画を立て実施した。 ・意思決定支援の根拠となる情報収集と記録の工夫と実践を行ったが、不十分な所もあり、来年度への課題となる。 ・日々の職員振り返り会議を活用し、支援者の気づきを高められるよう取り組むことが出来たが、個々の職員によって視点にばらつきがあった。 ・新たな活動提案や評価セッションを行い、アセスメントの見直しを各チームで進めた。 ・山元地区、上山自立支援協議会等のネットワークを通じて交流活動の企画や地域イベントに参加し、利用者が地域の方々と交流をもつ機会となった。 ・語ろう会「利用者会議」（事業所に対しての要望・希望や行事イベント企画など）を実施出来た。 ・祝日・休日営業日での向陽園生活介護利用者の体験利用については、新たな体験利用は未実施となった。	○
②　IT 化、DX 化、業務効率化、収支状況の改善の推進 ・記録・情報共有ツールを活用し、適正なサービス提供記録や日々の記録の充実を図る休日営業の実施	・記録の重要性を確認し、ケアパレットやメモ帳などを活用しタイムリーな記録、内容の充実を図った。 ・新規利用者１名受け入れた。 ・休日営業を計画通り実施した。	○
③　事業環境の見直し ・利用される方々にとって安心し安全に過ごせる事業所環境の整備を行う	・利用者スペースの環境の見直しを行い、個々のニーズに合わせて実施した。 ・リサイクル作業場のトタン屋根の経年劣化により雨漏りが発生し、上山市内の業者へ依頼、修繕実施した。 ・経年劣化による玄関ホール床材修繕の実施。 ・害獣駆除業者を年間契約し仕掛けの設置、駆除を行った。	○

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	２２	２２	２２	２３	１９	２２
実利用者数(名)	４９６	４４５	４９２	５１５	４２４	４９９
利用率 (%)	112.7	101.1	111.8	111.9	111.5	113.4

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	２３	２０	２１	２０	２０	２２	２５６	２５７
実利用者数(名)	５１７	４４０	４４５	４２３	３９２	４３８	５５２６	５１２１
利用率 (%)	112.3	110	105.9	105.7	９８	99.5	107.9	99.6

（評価）

・4 月 2 日～新規利用者開始（週 3 日）

・5 月～重度障害者支援加算中核的人材配置取得

・区分変更 7 月:区分4→区分５ 1 名。6 月:区分5→区分６ 1 名。 3 月:区分5→区分６ 1 名

・重度障害者支援加算　　区分4，５　7 名　　区分６　12 名

中核的人材配置(重度加算点数18点以上)　区分4，５　2 名　　区分６　6 名

・祝日営業の実施（年間１５日）

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
事業所会議	月1回	11 回	・事業計画進捗状況確認、当月事故報告、課題検討
担当者会議	随時	1 回	・情報共有、課題解決
当事者会議	月 1 回	12 回	・苦情、要望、活動へのご意見の検討
わたしの計画会議	随時	全ケース	本人、家族参加の会議。プラン振り返り、ニーズ聞き取り、アセスメントを行う。

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
地域行事		
7	1	・上山マルシェ 利用者 2 名 職員 1 名
8	3	・山元地区夏祭り 利用者 3 名 職員 3 名
9	12	・上山市地域自立支援協議会主催「スポーツかかし杯(ボッチャ大会)」 中川福祉村体育館 職員:2 名 利用者 2 名
9	27	・上山病院祭 職員 1 名
11	23	・山元公民館行事参加 職員 1 名
12	5	・上山マルシェ 利用者 2 名 職員 2 名
1	27	・地域交流イベント「そば祭り」
3	13	・上山市地域自立支援協議会主催「スポーツかかし杯(ボッチャ大会)」 中川福祉村体育館 職員 2 名 利用者 3 名

研修等		
1	23	・虐待防止・身体拘束適正化合同研修

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
7	30	・事業所防災訓練 「消化訓練」「避難訓練」「通報訓練」
3	23	・事業所防災訓練 「消化訓練」「避難訓練」「通報訓練」

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
12	24	・第 1 回第三者評価委員会 山元公民館	・入所施設詰まり死亡事故を受け当事業所では、どのような対策を行っているのか。
2	13	・第 2 回第三者評価委員会 山元公民館	・事業所の修繕・建て替え等、必要ではないか。

3，課題

・温暖化気温上昇に伴い、熱中症への配慮から畑活動が殆ど実施出来ず、また、作物へも大きく影響が出た。秋野菜中心に今後検討して行く。

・ADL 低下、行動変容が見られる利用者が増加している。アセスメントの更新、関係先からの情報収集、情報共有、方向性の統一、具体的な支援及び役割の検討が必要である。

・過ごしやすさ、安心安全な環境つくりのため、事業所内環境、外作業場環境の見直し及び修繕が必要である。下駄箱・リサイクル作業場作り及び修繕を進めていく。

≪Ⅳ－６ （デイサポートたんぽぽ工房）≫

報告者：八鍬 結

事業種別：生活介護事業所 定員：２０名 契約者数：２４名

1，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
① ソーシャルワークの原理に基づく実践 様々なネットワークを活用し、地域社会の中で経験体験を積む活動を展開していく	・本人参加の意思決定支援会議（プラン会議）「わたしのけいかく会議」は、仕組みをつくり実施することができた。 ・家族、居住サービス、相談支援事業所と丁寧なやり取りを行い、積極的な情報収集を図った。 ・記録についての勉強会や支援員リーダーが中心となり具体的な記録の方法 OJT を行い、記録の充実を図り、日々の支援の振り返り、検討につなげることができた。	△ ○

	・公募展やイベントの掲示、プログラムボード設置を行い、選択し意思表出しやすい環境を整えること、たんぽぽ会議で要望を伝え実践することを通し、「自己決定」への行動変容が定着しつつある。 ・様々な公募展へのチャレンジや作品の製品化、販売を通し、アーティスト活動を実践することができた。 ９月わたしのせかい（アート展）　出展者　７名 １１月きざしとまなざし展　出展者　１５名　入選　３名 １２月山形市民美術展　出展者　７名 （山形県美術連盟賞　１名・デザイン部門２位　１名） １２月 ArtDig る～べ　　出展者　４名 （入選　２名・JIC 専務賞　１名） ・令和７年７月より事業所インスタグラム、SNS を開設し、商品や日々の活動を積極的に発信し認知度向上を図った。 ・山形市自立支援協議会、山形県知的障害者福祉協会、山形市社会福祉協議会、チームわん・つー！安心生活部会などへ参加し情報交換を実施した (チームわん・つー!では事業所紹介を実施し、活動・製品今後の取り組みについて情報を発信した) ・令和７年７月１日より本人、家族の意思確認を行いながら延長時間受入を実施でき、徐々に利用実績も増えている。 ・地域行事(西部公民館文化祭展示・高齢者と小学生交流会での展示等)へ積極的に参加し、事業所・利用者の活動を地域の方々に発信すると共に作品を通し地域貢献に繋げることができた	○ ○ × ○ ○ ○ ○
② IT 化、DX 化、業務効率化、収支状況の改善の推進 ・ 記録・情報共有ツールを活用し、適正なサービス提供記録や日々の記録の充実を図る ・ 休日営業、延長時間利用の実施	・ケアパレットを活用し、日々の小さな変化や出来事を記録することができている ・計画通り休日営業を実施、新規利用者１名受け入れた。	○
③事業所環境の見直し 利用される方々にとって安心し安全に過ごせる事業所環境の整備を行う	・床材の張替工事とエアコン購入を実施した。	◎

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	２２	２２	２２	２３	１９	２２
実利用者数(名)	４５７	４３９	４６４	４８９	３９９	４６５
利用率（%）	103.8	99.7	105.4	106.3	105.0	105.6

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	２３	２０	２１	２０	２０	２２	２５６	２５７
実利用者数(名)	４７８	４１６	４４２	４１４	４１１	４２８	５３０２	５３４５
利用率（%）	103.9	104.0	105.2	103.5	102.7	97.2	103.5	103.8%

(評価)

・概ね、計画通り営業することができた。

・祝日営業(年間15日)

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
事業所会議	月1回	12回	事業計画の進捗状況確認や当月事故報告と課題検討
ケース検討会議	随時	2ケース 3回	利用者理解を深め課題可決に向け会議を実施
わたしのけいかく会議	随時	全ケース	本人・家族参加の会議 計画を振り返りニーズの聞き取り・アセスメントを実施
たんぽぽ会議 (当事者会議)	月1回	12回	事業所への要望や聞き取り・行事イベントに向けての企画や意見交換
リーダー会議	4か月1回	3回	事業計画の進捗状況に応じた計画の確認・個別ケースに特化した支援の見直し・支援の検討など

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
研修		
4	15・16	外部研修　3名
5	22	救急蘇生法研修会
6	21	たんぽぽカフェ(ご家族より来所して頂き事業計画の説明と意見交換・交流会)
7	19	外部研修　2名
8	1	アートサポートセンター研修　3名
1	23	身体拘束適正化・虐待防止研修会
地域行事		
8	30	南十日町商店街祭り　販売
10	25・26	西部公民館文化祭　作品展示

11	6	高齢者と小学生の交流会　（西部公民館開催）事業所作品を展示

※随時、イベント・研修会等で販売参加を実施した

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
9	26	避難訓練(火災を想定) 通報訓練　消火訓練
3	25	避難訓練(火災を想定) 通報訓練　消火訓練

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
12	23	・令和7年度事業計画について ・活動状況の報告 ・事故・苦情報告等	・7月より事故の件数が増加しており日々の支援にて大変さは理解できるが安全に楽しく活動ができるようにして欲しい (7月より「ひやりはっと」で記載していたものをすべて「事故報告」に変わった事をお伝えする) ・祝日営業の「たんぽぽマルシェ」は地域との関わりをもつ良い機会ではあるが、積極的に町内会や商業施設と繋がりを築き販売に繋げていく必要がある
2	20	・家族アンケート結果・サービス評価について ・利用者・職員代表者からの聞き取り	・家族アンケートよりご家族の事業所に対する満足度は高い ・ショーステイについても職員の負担にならない体制で、利用者が慣れた環境で将来グループホーム移行に繋がる取り組みを実施してほしい ・マルシェ販売に関して地域の人がより親しみをもち、足を運べるよう工夫が必要

3，課題

・事業所環境が手狭であり、リスクの高い状況である。事業所特色、利用者像に合わせ物件や地域を検討する必要がある。

・中途採用職員が増えており、人材育成及び OJT が課題となっている。副所長、リーダー職員が定期的に話し合いを行い、職員個々の強みが活かされる OJT の効果的な実施に向け計画を作成する。

≪Ⅳ－７　グループホーム支援センター心音≫

報告者：武田　幹

事業種別：共同生活援助　定員：３０名　契約者数：２８名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①利用者一人ひとりの「自分が暮らしたいグループホーム」となれるよう努め、その先の「自分が暮らしたいまち」づくりを目指す。	・休日の好きな過ごし方は、一人ひとり違うということを全職員で共有しながら、余暇の個別対応に努めた。 ・全利用者が休日に出かけられず、ホームで過ごすことがないよう、一人ひとりの「どのように過ごしたいのか」を把握して支援した。 ・日用品やし好品は、可能な限り利用者自身が買い物に行き自分で選べるよう努めた。 ・「経験」「体験」「情報」が豊富にある生活を目指し、一泊旅行の他、山形駅裏のイベントや休日の外食、各種演奏会等、利用者の希望の外出支援を実施した。 ・「山形県ふるさとの川愛護活動支援事業」を申請して、須川の清掃活動を行ったが、後期は熊の目撃情報が続き実施できなかった。 ・地域連携推進会議を前期後期で１回ずつ開催し、構成員より各ホームを見学してもらった。 ・利用者の誕生日には食べたいものをお聞きして、リクエストに応えて食事をつくっている。	○
②利用者一人ひとりの過去の物語やこれからの人生について、ご本人の意思を再度丁寧に聞き取り、個々のライフステージに適した生活環境をチームで検討する。	・準備段階として福祉機器の活用を検討し、介護テクノロジー導入支援事業研修会に参加した。また、他事業所で活用している福祉機器を体験的に使用し、活用できるか等職員の感想を聞いた。 ・「食事評価シート」を定期的に活用して、一人ひとりが快適な食事となるよう努めた。 ・いちごはうす女性利用者が高齢者施設へ移行した。初めはご家族の希望であったが、ご本人にも数か所高齢者施設を実際に見学して、最終的に、ご本人、ケアマネ、相談支援専門員、心音支援員で話をした結果、引っ越すことをご本人が決められた。	◎

	・高齢者施設への移行を希望されている他利用者も、どのようなところなのかを知ってもらうために施設見学を実施した。	
③チーム支援を徹底し、定期的に振り返りを行うことで、職場の仲間として育ちあえる事業所をつくる。	・事業所内に「虐待防止委員会」「意思決定支援委員会」「身体拘束適正化委員会」「感染症対策委員会」の４委員会を設置した。委員会では、部署内研修として事例研究やグループワーク、読み合わせ等を実施。特にいちごはうすの高齢化や身体機能低下による介護度があがっている状況について、それぞれの委員会の視点で話し合う場面が多かった。また、全職員で活発に意見交換できるよう努め、支援の質向上を目指した。 ・年間計画を立てて、全職員から外部研修や法人内研修に積極的に参加した。また、研修参加後は、研修内容を支援会議時に共有し、一人の学びが事業所職員全員の学びになるよう努めた。事業所として支援の質を多角的に底上げできるよう、限られた職員数で日々の支援を実施している中、様々な研修に多くの職員が参加できるよう調整した。	○
④利用者を中心に、ＳＷＯＴを活用してグループホーム支援センター心音の「強み弱み」を話し合い、利用者の夢実現のため、また、職員がチャレンジできる職場環境を目指し、センター心音の未来を全員で考える。	・中長期計画策定委員会と連携し、事業所の中長期計画を全職員で考えた。ＳＷＯＴ分析では、ホワイトボードに掲示し、全職員から付箋にて意見を求めて、会議で話し合った。どのようなホーム（エリア）を目指していくのか、方向性について話し合うことができた。	○

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	３０	３１	３０	３１	３１	３０
実利用者数(名)	８６５	８９５	８８４	８８４	８８０	８７６
利用率（%）	９６．１	９６．２	９８．１	９５	９４．６	９７．３

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	３１	３０	３１	３１	２８	３１	３６５	３６５
実利用者数(名)	８８５	８６６	８６５	８５７	７７１	８３３	１０，３６１	１０，１３３
利用率（%）	９５．１	９６．２	９３	９２．１	９１．７	８９．５	９４．６	８６．７

・「死亡」「高齢者施設への移行」による退所、また、服薬調整等の理由での長期入院もあり、特に後期は利用率が９５%を下回る月が多かった。

・新規利用調整では、法人内居住系事業所内での引っ越し等の調整に時間がかかってしまった。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
支援会議	月１回	１２回	経営会議内容報告、利用者状況確認、医務からの連絡、各係からの全体周知及び各ホーム会議の内容報告、部署内研修等
ホーム会議	月１回	３６回	各ホームの利用者状況確認、課題の集約、世話人との情報共有等
担当者会議	随時	２回	利用者状況情報の共有、今後の支援検討等

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
5	9	GH向陽園研修（理事長講話）
	12	事業所内委員会活動：意思決定支援ワークブックを活用したグループワーク
6	3	事業所内委員会活動：身体拘束に関する事例検討会
	17	山形県専門研修「認知症基礎編～認知症の基礎を学ぶ～」
7	8	山形県障がい児者施設職員研修「利用者の自己決定/意思決定支援を考える」
	31	山形県専門講座「施設内の感染予防」
8	7	事業所内委員会活動：感染症対策（防護服の正しい着脱）
	18	山形県知的障害者福祉協会地域支援部会
9	2	山形県職場内ハラスメント防止研修「ハラスメントのない働きやすい職場環境づくり」
	5	事業所内委員会活動：「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き」の読み合わせ
	9	救急法事業所内研修（日本赤十字社）
	11	山形県障がい児者施設職員研修「虐待防止・身体拘束について」
	18	全国グループホーム等研修会東北地区大会
10	3	居住系会議研修
	24	山形県知的障害者福祉協会スタッフ部会芋煮会
	29～30	一泊旅行（日光方面）
12	14	3ホーム合同忘年会＆芋煮会
	16	介護テクノロジー導入支援事業研修会
1	8	山形市福祉団体連絡会研修
3	10	JIC自然災害発生時事業継続計画（BCP）研修会
	23	山形県知的障害者福祉協会地域支援部会
	26	虐待防止・身体拘束適正化事業所内研修

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
6	3	いちごはうす　水害時避難机上訓練①
9	5	来未 水害時避難確保計画の読み合わせ
	14	さくらんぼはうす 地震を想定した避難訓練
	15	来未　地震を想定した避難訓練
	20	いちごはうす　地震を想定した避難訓練
10	1	いちごはうす　水害時避難机上訓練②
	15	SMS送信サービス訓練
3	14	さくらんぼはうす 火災を想定した避難訓練
	20	いちごはうす　水害を想定した避難訓練
	22	来未　水害を想定した避難訓練（垂直避難）

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
7	28	地域連携推進会議 〇事業所の概要 ・グループホームの紹介 ・職員体制 ・暮らしについて ・地域交流について権利擁護意思決定支援の取り組み	以下の質問があり回答している ・高齢化についての制度的な仕組み及び課題等について ・看護師の役割（業務内容） ・職員配置に関する不安
3	11	地域連携推進会議 〇事業所見学（さくらんぼはうす・来未）	・どのような生活を送っているのか実際に見ることができて良かった。 ・生活している利用者から、自分の暮らしについて聞くことができた。 ・見学を拒否した利用者がいて、嫌なことはきちんと断ることができているということを知れた。

３，課題

・相談支援専門員やケアマネを中心に、ご本人やご家族の希望に沿って高齢者施設へ移行された利用者がいた。夜間帯の２名での支援体制確保や、「安心」「安全」面での生活環境、同性介助等、課題が多く、最終的にはご本人の意思で引っ越しを決めたが、「住み慣れた場所で生活を送りたい」という利用者の想いに応えられるには、どのようなことが必要なのかを改めて検討していく必要性を感じた。

・グループホーム利用者の高齢化や身体機能低下による介護度が高くなっており、一人ひとりの介助場面の時間が増え、ゆったりとした時間の中で会話を楽しみながら関わる時間が減ってしまうという課

題があげられている。介助を必要としない利用者と、何気ない会話や同じ時間を過ごしながら支援することを大切にしたいが、介護度の高い利用者を優先して業務することが増えたことで、関りが減ってしまった利用者もいる。福祉機器の導入をめざし、安全で効率的な介護の在り方を検討していきたい

・さくらんぼはうすと来未は、アパート型のグループホームで、将来は一人暮らしを希望されている利用者がいる。サテライト型住居を利用することで、一人暮らしに向けた支援が必要とされている半面、２４時間支援体制のない２つのホームの入居希望者が少なく、空床をどのように迅速に利用していただくか大きな課題となっている

・物価高騰により、生活費も高額になっている。米の価格も毎年値上がりし、障害基礎年金２級では、生活が難しくなってきている。

・いちごはうすの近くを流れている須川で熊の目撃情報が続いた。「山形県ふるさとの川愛護活動支援事業」での須川の清掃活動も実施できなくなり、生活にも影響がでてきている。

・さくらんぼはうすの建物老朽化が課題となっている。さくらんぼはうすは、自分で買い物等外出できる利用者も多く、ホームの地域資源や生活環境を含めて移転等を検討していきたい。

≪Ⅳ－８　ショートステイサービス心音≫

報告者：武田　幹

事業種別：短期入所　定員：１名　契約者数：６８名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①自分の意志でまた利用したいと思ってもらえるよう努め、人からも地域からも求められる事業所を目指す。	・ショートステイ利用者の障害特性や関わり方について、世話人も含めた全職員に理解してもらいながら支援するよう努めた。気になってしまうものは、利用前に可能な限り目に入らないよう環境を整えて受け入れる等、利用時の心身状況について家族から随時情報を聞きながら、利用時に必要な対応について全職員で確認して支援した。 ・繰り返し利用していただけるよう、小さな要望にも可能な限り応え、利用中は丁寧な支援を心がけた。また、９名のグループホーム利用者の安心安全の生活を保障しながら、ショートステイ利用の希望を受け入れられるよう調整した。 ・小さなことでも気になったことはご意見を言っていただけるよう努めた。引き続き、家族とは連絡ノート等を活用して、コミュニケーションを図った。利用時の詳細な様子を丁寧にお伝えしている。	◎

②チーム支援を徹底し、定期的に振り返りを行うことで、職場の仲間として育ちあえる事業所をつくる。	・事業所内に「虐待防止委員会」「意思決定支援委員会」「身体拘束適正化委員会」「感染症対策委員会」の４委員会を設置した。委員会では、部署内研修として事例研究やグループワーク、読み合わせ等を実施。特にいちごはうすの高齢化や身体機能低下による介護度があがっている状況について、それぞれの委員会の視点で話し合う場面が多かった。また、全職員で活発に意見交換できるよう努め、支援の質向上を目指した。 ・年間計画を立てて、全職員から外部研修や法人内研修に積極的に参加した。また、研修参加後は、研修内容を支援会議時に共有し、一人の学びが事業所職員全員の学びになるよう努めた。事業所として支援の質を多角的に底上げできるよう、限られた職員数で日々の支援を実施している中、様々な研修に多くに職員が参加できるよう調整した。	○
③短期入所事業所の横のつながりを大切にして、チームとして利用者の要望に応えられる体制をつくる。	・短期入所事業所会議に参加し、情報を共有した。また、課題等を他事業所の意見等を取り入れながら、スムーズに解決できるよう努めた。 ・要望に応えられない事例等の利用調整について、会議以外の場で積極的に連携する機会が少なかった。日頃から連絡を取り合って、小さな課題も、法人の短期入所事業所がチームとなって解決していける体制を構築していきたい。	△
④利用者を中心に、ＳＷＯＴを活用してショートステイサービス心音の「強み弱み」を話し合い、利用者の夢実現のため、また、職員がチャレンジできる職場環境を目指し、センター心音の未来を全員で考える。	・中長期計画策定委員会と連携し、事業所の中長期計画を全職員で考えた。ＳＷＯＴ分析では、ホワイトボードに掲示し、全職員から付箋にて意見を求めて、会議で話し合った。短期入所についても、どのような事業所を目指していくのか、方向性について話し合うことができた。	○

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	３０	３１	３０	３１	３１	３０
実利用者数(名)	４７	４７	４８	５６	５２	５３

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計

開所日数(日)	３１	３０	３１	３１	２８	３１	３６５	３６５
実利用者数(名)	５０	４８	４３	４２	４１	４７	５７４	５２９

（評価）

・利用者及びいちごはうす入居者の感染症の感染も減少し、急なキャンセルも少なく、年間通して１５０%前後の利用率となった。

・新規契約者は少ないが、定期的な利用が多い。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
支援会議	月１回	１２回	経営会議内容報告、短期入所利用者状況確認、医務からの連絡、各係からの全体周知、部署内研修等
ホーム会議	月１回	１２回	短期入所利用者状況確認、世話人との情報共有等

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況（GH心音と同じ）

④非常災害に対する訓練の状況（GH心音と同じ）

月日		内容
6	3	いちごはうす　水害時避難机上訓練①
9	20	いちごはうす　地震を想定した避難訓練
10	1	いちごはうす　水害時避難机上訓練②
	15	SMS送信サービス訓練
3	20	いちごはうす　水害を想定した避難訓練

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況（GH心音と同じ）

３，課題

・利用の予約は、翌月分を月初めの１日（８：３０）に電話で受け付けている。電話が集中してしまうこともあり「つながらなかった」とのご意見もいただいている。一人の利用者の、月の利用に制限を設けて、事業所で利用日程を決める等、様々な方法を検討してきた。他事業所の方法を参考にして、最善の方法を検討していきたい。

≪Ⅳ－９　児童デイサービス月のひかり≫

報告者：村上　実

事業種別：放課後等デイサービス　定員：２０名　契約者数：５６名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①　ソーシャルワークの実践	・経験を積む事での意思決定の支援 日々の活動の充実と、長期休み期間のプログラムの充実、宿	◎

	泊体験、公共交通機関の利用、大人の福祉サービス体験等の提供は計画とおり実施できた。	
②　中長期計画の作成	・地域における児童期の課題と、法人内の児童領域の位置付けを検討し切れ目のない地域社会にとって必要不可欠な資源となるような計画作成を行う。 作成は一定程度できたが、児童の方向性が地域の実情に合ったものかは今後の実践次第である。	△
③　業務効率化　DX 化	・支援教材、研修プログラム、支援のアセスメントツール等の活用を提供する事業所と契約をし支援に必要な教材やアセスメントを導入し業務効率化と質の向上を目指す。 リタリコ教材を導入したが、不登校、強度行動障害児等に活用できるツールが弱く活用しきれなかった。	△
④　支援の質の向上　行動障害児へのアプローチ	・月のひかりの強みである強度行動障害等の支援について更に対応力を高めていく。 実践研修の取得率も９割を超えることができた。また支援としても、重度の視覚障害の児童への対応も増やし、家族の介護負担軽減と就労保障に寄与した。	◎

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	25	24	25	26	22	24
実利用者数(名)	461	433	450	490	396	440
利用率（%）	92.2	90.2	90.0	94.2	90	91.6

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	26	24	24	24	22	25	291	290
実利用者数(名)	460	398	446	431	403	439	5247	5400
利用率（%）	88.4	82.9	92.9	89.7	91.5	87.8	90.1	93.1

(評価)

・今年度は感染症によるキャンセルが多かった。Ｒ６年度と比較すると利用児童が引っ越したことによる減も反映されている。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
支援会議	毎月	10	・リスク振返り ・児童の動向、家族状況等確認 ・児童ケース確認

			・関係機関会議、研修等報告
プラン会議	随時		・児童支援計画、モニタリング等
長期休みプロジェクト	休前	3	・担当割振り ・内容検討
関係機関会議	要請＆依頼	14	・学校関係との情報交換 ・課題確認、支援方法検討
振返り会議	営業日	毎日	・当日のリスク発生等の確認、ケース振返り

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
7	30	・源福寺サマーコンサート（アニマルセラピー共同）
9	9	・こども家庭庁障がい児支援室課長補佐講演（全員参加）
10	23	・権利擁護研修（虐待防止研修）
11	1	・協会権利擁護研修　伝達研修
2	26	・保護者ミニ勉強会（親と少し距離を置いた生活）

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
6	25	・避難訓練
12	19	・避難訓練

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
3	末	・苦情解決第三者委員への報告と意見聴取 令和 7 年度事故ひやり等報告	・現在集約中

３，課題

・意思形成時期の支援を大切にし、今年度も長期休みのプログラムの充実を図ってきた。
そこで分かったことは、在宅の児童であっても、私たちが当たり前に考えていた経験値が意外にも少なかったことである。有名な公共施設やショッピングセンターなど、家族で出かけているだろうと考えていた場所にあまり出かけていないことが保護者の評価で分かった。今後はその背景も考慮して企画していきたいと思う。

・障害特性や個別の能力の幅が多岐に渡り、その対応に追われグループ支援中心となり個別支援にかける時間が少なかった。スタッフの減により後半はより把握中心の支援となり、安全にその日を過ごせるかが支援の中心となってしまった。個別の課題や検討が後回しになることもあり、大きな反省点となっている。

・特性上、苦手な児童同士の配慮が多く、その結果活動の選択肢が少なくなり室内で把握中心の支援になる児童がいてその配慮が今後の課題になっている。

≪Ⅳ－１０　ショートステイサービス月のひかり≫

報告者：村上　実

事業種別：短期入所事業　定員：３名　契約者数：８０名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①ソーシャルワークの実践	・宿泊経験を積む事での意思決定の支援。入所機能がない地域での夜間支援事業所としての使命を考え提供した	○
②③放課後等デイと同じ	②③放課後等デイと同じ	

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30
実利用者数(名)	92	101	106	106	99	105

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	31	30	31	31	28	31	365	365
実利用者数(名)	100	97	119	105	107	114	1251	1473

(評価)

・R6 年度は毎月固定した利用児童（要対協対象）３名いたので、稼働は安定していたが、その３名の利用が終了して、全体的に稼働は下がった。

・新規利用希望者は多いが、夜間支援ができるスタッフ減により提供体制が整わないため稼働が上がらなかった。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
支援会議	毎月	10	・ショートステイ業務確認、新規利用児童アセス
放デイと同じ			

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況(放デイと同じ)

④非常災害に対する訓練の状況(放デイと同じ)

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況(放デイと同じ)

３，課題

・重度の方への利用促進を図り、家族の負担軽減をはかった。重度障害児者支援加算と障害児者**対応**支

援加算の取得をはかった。

・毎月、見学契約希望者がいる状況だが職員体制が整わず、稼働が上がらない状況が続いている。

・今後も提供体制としては厳しさが続くが、地域生活支援拠点の指定でもあるので緊急や困難ケースは受け入れを行っていきたい。

≪Ⅳ－１１　向陽園ホームヘルプステーション心音≫

報告者：武田　幹

事業種別：居宅介護・同行援護・行動援護・移動支援　契約者数：１７４名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①地域から求められる事業所を目指し、地域生活のあるべき姿を提示しながら、利用者やご家族の声を取りまとめ、制度や仕組みの改革及び普及に貢献していく。	・その時々の利用者の要望をお聞きし、最初から「できない」とあきらめずに、初めての体験や経験にチャレンジしてもらえるよう支援計画を立てた。 ・１回の外出が、その利用者の思い出となるよう努めながら支援した。また、その姿勢を全職員で共有できるよう会議等でヘルパーへ繰り返し伝えた。 ・自立支援協議会居宅介護部門に積極的に参加し、他事業所との交流を図った。各事業所の課題を集約しながら、事業所運営のヒントを得ることができた。 ・山形市へは提言できる機会の度に、移動支援の単価設定について、現状と要望を伝えてきた。７月より単価があがったが、単価変更額が少額であるため大きな収入増には至っていない。 ・利用者の心身状況の変化や家族を含めた環境について、全職員が共有できるように、定例の会議以外でも、日々の職員間の報連相を大切にした。 ・居住系事業所の会議に参加して、利用者情報や要望等に変化がないのか連携しながら確認した。	○
②限られた人員で多くの要望に丁寧に応えられるようサービスを管理し、働きやすい環境づくりのため「ムリ・ムダ・ムラ」を無くし、業務の効率化を目指す。	・毎週水曜日を「ノー残業デー」として、定時で退勤できるよう努めた。 ・サービス提供責任者で、お互いの業務を確認し合いながら整理し、業務の効率化を図った。 ・ヘルパー一人ひとりの、一日の勤務内容を確認し、全職員が把握できるよう、ホワイトボードの記入方法を工夫した。支援と支援の間の時間や、朝夕の支援がない時間につ	△

	いて、サービス提供責任者が管理し、必要な業務を指示できるよう努めた。	
③チーム支援を徹底し、定期的に振り返りを行うことで、職場の仲間として育ちあえる事業所をつくる。	・全職員が年２回以上外部研修に参加できるよう年間計画を立てて、全職員から外部研修や法人内研修に積極的に参加した。 ・研修参加後は、研修内容を支援会議時に共有し、一人の学びが事業所職員全員の学びになるよう努めた。また、復命書には所長やサービス提供責任者より簡単なコメントを付箋で張り出し、感謝の気持ちを伝えながら学びを共有した。	◎
④利用者を中心に、ＳＷＯＴを活用して向陽園ホームヘルプステーション心音の「強み弱み」を話し合い、利用者の夢実現のため、また、職員がチャレンジできる職場環境を目指し、居宅介護事業所の未来を全員で考える。	・中長期計画策定委員会と連携し、事業所の中長期計画を全職員で考えた。ＳＷＯＴ分析では、壁に掲示し、全職員から付箋にて意見を求めて、会議で話し合った。どのような居宅介護事業所を目指していくのか、方向性についても一人ひとりの意見を聞くことができた。	○

２，実施状況

①利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数(日)		30	31	30	31	31	30
実利用者数（名）	居宅介護	42	47	42	43	29	41
	行動援護	48	53	55	59	50	55
	同行援護	32	32	35	25	31	30
	移動支援	104	98	96	95	90	86

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R6 計
開所日数(日)		31	30	31	31	28	31	365	365
実利用者数（名）	居宅介護	43	41	43	34	36	36	469	482
	行動援護	50	56	45	47	48	51	617	606
	同行援護	29	22	22	22	25	23	328	363
	移動支援	98	91	71	94	87	91	1101	1175

（評価）

・事業所会議時に、利用者の利用希望に可能な限り応えられるよう様々なアイデアを出し合ったが、急なキャンセルや職員の休み等もあり利用実績としては大きな変化はみられていない。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
ヘルパー会議 ・居宅介護会議 ・行動援護会議	月１回	１２回	情報共有・利用者支援の検討 居宅介護及び行動援護の技術指導 身体拘束適正化に向けての話し合い

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
6	4	自立支援協議会居宅部会①
7	8	山形県障がい児者施設職員研修「利用者の自己決定/意思決定支援を考える」
	9	自立支援協議会居宅部会②
	24	山形県サービス提供責任者研修「利用者の安全管理とリスクマネジメント」
	31	山形県専門講座「施設内の感染予防」
8	6	リスクマネジメント研修「福祉施設におけるリスクマネジメントとコンプライアンス」
	21	ホームヘルパー研修1「ホームヘルプの基本と心構え」
9	1	山形県コミュニケーション向上研修1「成長とさまざまな関係形成に活かす」
	9	救急法（日本赤十字社）
	11	山形市同行援護情報交換会
	29	社会福祉法人白石陽光会　視察研修
10	14	第1回自立支援協議会居宅介護部門研修
11	18	山形県社協自主研修事業アンガーマネジメント研修
	25～	山形県社協自主研修事業メンタルヘルス研修2
12	8	安全運転講習
1	25	第2階自立支援協議会居宅介護部門研修②

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
4	4	自然災害発生時における業務継続（BCP）計画の読み合わせ
8	12	（送迎中）地震発生時の即時対応マニュアルの読み合わせ
10	15	SMS送信サービス訓練

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況　未実施

３，課題

・朝夕の時間帯（～１０：００、１６：００～）での要望が少ない。一日を通してバランスよく支援スケジュールを組み立てないと収入増にはならず、空白の時間をどのように支援するかが課題になっている。事務業務時間の工夫や、出勤退勤時間を調整する等、検討が必要と思われる。

・移動の時間は収入がないため、支援場所の組み合わせも考慮しながら支援スケジュールを組むことが望ましいが、支援に入れるヘルパーが限られていたり、固定された曜日や時間での希望であったりするため調整が難しかった。

・宮城県の居宅介護事業所へ、事業所運営についての学びとして事業所訪問を実施した。職員体制や支援内容、収支についてお聞きし、心音の事業所運営の振り返りを行った。

≪Ⅳ－１２　グループホーム支援センターみらい≫

報告者：村井　弘伸

事業種別：共同生活援助　定員：33 名　契約者数：31 名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①ソーシャルワークの原則に基づく実践	○利用者、担当機関が参加したプラン会議を実施する。どんな生活がしたいのか、聞き取りの場を大切にし、本人の想いにそったプランの作成を行う。 ・課題として、伝え方や聞き取り方に工夫が必要と感じるケースがあった為、個人に合わせた対応が必要であった。 ○利用者自身が行きたい場所、やりたい事を選ぶことができるよう、常に利用者の声に耳を傾け、支援する。 ○毎週のお楽しみメニューとして、食べたい物を自分たちで決める場を設ける。 ・食事を決める順番もご本人たちで決めており、職員・世話人と相談をしながら決めることができている。 ○担当制の強化を行い、意思決定支援がスムーズにいくような関わりを行う。 ○月１回、ホームごとの利用者と決めたイベントを実施 ・GH よつば　4 月花見　5 月未実施　6 月新規入所者との親睦会　7 月未実施　8 月ホーム外出　9 月未実施　10 月芋煮会　11 月未実施　12 月クリスマス会＆忘年会　1 月新年会　2 月のろ川に外食　3 月すたみな太郎にイベント外食 ・GH つばさ　４月、西公園散策、焼肉外食　５月誕生日イベント　６月ハムイベント　7 月未実施　8 月花火　9 月 BBQ　10 月秋祭り　11 月未実施　12 月未実施　1 月新年会　2 月焼き肉パーティー　3 月ちらし寿司 ・GH あすなろ　４月チェリーランド外出　５月未実施　６月誕生日イベント、 7 月未実施　8 月花火　9 月 BBQ　10 月秋祭り　11 月未実施　12 月クリスマス会　1 月新年会	○

	2月未実施　3月弁当会 ・GHひのき　４月未実施　５月未実施　６月未実施　7月未実施　8月　花火　9月未実施　10月　芋煮会　11月未実施　12月未実施　1月新年会　2月未実施　3月セルフクッキング ・GHはなだて　４月未実施　５月未実施　６月未実施　7月未実施　8月弁当会　9月未実施　10月秋祭り　11月未実施　12月クリスマス会　1月新年会　2月ホットケーキ作り　3月弁当会 〇花壇や畑作業、誕生会、季節の行事、お食事会その他。 ・５月、よつば利用者と苗を購入し畑作業を行っている。 〇利用者の身だしなみ、居室環境についての意識を高め、気持ちよく過ごせるように心がける。 ・環境部門、担当職員を中心にホーム、居室の環境整備を行っている。身だしなみについては、爪切り、耳掃除は曜日を決め対応している。 〇休みの日の余暇時間は、一人ひとりの望む内容で過ごせるようにする。 ・過ごす場所、過ごし方は利用者と相談をし、決めることが出来ている。ホームイベント等も声掛けを行い、参加の有無も自身で選択してもらった。 〇年4回第三者サービス評価委員会を開催し、サービスの質を向上させる。 〇地域への行事の参加や店舗等を利用し、地域との繋がりを大切にしていく。 ・100歳体操を行う場として、GHつばさを開放し、地域の方に利用して頂いた	
②IT化・DX化・業務効率化、収支状況の改善の推進	〇愛泉会クラウドを使用し、迅速な情報共有が出来るようにする。 〇稼働率の維持。体調不良の早期発見、早めの通院を行い重症化、入院等を防ぐよう、利用者の状態の変化を報告し、看護師と相談し迅速に対応を行った。 〇ホームに空きが出た際は、法人内事業所、相談支援事業所と連携を行い、空室空間をなくす。	〇
③専門性の向上と人材確保・育成	〇テーマに沿った勉強会を実施 ・GHの利用者に合わせた検討課題について、支援検討部門を中心に毎月行っている。	〇

	○世話人会議を行い、世話人と支援員のスムーズな業務の連携、快適なホーム生活を送る為に必要な話し合いを毎月１回、ホームごとに世話人会議実施している。様々な意見がでている ○みらい会議（毎月１回）を行い事業所全般の情報を共有し、今後の支援方法や方針について検討の場を毎月１回、第一火曜日に実施している。 ○報連相を徹底し、毎日のミーティングで、利用者の引き継ぎ、連絡事項、通院予定、不足物の準備等の打ち合わせを行っている。 ○支援力部門の勉強会とケース検討会を定期的に行う。 ・月１回、利用者に合わせた会議を行っている。	
④高齢化への対応	○担当職員中心に、利用者の状況の変化に応じ迅速にアセスメントの見直し、再作成を行い環境整備、食形態、健康観察等、職員が統一した支援を行えるように実施した。 ○高齢者対応について、支援力部門を中心として、各利用者に合わせた会議を行い、委員会等と連携を図っている。	○

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数（日）	30	31	30	31	31	30
実利用者数（名）	950	980	981	1002	971	953
利用率（%）	95.9	95.7	99	97.9	94.9	96.2

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数（日）	31	30	31	31	28	31	365	365
実利用者数（名）	984	952	979	949	861	953	11515	11283
利用率（%）	96.1	96.1	95.6	92.7	93.1	93.1	95.5	93.7

（評価）

・６月より新規入居者が入り、満床となったが、７月入院者１名、１月入院者１名
入院の２名ともに退所となり、稼働率の減となった。

・定期的に体調の安定を図る目的で、入院を繰り返していた方が、支援する中で入院せずにホームで過ごすことが出来ており、稼働率維持に繋げることが出来た。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
みらい会議	月１回	11	・現状報告

			・利用者支援について ・各ホーム、各担当での話し合い
世話人会議	各月 1 回	40	・現状報告 ・利用者支援について
リーダー会議	月 1 回	8	・次回みらい会議での議題について
勉強会、ケース検討会議	月 1 回	5	・専門分野の方を招いての勉強会。 ・利用者のケース検討

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
10	12	・ちとせんぼ合同秋祭り

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
6	14	・GH つばさ、あすなろ消防訓練
6	15	・GH よつば消防訓練
6	28	・GH はなだて消防訓練
6	29	・GH ひのき消防訓練
10	18	・GH はなだて消防訓練
10	19	・GH つばさ、あすなろ消防訓練
10	25	・GH ひのき消防訓練
10	26	・GH よつば消防訓練

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
7	6	・事業所サービス評価について ・事業所の概要、利用者の生活状況について	・服薬事故について、 ・事故報告の家族への連絡の有無について
9	28	・事業所サービス評価について ・自己紹介 ・グループホーム訪問、訪問後の意見交換	・5 ホームそれぞれ特徴があった。 ・古い建物においては、修繕等は早めに行って欲しい。
12	21	・利用状況について ・事故報告について ・職員自己評価アンケート ・ご家族アンケート	・服薬事故に対しての対策のご意見を頂く。 ・アンケート集計結果においては、実際にホームに来る機会が少ないため、無難な回答しか出来ない状況と思われる。施設側からの情報の発信を多くして、生活の状況を伝えていく事が大切と思われる。
2	24	・近況報告、事故報告 ・ご家族アンケートについて（回答）	・事故報告に対しての状況確認と対応についてご意見を頂く。

		・一年の生活の様子のスライドショー	・スライドショーの様子から、楽しみを持ちながら生活されている様子が伺える。 ・モニタリングとして半年に1回となっているが、その都度活動の終わりに振り替えることも大切と思う。

3，課題

・利用者支援の基本的な部分において、服装の乱れ、爪や髭が伸びていることがあり、定期的なチェック体制を組んだことにより、少しずつ改善が見られて来ている。引き続きチェック体制を強化し、適切な支援につながる様にする。

・各ホームイベントの開催頻度と企画の内容において、ホームによって偏りが見られた。利用者中心となった計画になっているのか、利用者の意見は聞けているのかを確認しながら、進めて行く必要がある。

≪Ⅳ－１２　あすなろショートステイサービス≫

報告者：村井　弘伸

事業種別：短期入所　定員：1名　契約者数：2名

1，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①ソーシャルワークの原則に基づく実践	○地域移行及び社会参加の推進。 ○短期入所利用からグループホームの体験の機会となるように取り組む。 ・他者との生活や、地域での生活を体験していただいている。 ○短期入所を利用することにより、地域での生活が継続できるようにする。 ○利用者を知るために、アセスメントの適時見直し、再作成を繰り返す。 ○利用期間中にどのような生活がしたいのかの聞き取りを行う。 ・ご家族とやり取りを行い、支援を行っている。 ○月1回、ホームイベントの日の利用の際は、参加していただけるようにした。 ・GH あすなろ　4月チェリーランド外出　5月未実施　6月誕生日イベント　7 月未実施　8 月花火　9 月 BBQ　10	○

	月秋祭り　11 月未実施　12 月クリスマス会　1 月新年会 2 月未実施　3 月弁当会	
②IT 化・DX 化・業務効率化、収支状況の改善の推進	感染防止に努めながら、受け入れの拡大を図った。	○
③GH みらいと同じ	③GH みらいと同じ	

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30
実利用者数(名)	32	27	34	34	27	30

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	31	30	31	31	28	31	365	365
実利用者数(名)	32	18	32	26	28	31	351	347

（評価）

・月曜日から、土曜日までの定期で利用されている方がおり、安定した稼働率となっている。

・ホームでの感染症対応の期間においては、感染防止の為利用を控えて頂いている。

②諸会議(GH みらいと同じ)

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況(GH みらいと同じ)

④非常災害に対する訓練の状況(GH みらいと同じ)

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況(GH みらいと同じ)

３，課題

・事業所の感染予防対策について、利用される方との意思疎通が課題とされる。ホーム内の感染拡大防止のため利用家族・日中事業所との情報のやり取りについて連携を強化していく

・平日定期で同じ方の長期利用となっていることが、引き続き課題と思われる。

≪Ⅳ－１４　デイサポートちとせんぼ≫

報告者：中村　民子

事業種別：生活介護　定員：２０名　契約者数：３４名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①ソーシャルワークの原則に基づく実践	・利用者個人に合わせたコミュニケーション手段、具体的な意思を表出できる方法の検討を日々の振り返り、プラン	○

	会議等で話し合い支援した。 ・利用者会議やモニタリング、日々の支援にて、本人の意見を伺い、出された意見に対して活動の中で実施できた事案や利用者と共に評価が出来た場面もあったが、全利用者対象には実施出来なかった。 ・障がいの重い利用者の思いの汲み取りでは、振り返りや会議等で話し合い、情報共有を通じ支援に活かせるようにした。 ・経験、体験の場の機会の提供では、コミュニティセンターへ花の水かけや製品の搬入活動、地域の方と畑活動、お祭りをとおして実施した。予定していたグループ外出については職員の不足が関係し、未実施となった。また、気候の影響で、屋外での活動が少なくなっている。 ・地域との関りとして、毎週木曜日ＧＨつばさで開催される 100 歳体操に参加している。継続して参加する事で新たな関りがあり、お祭りにもボランティアとして協力頂いた。また、新聞エコバック作成についても、100 歳体操の方よりご協力頂いている。 ・コミュニティセンターや病院の花の水やりに関しては、冬期間以外実施している。病院に行く機会が減少しており、コミュニティーセンターでの水かけの在り方も今後検討する必要がある。 ・グループホーム支援センターみらいと共同し、10 月に秋祭りを行った。昨年度より参加者も増え、地域の方がボランティアで参加してくださり、大盛況であった。 ・年４回第三者サービス評価委員会を開催した。	
②ＩＴ化・ＤＸ化・業務効率化、収支状況の改善の推進	・ケアパレット等を活用し実績の入力、日誌の確認等を行っている。 ・利用者支援のマニュアルを写真で作成し、目で見て理解する支援の取り組みを行った。 ・稼働率の向上については、夏場は稼働率が 96～97%で良かったが、冬期間は感染症により稼働率が下がっている。 ・重度障害者支援加算の算定は随時行っている。（現在 13 名）支援計画を共有し、利用者支援の配慮点を全職員で共有している。	○
③専門性の向上と人材の確保・育成	・支援力検討委員会へケース検討会を依頼し、利用者１名のケース検討を行った。利用者が過ごす環境設定へのアド	○

	バイスを頂く。 ・研修については各職員随時参加している。伝達研修は感染症やコンプライアンス研修など実施している。 ・日々の振り返りの中で、課題の共有、今後の支援方法について確認を行っている。 ・人材育成については、職員でペアを組み、相談や課題の共有、業務日誌を通じての個人の目標達成へのアドバイスの機会を持ち実施した。	
④高齢化への対応	・支援検討委員会高齢重身グループを通し、山形県立保健医療大学の丹野先生より、運動プログラムについてのアドバイスを頂いた。こちらを元に毎週室内運動の活動を取り入れ、提供している。 ・高齢期の方へ配慮した支援を行えるよう今後も継続して取り組みを実施していく。	△

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	25	24	25	26	22	24
実利用者数(名)	465	433	482	506	428	458
利用率（%）	93%	90.2%	96.4%	97.3%	97.2%	95.4%

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数日	26	23	24	23	22	25	289	298
実利用者数(名)	487	418	438	360	351	446	5,272	5291
利用率（%）	93.6%	90.8%	91.2%	78.2%	79.7%	89.2%	91.2%	88.8

（評価）

・4 月～10 月は感染症の影響も少なく、稼働率の状況も安定していた。
11 月～3 月と感染症や体調不良の方、ＧＨ利用者の様子観察の方、利用控えにより利用者数が減少となり、稼働率が下がっている。

・2 月はコロナ感染症により、クラスターが発生、事業所としての体制が整わない日があり 2 日間休業となっている。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
プラン会議	月2回	24回	利用者自身が会議に参加する事､思いを伝える事を行い、事業所間での情報共有、職員間で検討を行った。
事業所会議	月1回	12回	情報共有・疑問点等、職員間で意見交換を行った

			2 か月に一度権利擁護の自己チェックを行い、会議の際に意見交換を行った。
身体拘束防止会議	月１回	12回	事業所会議と合わせて実施 意見交換を行い、どのような場面での安全ベルトの使用か、安全ベルトを使用せざるを得ない状況であることをスタッフ間で確認している。
給食会議	年１回	１回	給食内容について

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
5		・近隣地区の方より畑を借用、種植え
6		・救急救命講習会
6	25	・グループ外出にてカラオケ、昼食外出（1 回）
7		・毎週木曜日、GHつばさにて地域の方と 100 歳体操開始、利用者も参加 ・体操後に地域の方と一緒に新聞バック作成を行った
7	16	・「利用者の権利擁護と自己決定を考える」伝達研修（講義・グループワーク）
7		感染症対策講習「基本は手洗い」 ・各コミュニティセンターにて講習に参加
9		・近隣地区の方より畑を借用、種植え
10	12	・みらい・ちとせんぼ秋祭り　地区の方にもボランティアを行って頂き実施
11		・手洗い研修
12	19	・感染症対策研修　冬の感染症対策～ノロウイルス～ 各自動画を見て研修 ・権利擁護・虐待研修（デイサポートちとせんぼ・にじいろ合同）（講義・事例を基にグループワーク）
2	16	コンプライアンス伝達研修

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
6	23	・映像を使用した防災学習 ・火災発生時の動き・火災後からの避難経路、避難時の動きなどの確認 ・けが人などの移動、運搬実技
7	23	・防災学習については、水害の危険性、避難の仕方、どこに避難をするか、ハザードマップの確認 ・訓練の想定を基に計画、対応、避難経路確認
10	28	・防災学習 ・地震・火災発生時の動き・火災後からの避難経路、避難時の動きなどの確認 ・けが人などの移動、運搬実技
3	23	・BCP　伝達研修（講義・初動対応についてのグループワーク）

⑦事業所第三者評価委員会の開催状況

月	日	内容	委員からの指摘事項
7	2	・デイサポートちとせんぼの概要説明、今後の流れについて説明、令和 6 年度から現在までの事故、ヒヤリハットの報告・目標達成計画の進捗状況を行い、ご意見を頂戴する。	・事故報告について 労働上の事故で職員が自傷を止めようとした際に指を噛まれ受傷したことへの状況説明 ・活動について、個別対応だけではなく、もう一人誰かが入る活動の提供を行う事で、他者と関わることが大切。
9	30	・前期での活動内容について ・前期の事故・ヒヤリハット・苦情について	・服薬について　事故がほとんどない状況の為継続できるようにする事。 ・車の対物の事故、離設し車両の近くにいた方など、車を動かす際にはよく確認し十分気を付けること。 ・野菜を育てているが、ミニトマトは喉に詰まりやすい為特に食べるときは特に注意が必要 ・アレルギーの情報　利用者一人一人の職員の情報共有
12	15	・GH みらい・ちとせんぼ祭り報告、令和 7 年度事業所第三者評価　ご家族アンケート調査・職員自己評価集計報告を行い、委員による質問・ご意見を頂戴する	・食事業者変更となりご家族からの要望に対しどのように改善していくか。 ・ご家族アンケート　延長支援への要望についての確認
2	24	・令和７年度の実績、１１月から現在まで新型コロナ感染症へ罹患された方が出ており、利用キャンセルとなっている方が増えている事、１月には職員２名利用者８名の計１０名の集団感染となっている事をお伝えする。また、２月２・３日では職員体制整わず、休業となっている事をお伝えする。	・感染症について、気を引き締めて今後も対応する事 ・活動に対するアンケートで、利用者の方が何を楽しみにしているか具体的に分かると今後のヒントになるのではないか。地域の高齢者と一緒に歩い

			たり、社会貢献的な関りも増えると良い。少しずつででも関わる人が増えると良い。

３，課題

・事業所の目的、特色、目的達成の為にどのような事を行っていくかの情報共有の部分で不足しているところがある。どのような目的で計画を立てているのか、職員一人一人が理解し、活動の充実、支援の向上を図る事へつなげていく事が次年度取り組む課題である。

・地域資源の活用の機会が少なかったので、体験の場面や社会資源の活用に取り組んでいく。また、グループ外出の実施が１度で終了してしまい、利用者・家族より残念であるとの声が多くあった。望まれている部分でもある為、次年度は体制を整え実現していく事が課題である。

・気温が高い日が多くなっており、年間計画の見直しが必要である。安全に楽しく活動を行う計画であるよう見直す。

・冬期間に感染症にて事業所の縮小、閉鎖などがあり、感染症予防の更なる対策を行う必要がある。

≪Ⅳ－１５　デイサポートにじいろ≫

報告者：村井　弘伸

事業種別：生活介護　定員：２０名　契約者数：２５名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
① ソーシャルワークの原則に基づく実践	・聞き取りの実施や普段の会話の中から利用者の要望を汲み取り、「やりたい事」や「食べたい物」などの要望を叶えられる活動を実施した。 ・「選択の機会」を多く設けることを意識しながら活動を実施し、意思形成支援・意思表出支援へとつなげた。 ・地域の認知症カフェへの参加、中学生職場体験の受け入れ、地域の方を招いてのにじいろ祭りなどを実施、地域の方々との交流を図った。 ・赤い羽根共同募金の活動を実施し、社会貢献と同時ににじいろを知って頂く活動を行った。 ・年４回第三者サービス評価委員会を開催し、サービスの質の向上を図った。	○
② IT 化、DX 化、業務効率化、収支状況の改善の推進	・ケアパレットの導入、活用を行った。 ・重度障害者支援加算の算定を行った。	○

	・事業所内での集団感染を防ぎ、年平均 100%の稼働率を維持した。	
③ 専門性の向上と人材育成	・リーダー研修等への参加を行った。 ・任意の研修には研修派遣を行うことが出来なった。	△

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	22	22	21	23	18	22
実利用者数(名)	483	473	455	488	372	456
利用率（%）	109.7	107.5	108.3	106	103.3	103.6

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	23	20	20	20	20	22	253	252
実利用者数(名)	472	354	398	417	409	448	5,225	5,315
利用率（%）	102.6	88.5	99.5	104.2	102.2	101.8	103.2	105.4

（評価）

・GH での感染症の発生に伴い、感染防止の為当該 GH 利用者がホーム待機となり、利用率の低下につながった

・にじいろでの感染症の集団発生はなく、営業を行うことが出来た。

・年間を通して、稼働率 100%を超えることが出来たが、年度途中より、1 名入院の為、利用減となっており、補充が出来なかった。

・祝日営業を実施した

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
事業所会議	月 1 回	12 回	報告事項、当月振り返り、翌月の予定確認、プラン業務確認、各種会議・委員会からの報告、業務進捗状況確認、利用者状況共有等
プラン会議	月 1 回	12 回	個別支援計画書に関する話し合い

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
4	23	カフェらくせい（地域の認知症カフェ）
7	22	カフェらくせい（地域の認知症カフェ）
9	13	にじいろ祭り
9	24	カフェらくせい（地域の認知症カフェ）
11	26	カフェらくせい（地域の認知症カフェ）
12	19	権利擁護・虐待防止研修

2	24	カフェらくせい（地域の認知症カフェ）
3	25	カフェらくせい（地域の認知症カフェ）

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
7	16	防災学習・避難訓練
11	25	防災学習・避難訓練

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
7	2	管理者挨拶、自己紹介、事業所概要、事故・ひやりはっと・苦情について、目標達成計画、事業所内見学	・ひやりはっとを多く出し、事故を未然に防ぐのは良い事だと思う。職員も気づきや意見を出しやすいと思う。 ・事故報告が詳細に書かれており、改善につながると感じた。
9	30	管理者挨拶、活動報告・利用状況、職員体制について、事故・ひやりはっと・苦情について	・にじいろ祭りの回覧板は江俣 1 丁目にのみ回しているが、更に受け入れ可能であれば、回す範囲を広げることも出来る。 ・稼働率に関して、お盆の時期は稼働率が下がりがちであるが、100%を維持されておりよい。 ・ボランティア講座の実施に当たり、「このようなボランティアがあれば助かる」という事を教えて欲しい。
12	15	管理者挨拶、活動報告・利用状況、職員体制について、事故・ひやりはっと・苦情について	・障害分野に限らず、施設（GH）に入りたくても入れないといった声を聞くため、施設の拡充が必要と感じる。 ・ご家族アンケートに関し、令和 6 年度と比較して改善されていると思う。 ・利用時間が延長になれば家族は助かる。時間が制限されると、働く場所も限られてしまう。兄弟に見てもらうにしても、兄弟の仕事が制限されることになってしまう。
2	24	管理者挨拶、活動報告・利用状況、職員体制について、事故・ひやりはっと・苦情について	・地域の方で「にじいろにボランティアに行きたい」と感じている方もいるが、どのようなボランティアが必要とされているのかが分からず、迷ってしまう。 ・新江俣会館や公園の利用なども検討してはどうか。

			・地域で作品展が行われることもあるので、ぜひ出展してみてはどうか。 ・楽しい思い出作りは大切だが、将来に向けた家族との話し合いも重要なのではないか。 ・親の高齢化を踏まえ、人生設計や将来支援について真摯な対話を継続していただければと思う。

3，課題

・様々な年齢、経歴の職員が在籍しており、研修をとおして支援スキルの向上を図ることが必要と思われる。事業所内研修において、職員が講師となって行う勉強会も有効であった。
・今年度実施することのできなかった、新たな製品づくりを次年度に進め、工賃アップを目指していく。
・声掛けの配慮等において、利用者が気になる部分への配慮の強化、職員同士の声掛けの仕方を工夫し、障害特性に合わせた配慮、職員間の良好なコミュニケーションに繋げていく。
・認知症カフェへの参加について、固定されている利用者の参加になっている。より多くの方が参加し、地域との繋がりが増えるように支援していく。
・外出等では行き先等の大枠を職員が決めて実施しているが、内容の詳細について、参加する利用者・職員で決めていくことも活動の幅を広げることに繋がると思われるため、次年度実施したい。
・表現活動において、やることが決まっており、繰り返しになって来ている。創作活動の準備段階でバリエーションを増やす等、幅を広げられる表現活動にする必要がある。

≪Ⅳ－１６　向陽園地域生活支援センター心音≫

報告者：會田　雄

事業種別：計画相談、障がい児相談、地域移行、地域定着

1，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①基幹相談支援センター業務と委託業務がしっかり行える体制作り。また、基幹相談支援センターの在り方の検討。	・職員体制の確保として、年度途中より相談支援専門員を１名増やすことができ、それにより、計画相談、基幹相談の役割分担をすすめることができた。 ・事務局会議で山形市と他の基幹相談支援センターと進め方等を協議できた。	○
②IT 化・DX 化等をすることで業務の効率化を図る。	・連携のツールを模索したが、実用までは至らなかった。	△

③高齢化で表面化してくる問題への適切な対応、またはその予防の措置	・同フロア内の居宅介護支援事業所と連携し関わるケースが増えており、連携する強みを発揮できている。	○

２，実施状況

①利用状況

※相談支援

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
者(件)	57	44	56	66	46	64
児(件)	9	5	8	4	8	7
計(件)	66	49	64	70	54	71

	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計	R6 計
者(件)	71	56	70	55	53	91	729	700
児(件)	4	4	6	7	7	5	74	96
計(件)	75	60	76	62	60	96	803	796

（評価）

・ケース数は一定数をキープしている。者と児の割合が、者：児＝９：１くらいになってきている。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
合同事業所会議	月1回	12回	・居宅心音と合同開催。事例検討等も隔月で同時開催した。
事務局会議	月１回	12回	・山形市自立支援協議会の部会運営の協議や、地域生活支援拠点の協議等

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
９	１１	法人内リーダー研修「ハラスメント」参加
９	１３	にじいろ心音祭り
		ＰＰＥ着脱訓練実施
12	６	介護支援専門員協会山形地区支部ケアマネフェス「介護支援専門員と相談支援専門員との交流学習会」講師

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
		ＢＣＰ作成後研修と机上訓練実施
		法人全体での通報訓練を実施

３，課題

・山形市より基幹相談支援センターへ主任相談支援専門員を１名以上必置にするよう、要望があった。現

在事業所内の主任相談支援専門員は１名であるため、段階的に資格取得へ動く必要がある。

・業務効率化の取り組みをすすめていくことが必要である。特に連携のツールの模索を今後も行っていく必要がある。

≪Ⅳ－１７　居宅介護支援事業所心音≫

報告者：寺﨑　友紀子

事業種別：居宅介護支援事業　　要介護２３名・要支援５名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①ケアマネジメントを通じた地域づくりと人財育成	相談支援専門員との日々の情報共有を行い、ダブルマネジメント実践の際は、支援のベクトルを合わせ協働し支援することができた。心音の強みが地域で認知されるようになり、世帯支援の事例を担当することが増えている。困難事例に関して、民生委員等地域の人の協力を得ながらインフォーマルも含めた支援を展開することが出来ている。	◎
②業務の効率化と安定した件数の確保	ICT の活用、事務的業務の分担、ノー残業デーの実施により昨年よりも効率化に努めることができた。ただ、安定した件数の確保は、心音だけではなく居宅介護支援事業全体の課題となっており、継続的なマネジメントが難しい現状がある。	○
③法人内の利用者の高齢化への対応	これまで実践してきた介護技術やマネジメントスキルを活用し、担当の利用者でない場合も相談を受けた際に助言をすることはできている。法人内連携に関しては、分野の違いからか課題に感じることもある。	○

２，実施状況

①利用状況

※居宅介護　　予防給付を含んだ実績数（月遅れ実績含む）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
実利用者数(名)	２０	２５	２４	２３	２３	２５

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
実利用者数(名)	２３	２３	２３	２８	２６	２６	２８９	253

（評価）

平均して月１名ぐらいずつ新規の利用者受け入れを行っているが、入院や入所等で実績が減っている

ので、結果的に利用者増になっていない現状がある。１月以降は特に要支援の利用者数が増えているので、この利用者数を維持していければと感じる。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
合同事業所会議	月１回	１２回	相談心音との合同会議、ケース進捗確認、協議、報告等の他、事例検討も隔月で行った。

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
5	２０	金井地域包括支援センター研修会「アンガーマネジメント」参加
6	２４	金井包括認知症カフェにて家族介護者と対談形式の講話
7	１６	金井地域包括支援センター研修会「金井地域の社会資源情報を共有しよう」参加
9	１１	法人内リーダー研修「ハラスメントについて」後、伝達研修
9	１３	にじいろ心音祭り
		ＰＰＥ着脱訓練実施
10	１４	金井地域包括支援センター事例検討会・幹事会
12	６	介護支援専門員協会山形地区支部ケアマネフェス「介護支援専門員と相談支援専門員との交流学習会」
2	１２	金井地域包括支援センター幹事会
2	２７	山形市虐待防止研修会オンラインにて参加後、伝達研修
3	１１	金井地域包括支援センター圏域居宅介護支援事業所交流会
3	２７	金井地域包括支援センター幹事会

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
		ＢＣＰ作成後研修と机上訓練実施
		法人全体での通報訓練を実施

３，課題

・近年、特養やGH等の入所施設に入所しやすくなっているため、在宅で暮らす利用者様が簡単に入所できてしまい、居宅介護支援事業所全体として支援期間が短くなっている現状がある。

・新規依頼が来ても支援困難事例で、なかなかサービスに繋がらないケースが増えている。サービス利用の必要性が高いため何度も訪問に行き、主治医との連携や、地域ケア会議の開催、各機関との連携など支援に多くの時間を費やしても実績に繋がらないことが課題である。その間別な依頼を受け入れることができず件数に繋がらない。

・心音の強みとして、高齢と障害の両方の専門職が居ることで世帯支援ができることである。複雑多様化している世帯全体課題へのマネジメントが増えていて、１件にかかる時間が多く、件数を多く担当することが難しい現状にある。

≪Ⅳ－１８　地域生活支援センター天花≫

報告者：藤田　利江

事業種別：相談支援　　契約者数：262 名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
① **ソーシャルワークの原則に基づく実践**	・地域生活支援拠点等の整備に向けて、相談支援部会での話し合いでリーダーシップを取った。 相談支援部会で短期入所事業所を参集し、拠点整備の説明会と研修会を行い理解を深め、整備を実現させた。	○
② **組織体制及び事業環境の見直し**	・AI などを活用した業務環境の改善と業務の効率化に着手。相談支援の DX 化の研修を受講し参考にした。事業所内で共有し、会議録や相談の記録などに一番時間がかかっていることから、セキュリティが強化されている文字起こし AI（PlaudNotePro）を導入し、令和８年度の業務から実施する。	◎
③ **専門性の向上と人材の確保･育成**	・５年ほど相談員補助として勤務している職員が初任者研修を受講し、相談支援専門員として活躍してくれるようになった。５年の補助の経験が活かされ、地道に人材育成を行ってきた成果を感じる。 ・専門性の向上については、障害児の相談支援の件数が多くなっており、家族支援と将来の視点など事業所内で研修を行い、児童相談の専門性の向上を目指してきた。様々な家庭環境がある中で連携を取る機関についても多くなり、相談員も良い刺激を受けて成長している。	◎

２，実施状況

①利用状況

※相談支援

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
者(件)	２６	２２	３３	２５	１４	２７
児(件)	５４	１６	２１	３６	２０	２７

地域移行（件）	０	０	０	０	０	０
地域定着（件）	３	３	４	３	４	４
計(件)	８３	４１	５８	６４	３８	５８

	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計	R6 計
者(件)	２４	１１	３６	２１	１３	２７	２７９	３１３
児(件)	２３	２６	２１	２８	３４	２６	３３２	２９８
地域移行（件）	０	０	０	０	０	０	０	０
地域定着（件）	３	３	３	３	３	３	３６	３８
計(件)	５０	４０	６０	５２	５０	５６	６４７	６４９

（評価）

・体制の課題により新規の相談支援が年度途中は受け入れが困難であった。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
ミーティング会議（事業所内）	毎日		・今日の予定の確認。 ・共有しておきたいケースについて情報共有。
振り返り会議（事業所内）	月1回	12	・業務の振り返り。 ・今後の支援の方向性を共有。
天童市相談支援連絡会	月1回	12	・GSV 方式のケース検討 ・天童市の相談支援事業所同士の情報共有 ・天童市自立支援協議会相談支援部会についての事前準備など
天童市自立支援協議会相談支援部会	定例会（年4回） 臨時部会（1回） 研修主催（1回）	6	・地域生活支援拠点整備に向けての話し合い。 ・地域生活支援拠点の緊急受け入れについての勉強会打ち合わせ ・地域生活支援拠点の緊急受け入れについての研修会・勉強会

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
4	24	天花ママだけ会（障がいのあるお子さんを育てているママさん同士のおしゃべり会）
5	22	天花ママだけ会（障がいのあるお子さんを育てているママさん同士のおしゃべり会）
6	26	天花ママだけ会（就労継続支援 B 型見学会、B 型事業所が経営するカフェでランチ会）
7	31	天花ママだけ会（夏休み中でお子さんと一緒の参加、ママさん同士のおしゃべり会）
8	28	天花ママだけ会（障がいのあるお子さんを育てているママさん同士のおしゃべり会）
9	18	天花ママだけ会（「まとめてみよう！サポートファイル」）
10	23	天花ママだけ会（障がいのあるお子さんを育てているママさん同士のおしゃべり会）

11	27	天花ママだけ会（天童市田麦野にある古民家「良孝庵」をお借りしてのおしゃべりとランチ会）
12	25	天花ママだけ会（冬休み中でお子さんと一緒の参加、ママさん同士のおしゃべり会）
1	22	天花ママだけ会（障がいのあるお子さんを育てているママさん同士のおしゃべり会）
2	26	天花ママだけ会（障がいのあるお子さんを育てているママさん同士のおしゃべり会）
3	26	天花ママだけ会（「大人も子どもも楽しもう！わくわくワークショップ」障がい児を育てているママさん、お子さん、きょうだい児が参加して、レジンの小物とペットボトルキャップを再利用してのモールドづくり。講師は障がい児を育てているママさんお二人）

３，課題

・地域の相談支援事業所との連携強化をすすめる。

・ケース検討を継続し、地域全体の相談支援のレベルアップをはかる。その牽引役となる。

≪Ⅳ－１９　デイサポート天花≫

報告者：高橋　誠

事業種別：生活介護　定員：20 名　契約者数：23 名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①ソーシャルワークの原則に基づく実践	○多くの利用者が参加できる活動提供と、作業や活動取り組みを通しての地域や外部との関わり構築。 ・障がいの重い方でも楽しんでいただける活動と支援の仕組み構築。（7 年度 9 月末までに） ・新たな働く活動の検討と準備をし、工賃増・新規利用者獲得を図る。（8 年 4 月より稼働）	◎
②IT 化・DX 化・業務の効率化、収支状況の改善	○エリア内事業所間協力による業務の効率化、平準化による職員の負担軽減と事故防止。 ・日中支援終了後にグループホーム利用者やショートステイ利用者の入浴支援等の協力を適宜行った	△
③高齢化への対応と事業環境の整備	○どのような利用者も安全・快適・清潔に過ごせる環境づくり。 ・行動障害の強い利用や音，動きに敏感な利用者、また高齢者・身体障害のある利用者にも対応可能な環境整備。 ・高齢利用者への接遇や支援の研修実施による対応力向上。	○

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	21	20	21	22	17	20
実利用者数(名)	376	357	367	391	303	347
利用率 (%)	89.5	89.2	87.3	88.8	89.1	86.7

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	22	18	20	19	18	21	236	240
実利用者数(名)	370	310	339	350	335	393	4,238	4,167
利用率 (%)	84.0	86.1	84.7	92.1	93.0	93.5	88.7	86.8

(評価)・感染症流行による閉所や欠席は無かった。事業所の感染症予防対策も功を奏していると考える。

・月曜日から水曜日が利用枠 1 名空き有りの状況であるので、新規利用 1 名を迎えることにより、利用率平均 90%越えになるため、1 名の新規利用者獲得を図る。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
事業所会議	月 1 回	12 回	・業務連絡、利用者情報の共有や振り返り、その他。
支援開始	概ね月 1 回	4 回	・支援方法や内容の検討、情報の共有他。
プラン会議	適時	19 回	・個別支援計画案の内容検討、新規利用者等の支援検討他。

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
5	20	BCP 研修会
9	20	事業所見学会(まるごと天花)
10	17	保護者懇談会
10	29	伝達研修(感染症について)
2	26	伝達研修(権利擁護、虐待防止)

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
5	20	・避難訓練(火災・水害想定)、職員、利用者向けの BCP 研修会
10	8	・避難訓練(火災想定、非常食体験)

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日	内容	委員からの指摘事項

2	25	・提供活動内容について ・利用者への接遇等について ・事業所見学会や保護者会の内容について	・保護者会時、テーマを決めての情報交換や勉強会的なものを開催してはどうか。 ・利用者や家族への説明時に見える化、による分かりやすい説明を。 ・活新たな活動や作業への評価。

3，課題

・新規利用者１名獲得。利用平均 90%台。

・有効な話し合いの時間の確保。支援内容改善、新たな作業や活動検討。

・事業所間の連携，協力による業務負担軽減や平準化、有給休暇の取得率を上げる。

≪Ⅳ－２０　グループホーム支援センター天花≫

報告者：阿部　憲昭

事業種別：共同生活援助　定員：１０名　契約者数：１０名

1，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①ソーシャルワークの原則に基づく実践	・事業所の支援の3本柱を基に根拠を明確にし、普段の様子や課題などについて情報共有し、支援の実践に取り組んだ。 ・地域連携推進会議を開催し、実際に事業所の取り組みを見ていただきこれからの運営に必要な意見をいただいた	○
②組織体制及び、事業環境の見直し	・隣接するデイサポート天花と連携しながら利用者支援を実施した。	○
③専門性の向上と人材の確保・育成	・外部のスーパーバイズを受ける機会は持てなかった ・事業所会議では利用者一人ひとりの情報を共有する時間を設けて日々の支援につなげている ・リスクマネージャー養成研修（上級）、中核的人材養成者研修を受講し、研修での学びを現場で共有しながら支援を行うことができた	◎

2，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30
実利用者数(名)	290	294	290	299	296	276
利用率（%）	96.6	94.8	96.6	96.4	95.4	92.0

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6計
開所日数(日)	31	30	31	31	28	31	365	365
実利用者数(名)	272	259	249	281	270	302	3,378	3497
利用率（%）	87.7	86.3	80.3	90.6	96.4	97.4	92.5	94.8%

（評価）

・９月右足関節両果骨折により１月まで入院となった利用者が１名、12 月緊急搬送により虫垂炎による穿孔との診断を受けて入院となった利用者が１名おり、利用率が下がった。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
事業所会議	月1回	12	・利用者支援、事故報告の検討、情報共有
世話人会議	月1回	12	・食事提供内容、行事について、情報共有

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
10	4	・きらりふくし祭見学　出店で昼食購入など
11	5	障害者虐待、身体拘束適正化について研修（世話人対象）
3	24	障害者虐待、身体拘束適正化について研修（支援員対象）
3	27	家族懇談会　事業報告、意見交換

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
12	20	・避難訓練（火災・通報・洪水時想定・火災報知器使用方法の確認）
3	29	・避難訓練（火災・通報・洪水時想定・火災報知器使用方法の確認）

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
12	26	・事業内容報告（事業計画・ご家族アンケート、事故報告） ・意見交換	・GH の周辺は事業所ばかりであるが地域との繋がりが課題。地域や学生ボランティアの活用など検討必要
3	9	事業所見学、利用者との意見交換	・成年後見制度について関心が高まっている。GH で勉強会を開催してみてはどうか

３，課題

・骨折や緊急搬送、その他てんかん発作の様な症状が見られ日中事業所から緊急搬送となった件があり

対応した。事業所として開所してから１０年が経過し、利用者も年齢を重ねてきており基本的な日々の支援・環境について見直し検討していく必要がある。
・限られた人員の中で、日中事業所や近隣エリアとの連携について、強化していくことが必要と思われる。

≪Ⅳ－２１　ぶどうの木ショートステイサービス≫

報告者：阿部　憲昭

事業種別：短期入所　定員：２名　契約者数：32 名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①ソーシャルワークの原則に基づく実践	・事業所の支援の３本柱を基に根拠を明確にし、普段の様子や課題などについて情報共有し、支援の実践に取り組んだ。 ・地域連携推進会議を開催し、実際に事業所の取り組みを見ていただきこれからの運営に必要な意見をいただいた。	○
②組織体制及び、事業環境の見直し	・新規利用者、通常の勤務体制での支援が困難な利用の利用時にはデイサポート天花と連携しながら支援体制を整え受け入れを行った。	○
③ＩＴ化・ＤＸ化や業務効率化、収支状況の改善の推進	・今年度は新たに３名の新規利用契約を行い、２名の方の利用に繋がっている。 ・事業所スマホの LINE を使用して利用予約を開始した。	◎
④専門性の向上と人材の確保・育成	ＧＨ天花と同じ	

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30
実利用者数(名)	76	78	73	84	76	71

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	31	30	31	31	28	31	365	365
実利用者数(名)	76	68	79	68	69	79	890	791

（評価）

・８月に感染症対応があった以外は、利用予約に基づいて受け入れを行うことが出来た
・新規契約者３名。うち２名の利用に繋げることが出来た。

②諸会議（GH天花と同じ）

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況（GH 天花と同じ）

④非常災害に対する訓練の状況（GH 天花と同じ）

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況（GH 天花と同じ）

３，課題

・利用希望者も増えており、予約の確認について課題が見られた。予定表作成後に再度ご家族の希望をダブルチェックすることで利用希望の間違いがないようにしている。

・障がいの重い方の利用希望について、日中事業所と連携を図り対応を行ったが職員体制もあり受け入れは２日が限度の状況であった。今後の利用希望についてどのように対応し、利用希望に応えていくことができるか検討していかなければならない。

・利用希望も増えており、利用希望日が重なってしまうケースが多くなってきている。何を優先して利用を決めていくのか明確な指針を決め対応していく必要がある。

≪Ⅳ－２２　地域活動支援センター天花≫

報告者：仲川　幸博

事業種別：地域活動支援センター天花　定員：20 名　契約者数 79 名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
① ソーシャルワークの還俗に基づく実践	・利用者が持っている力を発揮できるように、ピア活動を含めた活動を展開する。 ・さまざまな経験をする事で、意思形成意思決定の土台作りをする。 ・利用者も地域の（事業所の）構成員として、事業所を一緒に盛り上げていく。 ・それぞれの生活が、より豊かになるような活動を企画実践する。事業所と生活を繋げていく。 ・居場所作りとして、いつでも繋がれる場所として、利用者と力を合わせて構築する。 ・事業所を利用する事で、孤独緩和を目指す。	◎
② 専門性の向上と人材の確保、育成	・職員の支援力向上を目指し勉強会を定期開催とする。主に、精神疾患、支援理論、関わり方、アセスメントを中心	○

	に計画する。 ・職員それぞれの目標を設定し、定期的に相互確認をしていく。年間を通して実施する。	

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	21 日	20 日	21 日	22 日	17 日	20 日
実利用者数(名)	122 名	104 名	115 名	116 名	95 名	128 名
利用率（%）						

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	23 日	18 日	20 日	19 日	18 日	21 日	240 日	241 日
実利用者数(名)	172 名	119 名	130 名	99 名	113 名	118 名	1431 名	1358 名
利用率（%）								

（評価）

・利用者数は月によって波はあるが、R6 年度よりも年間利用実績数が増加している。

・お喋り会では、「休み方」「仕事」「5 年前の私、5 年後の私」「体調の保ち方」「自分へのご褒美」「精神疾患について」「不安」「モヤモヤ「体調の変化と気持ち」「働きたい衝動と心身のバランス」等、多彩なテーマで話し合った。

・勉強会では「自律神経」「あったらいいなこんな制度」「イートインマインドフルネス」「自律訓練法」「自己否定とリフレーミング」「心理的安全性」「WRAP 体験」「アイスブレイク」等、生活や体調安定に役立つテーマを設定し、メンバーと共に生活を豊かにする勉強会する事が出来た。

・ドライブでは、市内を中心とした地域資源の散策と探索、ご本人達の生活でも利用できる場所へ出掛けた。

・「いきいきふれあい健康福祉祭り 2026」にて、製作品の販売参加。地域の一員として、事業所の構成員として参加する事が出来た。貴重な経験となり、商品製作者には作業工賃を支払った。

・さまざまな活動「おたより作り」「お喋り会」「ホットプレート会」「手話教室」「美化活動」等、居場所と仲間の獲得に努めた。又、さまざまな理由で来所利用が出来ない利用者には、電話やメールでやり取りをしながら、居場所保持に努めた。

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
職員会議①	月 1 回	12 回	・当月活動報告、翌月活動予定確認 ・事業所利用実績共有 ・各メンバーに関わる事、近況等、情報共有確認等
職員会議②	週 1 回	約 60 回	・活動近況報告 ・活動予定の進行状況確認、予定共有

			・メンバーに関わる事、状況等、情報共有確認等

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
10 月	11 日	・いきいきふれあい健康福祉祭り 2025 参加 （ふらっとマルシェにて、事業所製作商品販売）
4 月	3 日	【事業所研修】（仲川、石山） リカバリー全国フォーラム（主催：精神保健福祉機構コンボ） 「ピアスタッフの大切にしたい事」 録画配信視聴（復命書有）
4 月	17 日	【事業所研修】（仲川、石山） リカバリー全国フォーラム（主催：精神保健福祉機構コンボ） 「イイトコサガシワークショップを就労移行支援機関で実践してみ～現場からの報告～」 録画配信視聴（復命書有）
4 月	24 日	【事業所研修】（仲川、石山） リカバリー全国フォーラム（主催：精神保健福祉機構コンボ） 「トラウマインフォームドアプローチ（TIA）と多様性」 録画配信視聴（復命書有）
5 月	15 日	【事業所研修】（仲川、石山） リカバリー全国フォーラム（主催：精神保健福祉機構コンボ） 「あんなときこんなとき！ 上手にかわすこころのピンチ」 録画配信視聴（復命書有）
9 月	11 日	【法人内研修】（仲川） ハラスメント防止研修 対面研修（復命書有
11 月	18 日	【研修会（仲川：発表者）】（仲川） 村山地域精神障がい者地域移行・地域定着研修会参加
1 月	30 日	【天童市社協主催】（仲川） 天童中部・成生地域、地域支え合いミーティング「やってみっ会」参加 対面研修（復命書有）
2 月	27 日	【法人内研修】（石山） KYT 危険予知訓練 オンライン研修（復命書有）

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
3	11 日	・防災の知識に関する動画視聴

３，課題

・年間利用実績では昨年度より増加しているが、日々の利用実績では１名～３名の利用の日もあり、安定した利用者数確保には困難があった。

・新規問い合わせ（見学者）は、7 名程度いたが、新規利用登録は 2 名となっている。

・支援力向上に向けた事業所勉強会について、日々の業務に追われる日も多く、計画していた専門的な勉強会を実施する事が難しい状況にあった。

・フリースペースでもある為、臨機応変さや柔軟性が良さでもあるが、事業所の活動を優先するのか、それぞれの余暇を優先するのか。又、来所している利用者によって希望が異なる為、活動の変更や予定変更等も多々ある状況である。

・心理的支援、アセスメント視点、リカバリー思考、生活重点視点、コミュケーション能力、リカバリー視点等の、専門的支援に関する事の支援力向上が必要である。

≪Ⅳ－23　多機能型事業所　なかやま虹の丘≫

報告者：亀田　亮一

事業種別　：　生活介護　定員：10 名　契約者数：13 名

就労継続Ｂ　定員：10 名　契約者数：14 名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①中山町地域生活支援拠点設置の模索	・拠点要素上必要な相談支援の立ち上げを相談するとともに、中山町とも協議の場を設けた。 ・次年度も継続検討としたい。	△
②個別支援の充実・強化	・意思決定支援の充実 意思決定プロセス（内規）を設置し、周知を図る、 ・心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練の実施 「予防的生活介護」をテーマに外部講師からの指導、口腔体操等を実施した。	○ ◎
③働く活動・労働の充実	・就労継続 B・生活介護の連携した就労支援体制の構築と実施　生活介護：チラシ事業にて通年実施。就 B 生活介護利用者への指導実施（2 名）、受注事業（段ボール作業）大幅増収。 ・生活介護における就労会計の設定～収入、経費の見える化経営分析実施、収入・支出把握を行う。	◎ ◎
④経営基盤の安定　収益の改善	・稼働率目標　生活介護　109.5%、就労継続 B　110.2% 稼働率生活介護実績 113.8%達成、就 B 実績 99.2%未達成 ・稼働日数増加への取組検討～未実施	× △

	・令和 6 年度月額平均工賃 10,000 円以上達成に伴う報酬単価アップ　達成 ・生活介護、体制変更後の人員配置体制加算の検討（配置基準 5：1 から 2.5：1 の検討）4 月から 8 月まで取得	◎ △
⑤地域貢献	・地域清掃活動の実施→実施 ・地域行事への積極参加→未実施 ・地域特産品製造に向けた準備作業→未実施	○ × ×
⑥人材の確保・育成	・エルダーメンター制度の実施、研修計画の立案・実施	△
⑦中長期計画の策定・実施	・法人中長期計画への提案・連動 令和 8 年度事業計画への連動	○

2，実施状況

①利用状況

●生活介護

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	21	20	21	22	17	20
実利用者数(名)	229	226	241	253	186	229
利用率（%）	109.0	113.0	114.8	115.0	109.4	114.5

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	22	19	20	19	18	21	240	240
実利用者数(名)	241	219	229	217	208	239	2717	2730
利用率（%）	109.5	115.3	114.5	114.2	115.6	113.8	113.2	113.8

●就労支援

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	21	20	21	22	17	20
実利用者数(名)	214	211	236	192	223	206
利用率（%）	101.9	105.5	112.4	108.2	112.9	111.5
就労事業収入	773 千円	142 千円	97 千円	189 千円	257 千円	219 千円

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
開所日数(日)	22	19	20	19	18	21
実利用者数(名)	241	206	213	208	190	210
利用率（%）	109.5	108.4	106.5	109.5	105.6	100.0
就労事業収入	69 千円	60 千円	54 千円	78 千円	32 千円	83 千円

合計	R6 計

開所日数(日)	240 日	240 日
実利用者数(名)	2,582 名	2,381 名
利用率 (%)	107.6%	99.2%
就労事業収入	2,053 千円	1,470 千円

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
部門会議(生活)	1 回/月	12 回	・利用者支援計画(援助マニュアル)、経営分析他
部門会議(就 B)	1 回/月	12 回	・利用者支援計画(援助マニュアル)、経営分析他
運営会議	1 回/月	12 回	虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会、事故防止対策委員会、防災委員会、感染症委員会実施
事業所会議	1 回/月	11 回	運営会議周知、ミニ勉強会等

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
		家族説明会
4月	26日	事業計画説明会・懇談会 4 家族 4 名出席
11 月	1日	前期事業報告説明会・懇談会(芋煮会) 6 家族 6 名出席
		事業所研修
4月	30日	「福祉サービスの利用について」 出席者8名
	30 日	「日常的意思決定支援に向けたプロセスについて 出席者8名
5月	14 日	「地域生活支援拠点について」 出席者10名
	29 日	「虐待防止について」 出席者8名
7月	31 日	「虹の丘 虐待防止体制について」 出席者6名
8月	8 日	「就労選択支援事業について」 出席者6名
9月	30 日	「日中一時支援事業ってなに？」 出席者 8 名
	30 日	「身体拘束・廃止防止手引き」(読み合わせ)出席者8名
3月	10 日	「虐待のない組織づくりと管理者の役割について(水口先生資料)」出席者 6 名

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
6月	18日	火災避難訓練(利用者22名職員8名)
2月	10日	地震避難訓練(利用者20名職員10名)

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
7月	25日	苦情解決第三者委員会	・計画が国の方向性に即したものであり進んでいると感じた。 ・中長期計画頑張ってほしい。 ・工賃向上に向け頑張ってほしい。
8月	7日	サービス評価第三者委員会	・自己評価前年より評価が下がっている人材育成・職

			場環境の整備について改善してほしい。 ・コミュニケーション支援、心強く感じた。 ・個性を生かす支援をお願いする。

３，課題

経営・支援体制の安定化が急務。

≪Ⅳ－２４　グループホーム支援センターなかやま≫

報告者：寺西　朋宏

事業種別：共同生活援助　定員：16 名　契約者数：16 名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①望む暮らしの実現	・個別外出などホーム外での楽しみや体験の支援に担当職員が中心となって取り組み、意思決定や新しい経験、人間関係の広がりにつながった。 ・コロナ禍での感染予防のために実施できなかった日帰り外出や一泊旅行を計画・実施することができた。 ・望む暮らしの調査を全利用者に対して行った。そこで出た暮らしの場での課題の検討を行った。 ・地域連携推進会議をとおして、利用者の声や地域の方の意見を取り入れることができた。２回の開催をとおして、利用者と地域の関係づくりが一歩進んだように感じられた。 ・権利擁護の取り組みについては、普段の支援での課題を振り返るとともに、虐待防止研修をとおして職員が話し合う機会をつくることにつながった。 ・令和 8 年 11 月に向陽園より体験利用を経て地域生活への移行につながった。 ・２回の選挙もほぼ全員が投票することができた。地域の手助けによる社会参加の機会となった。	○
②エリア連携と支援体制の継続	・地域課題などについてエリアでの連携や検討の機会をつくることができなかった。 ・地域での医療機関との連携をとおして、病院や特に調剤薬局からの協力の中で医務業務の効率化につながった。	△
③業務効率化と働きやすい職場	・業務分担をとおして事業所運営をより良く行うことがで	○

づくり	きた。特に請求に関する業務を分担することで、直接支援以外の業務の理解にもつながった。 ・有休取得が難しい勤務体制が続いてしまったことは課題であったが、利用者支援やその他の業務などに職員が協力して取り組んだ。	
④事業所の課題と今後の事業展開のあり方の検討	人材確保と人材育成が大きな課題であるが、自立支援協議会の中でも話題となった。地域からの認知不足も課題としてあがった。次年度は学校や学童などの訪問、職場体験先の検討などに取り組んでいきたい。	×

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30
実利用者数(名)	443	446	443	459	445	442
利用率（%）	98.4	95.9	98.4	98.7	95.6	98.2

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R6 計
開所日数(日)	31	30	31	31	28	31	365	365
実利用者数(名)	458	454	479	467	427	465	5440	5184
利用率（%）	98.4	94.5	96.5	94.1	95.3	93.7	93.1	96.6

②諸会議

会議名	開催頻度	開催数	内容
支援会議	12回	10 回	・収支状況や運営状況の確認や情報共有、各種会議・委員会の報告。 ・事故報告の検証と改善策の検討 ・利用者支援の検討
世話人会議	6 回	3 回	・食事提供について ・情報共有や利用者支援について ・虐待防止・身体拘束適正化について
事業所会議		1回	事業計画の読み合わせ

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況

月日		内容
7	25	GH なかやま家族懇談会
11	2	地区の催し「上町マルシェ」への参加
3	2	虐待防止・身体拘束適正化事業所研修(ロールプレイとグループワーク)

④非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
6	21	大雨想定（虹の丘へ避難、GH 雨宿舘利用者 7 名）
6	29	大雨想定（虹の丘へ避難、GHサニーハウス利用者 6 名）

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
7	22	・事業計画や事故状況などについての説明。 ・サービス提供状況や利用者の生活の様子などについてスライドで説明を行なった。 ・利用者アンケート結果についての説明。 ・利用者委員との生活状況についての懇談。	・外出や通院の対応などしっかりなされている。 ・生活の様子を知ることができ、利用者の声を聞いて大変なところがあることもわかった。 ・避難計画について共有できる機会をつくってほしい。 ・区分認定などで利用者と話す機会があったが、直接話を聞くことができてよかった。
3	10	・15:30～17:30 の時間帯で開催し、利用者の帰宅の様子やそのときの支援の様子を見ていただいた。GH 雨宿舘、GH サニーハウスの様子を見学してもらう。食事や休日の過ごし方、外出、災害対策などについて質疑応答を行った。 ・見学後に意見交換を行った。	・7 月の会議での課題解決に向けて改善に取り組んでいてよかった。 ・イベントや外出、地域行事への参加などよくやっていると感じた。 ・利用者が意見を言える関係性があり良いと感じた。

３，課題

・利用者の望む暮らしの実現に向けて、支援体制の基盤整備、権利擁護・虐待防止・身体拘束適正化への取り組み、愛泉会基本理念を基本として取り組んでいく。

・中山町と連携を図り、ＢＣＰの共有や災害時における要援護者の受入れなどについて、エリアでの訓練を行い、災害時の避難体制を築いていく。

・エリア内での連携を図り、利用者支援や避難訓練、事業所運営での協力体制を築いていく。

・人材確保に向けて、自立支援協議会や中山町とも連携を図り取り組んでいく。

≪Ⅳ－２５　ショートステイサービスゆるっとなかやま≫

報告者：寺西　朋宏

事業種別：短期入所　定員：1 名　契約者数：23 名

１，当初目標及び評価

目標	取り組み	評価
①ニーズに対応できる満足度の高いサービス提供	・相談や家族とのやりとりを丁寧に行い、定期の利用が定着してきている。利用を重ねるごとにショートステイにも慣れて自分のペースで過ごすことができている。 ・利用時の様子、食事内容などを家族に文書でお知らせして情報共有を図っている。	○
②地域ニーズの理解と事業展開の検討	・新規契約は６件あり、相談支援事業所にも認知されるようになってきていると思われた。また、虹の丘利用者の契約もあり、エリア内での日中サービスと短期入所のサービス利用をする方も少しずつ増えてきている。 ・家族の高齢化もみられてきており、入所施設に入居された方もいた。家族の高齢化の課題も多くなってきており、今後短期入所の需要も増えてくるものと思われた。	◎
③業務効率化とサービスの質の向上	利用時の文書作成など紙ベースのものが多く、業務効率化に取り組むことができなかった。	△

２，実施状況

①利用状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30
実利用者数(名)	31	30	34	30	30	36

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	R7 計
開所日数(日)	31	30	31	31	28	31	365	365
実利用者数(名)	36	36	35	34	33	41	406	378

②諸会議(GHなかやまと同じ)

③地域行事への参加、家族等を交えた行事、事業所研修等の実施状況(GHなかやまと同じ)

④非常災害に対する訓練の状況(GHなかやまと同じ)

⑤事業所第三者評価委員会の開催状況(GH なかやまと同じ)

３，課題

・自然災害時の対応において、BCP 訓練や夜間想定訓練、避難時の対応など課題を整理していくことが必要であった。家族への連絡や対応などについても体制整備を進めていくことが課題である。
・ホームと併設型の短期入所事業所のため、支援区分の高い方の利用ではホーム利用者の生活に影響がでてしまうことがみられた。職員を加配して支援体制を整えて利用となったが、今後も続く課題として検討していくことが必要である。
・中山町在住の方や虹の丘利用の方の短期入所利用も少しずつ増えてきている。エリア内での連携を含めて、今後も利用が増えていくような取り組みを行っていきたい。

≪Ⅳ―２６－①　事業調整課≫

報告者：渡邉　則幸

１，当初目標及び評価

目標	評価
①ソーシャルワークの原則に基づく実践について、根幹であるアドボカシーについて理解して上で進捗状況を確認し、各種課題等の解決に向けた連携を図る。	△
②意思決定支援の基本原則に基づき、本人の意思を中心とした利用者支援と参画を踏まえたサービス提供を行うため、法人と事業所間の連絡調整及び権利擁護と法令順守の視点を重視したサービス管理を行う。	△
③第２次中長期計画策定に向けて、委員会と事業部と連携し、地域共生社会の実現に向けた計画策定に多くの人が参画できる場づくりを行う。	△
④ぎゃらりーら・ら・らの円滑な運営に努める。	○

２，実施状況

計画内容	取り組み	評価
全体総括	令和７年度は、新体制が５月からの開始となったことから、年度当初は各種申請書や変更届、重要事項説明書の整備、情報公開に関する対応等、サービス管理に必要となる基盤的な準備を中心に進めた。また、その都度、事業所間における情報共有や課題確認等の連携を図るための手立てを検討し、環境整備についても具体的な方法を模索しながら一部実施した。全体として、サービス管理における必要書類の整備や事業所間の調整について着手し、一定の環境づくりを進めたものの、法人全体での統一的な仕組みづくりや運用の定着には課題を残す状況に至った。	△
サービス管理	・法人内のサービス提供事業所間の連携強化を図るため、愛泉会ク	△

	ラウドストレージの運用について随時調整を行った。委員会・会議録や各種報告書等についてクラウドストレージを活用し、全職員が情報を閲覧できる環境を整備するなど、情報共有の基盤づくりを進めた。 ・各委員会等については、５月後半から６月にかけて第１回会議を開始し、その後継続的に開催した。議事録の回覧およびクラウドストレージへの公開を行い、組織内での共有体制を図った。 ・ICT 関係では、令和７年度「障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業」の意向調査を踏まえ、グループホーム支援センター向陽園の職員を対象に見守りセンサー等のデモンストレーションを計画・実施した。３月より見守りシステムが稼働した。 ・中長期計画策定委員会を毎月企画・運営し、協議を重ねながら、第１期中長期計画の策定、パブリックコメントの実施、各事業所における SWOT 分析等を進め、法人の将来的な方向性の整理に取り組んだ。３月に第２期中長期計画が完成した。 ・事業所サービス評価第三者委員会（地域連携推進会議を兼ねる）の取り扱いについて周知を図り、議事録の回覧やクラウドストレージへの公開を通じて、地域連携および外部評価に関する共通理解の促進に努めた。 ・ND ソフトウェア「ほのぼの more」のシステムにおいて、これまで使用してきたアセスメント様式を実態に合わせて初めて改変し、各事業所において適時活用できるよう整備を行った。	
法令遵守と報告	・令和７年度の新体制開始に伴い、各種申請書や変更届、重要事項説明書、情報公開等に関する整備・対応を行い、必要な法令遵守体制の基礎を整えた。 ・福祉・介護職員等処遇改善加算の職場環境等要件については、情報公開時に具体的な内容の記載が求められたことから、法人内で実施している内容を整理し、具体的な取り組みとして分かりやすく示せるよう対応した。 ・事業所と連携し、感染症対策に関する研修を計画・実施し、基礎的な知識の共有と対応力向上に努めた。 ・愛泉会クラウドストレージを活用し、行政の動向や制度改正等の最新情報を収集するとともに、全職員が閲覧できる形で段階的に情報発信を行い、情報共有の強化を図った。 ・社会福祉援助技術実習については、各学校等からの依頼に対し積極的に実習生を受け入れ、学生の実習目的が達成できるよう事前準備と調整を行った。５月からは大学生２名の実習をグループホ	△

	ーム支援センター心音と連携して実施し、そのほかの実習生についても随時事業所と連携しながら対応した。	
ぎゃらりーら・ら・ら	※事業内容等については､｢やまがたアートサポートセンターら･ら･ら」へ記載。	○

３，課題

・基本的な３つの視点、①支援(ｻｰﾋﾞｽ)の質の保証②組織運営③法令等遵守について、サービス管理サイクルの仕組みをどのように構築していくかが大切になる。

・意思決定支援の推進については、他団体での研修参加や実践報告等を通じて知見を深めてきたが、より一層の言語化と実践の「見える化」が求められる。今後は、各種研修や実践報告を踏まえ、個別支援計画や意思決定支援会議等への反映を進め、実践レベルでの仕組みづくりを推進していく必要がある。特に、モデルとなる事業所において、サービス管理責任者業務と連動した実践の構築を進める。

・支援業務における記録については、ICT 化を進めてきているが、利用者の個人情報管理やアセスメント情報の共有、記録内容の統一など、記録整備の面で課題が残っている。利用者情報等の支援システム(ほのぼの more)は、クラウド化を活かした仕組みを構築する必要がある。

・サービス管理等については、一つひとつ確認を行いながら各事業所間で共有できる仕組みを構築する必要があり、愛泉会クラウドストレージを活用した運用のさらなる推進を図るとともに、サービス提供に関する各種データの収集・整理方法について検討を進める必要がある。

・情報開示等を含め、義務化された事項については、今後も漏れのないよう計画的かつ継続的な実施を図る必要がある。

・見守り機器、ICT 基盤整備（クラウド化・Wi-Fi 環境構築）については、法人全体の事業所で取り組む事項になる。環境の整備を進めるだけではなく、業務の効率化については、効果測定は、夜間の居室へ行く回数や記録業務時間の削減率、利用者状況の情報共有などを測定し、より実測値になる数値化して検証を行う。また、これからは、健康データの蓄積を活かし、利用者の QOL 向上と職員の働くうえでの安心感向上の双方を一緒に進める取り組みを行う。

・法人全体として、セキュリティ対策や業務システム管理体制の整備が重要になるため、計画的に進める。

・第２期中長期計画については、検討部門の設置、課題の共有から強化・解決策の検討を定期的に確認していく必要がある。検討部門を明確にし、項目における具体的な方策・スケジュール等の進捗管理を行う。

≪Ⅳ－２６－②　やまがたアートサポートセンターら・ら・ら≫

報告者：武田　和恵

１，実施内容

	取り組み
① 県内における相談支援	・障がいのある方の芸術文化活動に関する相談支援 芸術文化活動に取り組む障がいのある人やその家族、福祉事業所、学校、芸術関係者等からの電話、メール、ギャラリーや展覧会場において対面の相談を受け付け、専門家と連携し、関係機関の紹介やアドバイス、情報提供等を行った。
② 芸術文化活動を支援する人材の育成等	芸術文化活動を支援する人材の育成等／主催 4 回、共催 3 回、協力 2 回 県内 4 地域 （新規山形市）行政主催のアート展と連携し、出展団体向けに相談会や研修会を実施、表現活動の普及支援に繋がった。令和６年から継続しているアクセシビリティ研修は、障害者芸術文化活動普及支援事業広域センターの協力のもと、全国的な研修に参加し、知見やネットワークが拡がっている。また、令和６年度に実施した研修会参加をきっかけに、山形県教育局主催の研修会や、デザイナーと視覚に障がいのある方の事業を新規で実施した。
③　関係者のネットワークづくり	分野を超えた多様なつながりのネットワークづくり／主催 4 回 県内で行われている様ざまなスタイルの展覧会や、場づくりの実践を通して、障がいのある人やその家族、福祉や芸術等の専門家、行政職員等と情報交換しネットワークを築いた。 ため？何のため？こう・ふく・で ワクワクする未来をともにつくろう」
④ 芸術文化活動（鑑賞・創造・発表等）に参加する機会の確保	表現への理解を深め、価値を高める展覧会／主催 7 回、共催 4 回、協力 4 回。支援センター併設のギャラリーでの企画展、県内の作品公募展を中心に、新規の山形市を含む県内５地域（酒田市、鶴岡市、新庄市、山形市、米沢市）での展覧会支援事業と県内２地域（鶴岡市、米沢市）での巡回展を実施。人材育成事業と連動して各地域で展覧会と共に環境づくりや表現と支援の関係性について学びを深め発信した。 ■ぎゃらりーら・ら・らでの企画展…5 回 ［年間来場者 855 名 3/20 現在］ ■県内公募展と企画展「きざしとまなざし」 ■県内の各地域での展覧会・公演・鑑賞支援 ■鑑賞支援
⑤情報収集・発信	・芸術文化活動のいまを記録し発信する 障がいのあるアーティストと実際に出会い共に活動することで、障がい特性の理解やアートと福祉の可能性等がより伝わり、多様性の理解に繋

	がった。情報収集発信事業では、県内各地で行ってきた展覧会支援や人材育成の成果として生まれた活動を発信し、それらの事例をもとに各地域のエンパワーメントを強化することに取り組んだ。 ■地域講座の開催　３か所実施 ■情報収集発信事業 ①7/11-8/1 山形県における障がい者芸術文化活動状況アンケート調査［回答 55 団体個人］ ②ウェブサイトでの県内アートスペース情報発信 ・県内のアートスペース特集／民間のアトリエ３か所取材(鶴岡市、天童市、南陽市) ・アートスペース一覧情報２６カ所をウェブサイトアップ ・きざしとまなざし公募展入賞作品の紹介ページ作成 ■報道掲載 ・新聞掲載 2 回、テレビ放送 2 回、閲覧数／ホームページ 3,213 回、Facebook 3,093 回

２，評価及び課題

令和 7 年度は新規注力事業として、障がい者芸術文化活動調査発信と地域講座の開催を実施した。障がい者芸術文化活動調査発信では、障がいのある方が参加できるアートスペースの調査および情報発信、作家と作品の紹介をホームページ上で行った。この事業では、障がいのある方が芸術文化活動を始めることの一助になること、企業や芸術分野等の他分野に取り組み事例や作品を発信することによって事例をもとに取り組みが県内に拡がり、各地域のエンパワーメントを高めることを目指し活動した。
令和７年度は県内２６か所のアートスペース、民間のアトリエ３か所の活動を調査し掲載することができた。これまで県内各地で実施してきた展覧会支援や人材育成事業の成果として、地域のアーティストと連携した取り組みが生まれ、県内のネットワークが構築されてきている。また、地域のニーズを捉えて自ら活動を始めた民間の取り組みは特集として調査し紹介している。達成度の測定については、掲載拠点数（26 か所)、新規取組事例の把握数(9 か所)を指標とし、当初目標であった“県内の活動の可視化”については概ね達成したと評価する。今後はそのデータを活用して、取り組みが県内に拡がることに繋げていきたい。

次に、地域講座の開催では、障がいのあるアーティストが学校へ出向き、作品や活動の発表と対話を行う講座を実施した。この事業では、障がいのある方と地域住民が直接関わる機会を創出し、多様性の理解促進や、地域の包容力向上を目的とし実施している。令和 7 年度は、小学校 2 校（計 22 名）および大学教育学部（50 名）に対して訪問授業を実施した。講座ではアーティスト本人や家族による活動報告や作品紹介を行い、参加者が障がい特性や表現の背景に触れる機会を提供した。成果として、参加者からは「障がいの理解が具体的になった」「アートと福祉の可能性を実感できた」といった反応が得られ、体験を通じた理解促進に寄与できたと感じている。達成度については、目標実施回数(3 回)、参加者数（計 72 名)、参加後の理解度変化（アンケート等）を指標とし測定、当初目標である“直接対話による理解促進”は達成されたと評価する。

また、継続事業である人材育成においては、県内 4 か所（うち山形市は新規）の市主催アート展と連携し、相談会および研修会を実施した。継続団体に加え新規団体の参加もあり、支援の裾野拡大に繋がっ

た。さらに、アクセシビリティ研修については、広域センターと連携し全国研修へ参加したことで、専門的知見及びネットワークの拡充が図られた。加えて、令和 6 年度の研修参加を契機として、山形県教育局主催の研修会や、デザイナーと視覚障がい者が協働する新規事業が立ち上がるなど、想定外の波及効果が生まれている。これらは、支援センターが主導するのではなく、地域主体の自立的な取組として展開された点に意義があり、センターが後方支援に回ることで、持続可能かつ自走型の事業展開へと繋がっている。

さらに、鑑賞支援事業については、令和 6 年度から継続してアクセシビリティ向上研修を実施し、基礎的な理解促進や情報交換、ネットワーク形成のきっかけづくりとして一定の成果が見られた。

一方で、課題の一つとしては、実際の現場における実践事例はまだ少なく、継続的に参加している団体を中心としたワーキンググループを設置し、具体的な事例共有や試行的な取組を通じた実践的な学び合いの場を形成している。これにより、各団体が自らの現場に適用可能な形でアクセシビリティ向上に取り組める環境を整え、県内全体への普及を図っていく必要がある。

二つ目の課題としては、継続した課題ではあるが地域間における取組の格差があげられる。特に、地域連携事業や研修会への参加状況において差があり、アンケート調査においても同様の状況であった。地域の特性や課題に応じた計画の作成や働きかけを行っていく必要がある。

Ⅴ　各委員会等

≪Ⅴ－１　虐待防止・身体拘束適正化委員会≫

報告者：寺西 朋宏

１，当初目標

① 虐待防止への取り組みの整備

② 不適切な支援への対応と権利擁護の推進

③ 身体拘束適正化に向けた取り組みの整備

２，開催日及び内容

①虐待防止・身体拘束適正化委員会

回数	内容等
１	7 月 16 日(木)14：00～15:30 集合・リモート会議(ZOOM 使用)・ハイブリット形式 参加委員：8 名(内委員 出席率： 100%) 内容等： （1）年度計画の確認 （2）虐待防止チーム、権利擁護チーム、身体拘束チームに分かれて活動を行うこととした。 ・虐待防止チーム（8 月にお便り作成、通報のフローチャート作成、行動規範チェック） ・権利擁護チーム（意思決定支援の事例集作成） ・身体拘束チーム（身体拘束のアンケート、10 月にお便り作成） （3）各委員より事業所の支援の状況報告
２	12 月 25 日(木)14:00～15:15 集合・リモート会議(ZOOM 使用)・ハイブリット形式 参加委員：8 名(内委員 出席率： 100%) （1）虐待通報手順（案）の検討を行い、1 月の経営会議に諮ることとした。 （2）虐待防止の掲示物作成については、各チームでそれぞれ内容を検討する。 （3）意思決定支援の事例紹介については、お便り作成して発信できるようにする。
３	2 月 19 日(木)14:00～15:30 集合・リモート会議(ZOOM 使用)・ハイブリット形式 参加委員：6 名(内委員 出席率：75%) （1）各事業所での虐待防止の取り組み状況、報告 （2）行動規範チェックの実施について、アンケート内容の検討を行った。3 月に集計を行い報告することとする。

②権利擁護・意思決定支援委員会

回数	内容等
１	9 月 17 日(水)14：00～15:30 集合・リモート会議(ZOOM 使用)・ハイブリット形式 参加委員：6 名(内委員 出席率：75%)

	内容等： （1）年度計画の確認 （2）意思決定支援の事例報告 ・エリア委員の事業所での意思決定支援の事例報告 （3）各委員より事業所の支援の状況報告 ・各事業所の事例を集めてお便りとして発行する ・事例をとおして振り返りのきっかけとなるようにする。

３，評価及び課題

・虐待を目撃した際の通報手順を作成し、周知と掲示を各事業所に依頼した。通報手順やフローチャートの修正などについて今後検討を行うとともに、周知をとおして虐待防止につながるような働きかけを工夫したい。

・お便りの作成について各チームで内容の検討を行ってきたが、作成にまでつなげることができなかった。次年度の取り組みとして継続していきたい。

・行動規範チェックの実施が年度後半になってしまった。次年度は実施時期を早め、結果の内容検討と事業所にて行動規範チェック内容が活用できる取り組みとしていきたい。

・意思決定支援について、各事業所でのいろいろな取り組みについて話が出されたが、集約してお便りとして発行できるまでには至らなかった。意思決定の取り組みをかたちにして、支援の内容を振り返ることができるよう次年度の課題として取り組んでいきたい。

≪Ｖ－２　　リスク検討委員会≫

報告者：吉田　一斉

１，当初目標

①事故等の分析を行い、法人全体で再発防止策の共有を行う

②法人事業所の環境・設備面のリスクについて、事前にチェック回避できる体制を作る

③事故の要因分析（RCA 分析）と事故の芽に気づく視点（危険予知訓練）を各職員に浸透させ、同様の事故を繰り返さない組織作りを行う

２，開催日及び内容

回数	内容等
１	４月１４日(月)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：８名(内委員 出席率：　８０%) 内容等：法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 令和７年度事業計画の検討 服薬業務振り返りシートの実施について

2	５月１４日(水)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：７名(内委員 出席率：　７０%) 内容等：法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 令和７年度事業計画の検討 服薬業務振り返りシートの結果について
3	６月１１日(水)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：１０名(内委員 出席率：　８３%) 内容等：法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 令和７年度事業計画の検討
4	７月１６日(水)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：１１名(内委員 出席率：　９１%) 内容等：向陽園重大事故について 法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 苦情要望への対応研修会実施について
5	８月１２日(火)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：１１名(内委員 出席率：　９１%) 内容等：法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 苦情要望への対応研修会実施について 事業所訪問報告（ＧＨみらい）
6	９月１１日(木)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：９名(内委員 出席率：　７５%) 内容等：法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 苦情要望への対応研修会の結果について 服薬業務振り返りシートの実施について 事例検討（南エリア）
7	１０月１４日(火)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：８名(内委員 出席率：　６６%) 内容等：法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 ＲＣＡ研修会の実施について 事業所訪問報告（ＧＨ心音、ＧＨ天花） 事例検討（北エリア）
8	１１月１２日(水)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：６名(内委員 出席率：　５０%) 内容等：法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 安全運転振り返りシートの実施について
9	１２月１１日(木)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：１０名(内委員 出席率：　８３%)

	内容等：法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 ＲＣＡ研修会の結果について 安全運転振り返りシートの結果について 事例検討（天童エリア）
１０	１月１４日(水)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：９名(内委員 出席率：　７５%) 内容等：法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 ＫＹＴ研修会の実施について 事業所訪問報告（ＧＨなかやま、月のひかり） 事例検討（南エリア） 令和８年度事業計画について
１１	２月１３日(金)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：８名(内委員 出席率：　６６%) 内容等：法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 年間統計まとめについて 事業所訪問報告（ＧＨ向陽園） 令和８年度事業計画について
１２	３月１０日(火)10:30～12:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：１０名(内委員 出席率：　８３%) 内容等：法人統計の分析、重大事故の芽の検討、安心安全の日だよりの内容検討 年間統計まとめについて ＫＹＴ研修会の結果について

３，評価及び課題

・服薬事故ゼロのため、抜本的な対策の見直し工夫が必要。

・事故報告書作成の質向上への取り組みを、継続していく必要がある。

・事業所巡回は、互いの気づきの効果が高く、次年度も継続して実施したい。

≪Ｖ－３　支援検討委員会≫

報告者：村井　弘伸

（強行グループ：阿部憲昭　高齢・重身グループ：寺﨑友紀子　精神グループ：仲川幸博）

１，当初目標

①多種多様な方の受け入れ推進及び安全で安心した生活・活動の継続が可能となるために、多職種連携のもと委員会で検討し、１つ１つの事業所の支援力向上を図る。

２，開催日及び内容

全体会議

回数	内容等
１	5 月 15 日(木)10:00～11:30　集合（GH つばさ） 参加委員：4 名(内委員 出席率： 100%）本部：1 名 内容等： 各グループの年間計画と重点的に取り組む内容について 課題点の共有
２	3 月 25 日(水)15:30～16:30　集合（心音） 参加委員：4 名(内委員 出席率： 100%）本部：0 名 内容等： 各グループの年間計画と重点的に取り組む内容について 課題点の共有
お便り	7 月 28 日（精神）　9 月 29 日（高齢）
動画	12 月 28 日（強行）　1 月 29 日（精神）　3 月 31 日（高齢）

強度行動障害グループ

回数	内容等
１	６月 26 日(木)10:30～11:30　集合 参加委員：７名(内委員 出席率：83.3%） 内容等： 今年度活動について 動画・お便り担当者選定 委員会勉強会日程調整
２	７月 24 日(木)10:30～11:30　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：５名(内委員 出席率： 50%） 内容等： 動画・お便り内容について ケース検討会　ＧＨ天花利用者
３	８月 28 日(木)10:30～11:30　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：６名(内委員 出席率：66.7%） 内容等:ケース検討会
４	９月 25 日(木)10:30～11:30　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：５名(内委員 出席率： 66.7%） 内容等：委員会勉強会「チームアプローチについて」
５	10 月 25 日(木)10:30～11:30　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：５名(内委員 出席率： 66.7%） 内容等：動画内容検討「障がい特性」について ケース検討会　ＧＨ天花利用者

6	11 月 27 日(木)10:30～11:30　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：５名(内委員 出席率： 66.7%) 内容等：動画内容検討「障がい特性」について最終確認 委員会勉強会「月のひかりの支援について」
7	12 月 25 日(木)10:30～11:30　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：５名(内委員 出席率： 66.7%) 内容等：委員会勉強会「感覚の特性について」
8	開催中止
9	開催中止
10	３月 26 日(木)10:30～11:30　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：３名(内委員 出席率：33.3%) 内容等：今年度活動について

高齢・重身グループ

回数	内容等
1	４月２８日(月)13:30～15:00　県立保健医療大学丹野克子先生　ちとせんぼ来所 参加委員：３名(内委員 出席率： 38%) 内容等： ちとせんぼ利用者数名の生活機能に関して助言を頂く。
2	５月１６日（金）13:30～15:00　県立保健医療大学丹野克子先生　にじの丘来所 参加委員：３名(内委員 出席率： 40%) 内容等：虹の丘利用者数名の生活機能に関して助言を頂く。
3	６月４日（水）10:30～12:00　 集合 参加委員：８名(内委員 出席率： 100%) 内容等：今年度初会議。顔合わせと、高齢・重身グループ活動について説明。
4	７月１日（火）１６：５０～１９：３０　県立保健医療大学丹野克子先生　GH みらい来所 参加委員：５名(内委員 出席率： 63%) 内容等：GH 利用者の生活課題に関して助言を頂く。
5	７月２日（水）１０：３０～１１：３０リモート会議(ZOOM 使用) 参加者：７名 内容等：１年間の活動について検討。
6	７月２３日（火）１８：００～２０：００　県立保健医療大学丹野克子先生　GH みらい来所 参加委員：５名(内委員 出席率： 63%) 内容等：GH 利用者の生活課題に関して助言を頂く。
7	８月６日（水）１０：３０～１１：３０リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：７名(内委員 出席率： 88%) 内容等：食事の研修会全体の流れ打ち合わせ

	８月２１日（木）１０：３０～１１：３０リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：６名(内委員 出席率： 75%) 内容等：食事の研修会講義資料打ち合わせ ８月２７日（水）１４：００～１５：３０　研修会開催　山形市総合福祉センター 内容：「おいしく安全に食べるを支援するために」 研修会参加者：１９名　委員会メンバー：６名
	８月２９日（金）１８：３０～２０：００　研修会開催　山形市総合福祉センター 内容：「おいしく安全に食べるを支援するために」 研修会参加者：１３名　委員会メンバー：４名
	９月３日（水）１０：３０～１１：３０リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：６名(内委員 出席率： 75%) 内容等：食事の研修会振り返り、次回研修会打ち合わせ
	１０月６日（月）１６：５０～１９：３０　県立保健医療大学丹野克子先生　GH みらい来所 参加委員：３名(内委員 出席率： 38%) 内容等：GH 利用者の生活課題に関して助言を頂く。
	１０月７日（火）１３：３０～１４：３０リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：７名(内委員 出席率： 88%) 内容等：認知症サポーター養成講座打ち合わせ
	１１月５日（水）１０：３０～１１：３０リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：６名(内委員 出席率： 75%) 内容等：認知症サポーター養成講座打ち合わせ
	１２月１９日（金）１０：３０～１１：３０リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：会議録がなく参加人数不明 内容等：定例会議
	１月２３日（金）１４：００～１５：３０　研修会開催　山形市総合福祉センター 内容：「認知症サポーター養成講座」 研修会参加者：１７名　委員会メンバー：７名
	２月１８日（水）１８：００～２０：００　県立保健医療大学丹野克子先生　GH みらい来所 参加委員：２名(内委員 出席率： 25%) 内容等：GH 利用者の生活課題に関して助言を頂く。
	３月３日（火）１８：３０～２０：００　研修会開催　山形市総合福祉センター 内容：「認知症サポーター養成講座」 研修会参加者：９名　委員会メンバー：６名
	３月１１日（水）１０：３０～１１：３０リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：６名(内委員 出席率： 75%) 内容等：１年間の振り返り

精神検討グループ

回数	内容等
1	6 月 26 日(木)13:30～15:00　集合 参加委員：6 名(内委員 出席率： 86%) 内容等： ① 顔合わせ ② 活動内容共有、毎月第 4 木 13:30～共有 ③ 各月議題担当者検討、決定 ④ 【ジョハリの窓】(担当者：仲川)
2	7 月 24 日（木）13:30～15:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：5 名（内委員 出席率：71%） 内容等： ① 各月議題担当者確認、共有 ② 【氷山モデルで考える、心情理解】(担当者：仲川) ③ 研修チラシ→仲川にて作成→村井委員長へ提出→法人内共有
3	8 月 28 日（木）13:30～15:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：6 名（内委員 出席率：86%） 内容等： ① 前回振り返り ② 【精神疾患を自分事として考えてみませんか？】(担当者：東海林)
4	9 月 25 日（木）13:30～15:30　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：5 名（内委員 出席率 71%） 内容等： ① 前回振り返り ② 【事例意見交換会】(担当者：新宮)
5	10 月 23 日（木）13:30～15:30　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：4 名（内委員 出席率 57%） 内容等： ② 前回振り返り ② 【精神疾患について】(担当者：小玉) ③ コミュケーションワーク【図形伝言ゲーム】(担当者：仲川)
6	11 月 20 日（木）13:30～14:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：3 名（内委員 出席率 43%） 内容等： ① 研修動画について、内容確認、共有
7	12 月 25 日（木）13:30～15:30　リモート会議(ZOOM 使用)

	参加委員：5 名（内委員 71%） ① 前回振り返り、研修動画内容共有 ② 【スピーチロック】（担当者：高橋千） ③ コミュケーションワーク【心理的安全性】（担当者：仲川）
8	1 月 22 日（木）13:30～15:00 リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：5 名（内委員 出席率 71%） 内容等： ① 研修動画進行状況確認→1 月末に完成→村井委員長へ提出→法人内共有 ② 【昨年度研修動画振り返りと A さん（双極症）について】（担当者：鎌上） ③ コミュケーションワーク【アサーションと傾聴】（担当者：仲川）
9	2 月 26 日（木）13:30～15:00 リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：5 名（内委員 出席率 71%） 内容等： ① 前回振り返り ② 【滅びゆく地球、候補者リスト】→次年度繰り越し（担当者：村井委員長） ③ 今年度振り返り 各委員の、１年間の感想

３，評価及び課題

【全体】

・各グループ共に、定期開催にしたことにより、年間通して計画通りに委員会を開催することが出来ている。

・今年度もお便り、動画の配信を行ったが、全体への周知には至らず、多くの方に活用して貰うためにクロッシオンのお知らせ等を利用しながら活用の幅が広がる様に取り組んで行きたい。

・グループ毎に様々な取り組みを実施することが出来ている。勉強会や意見交換等を行う事で、委員メンバーの支援力の向上に繋がった面と、研修を企画、運営することによるスキルアップと法人職員に向けての支援力の向上への取り組みが出来たと思われる。

・今年度予定していた、グループ間での交流、勉強会においては、実施することが出来なったため、次年度の課題としたい。

・県立保健医療大学、理学療法士の丹野克子先生より、年 6 回来て頂き、現場での支援力の向上と、環境面での調整、勉強会等が実施でき、大きな成果に繋がったと感じる、次年度も継続し、専門職との連携が出来ればと考える。

【強行グループ】

・感染症対応等で開催中止はあったが、ほぼ予定通りに委員会の開催が出来た。今年度新たに企画した委員会勉強会については日程通りに進めることは出来なかったが、個人の興味のあること、理解を深めたいことを選び、調べることを通して委員個人のスキル、知識の向上に繋がった

・出席について委員の所属事業所の支援や行事との兼ね合いで全員参加が出来なかった。予定していたお便りの配信についても実施できなかった。

・ケース検討会に参加することも活動の一つであるが、開催や参加の依頼はほとんどなかった。多くの職員が強度行動障害支援者養成研修を受講し、事業所で支援を行っている状況があり、知識や経験がある中で委員会としてどのように介入していくことが出来るのか検討が必要

【高齢・重身グループ】

・１年を通して、委員会メンバーが積極的に参加してくれたことにより、委員会活動が活性化した。半面、活動に１度も参加しないメンバーもいて温度差を感じたことから、次年度は全員が無理なく参加できる活動回数にする必要がある。

・今年度は、初めての取り組みとして法人全体へ向けての研修会を開催した。タイムリーな法人課題をテーマに取り上げて開催することで、興味を持って参加してくれるスタッフが多く開催意義を感じた。

・研修会開催時に、研修資料の印刷等の費用もかかることから、委員会運営費を予算化することも検討が必要だと感じている。

・リハビリ職からの生活に対する助言として、県立保健医療大学丹野克子先生に訪問してもらったことは、利用者の活動性とＱＯＬの向上とスタッフの意識変化への効果があったことから、次年度も定期的な訪問を企画できれば良いと感じる。

・多くの事業所で利用者の高齢化の課題は聞かれるが、事業所からの訪問依頼が１件もなかった。事業所が利用者個々の課題に対しての気づくこと、高齢・重身グループの活動について知ってもらうことが課題である。どのような課題があるのかアンケート調査を行い、グループ活動に結び付けていくことが必要と考える。

【精神検討グループ】

・今年度は、委員の意識向上、支援力向上に取り組んだ。その為にも、各委員交代制で議題を準備してもらう事で、自身で取り組んでもらえるような体制とした。それぞれが、各自の課題や事業所で抱えている事、精神疾患に関する事等、多彩な議題となった。

・コミュケーションワークを企画する事で、対話からのアセスメントや信頼関係、傾聴力等の意識付けを実施した。まずは知る事からスタートした。

・精神疾患精神障がい者だけに限るのではなく、「心」「気持ち」に意識を向ける事が大切だと思われる。その為にも、理論や視点は関りの根拠になる為、今後も共有していく必要がある。

・精神疾患精神障がい者を、【特別な人（事）】ではなく身近な人（事）として、捉えられるようにしていく事は必須となる。

≪Ⅴ－４　政策委員会≫

報告者：會田　雄

１，当初目標

①各圏域（山形市・上山市・天童市・中山町）や山形県の自立支援協議会でどのような協議がされているかの情報共有や地域課題の確認をし、愛泉会としての優先協議事項を共有する。

②出された地域課題については、どこで提言を行うか、どこで協議を行うか、等の整理を行う。

２，開催日及び内容

回数	内容等
１	9 月 1 日(月)10:00～11:00 リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：9 名(内委員 出席率： 100%) 内容等：自立支援協議会の動きの確認、山形市長と語る懇談会への要望事項のまとめ
２	11 月 4 日(火)15:00～16:00 リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：8 名(内委員 出席率： 88%) 内容等：各自立支援協議会の動きの確認、山形県障害福祉課長との懇談会での要望事項、次期報酬改定についての意見収集

３，評価及び課題

・おおむね、計画通り実施できた。しかし、山形市長と語る懇談会や山形県障害福祉課長との懇談会の動きの把握がうまくいかず、要望事項提出期日ぎりぎりの開催となってしまった。

・要望を出すことが目標となってしまっているところがあり、その後の動きの確認や、直接の課題解決へのアプローチ等ができていないことが課題としてあげられる。そのあたりは政策委員会の役割の確認や執行機関との連携等が必要と思われる。

≪Ⅴ－５　衛生委員会≫

報告者：武田　幹

１，当初目標

愛泉会で働く全ての職員の安全と健康を確保するため、事故防止、職場点検及び心身の健康相談等に取り組み、健康障害予防や労働災害防止に努める。また、職員の意見を反映しながら、快適な職場環境を目指す。

２，開催日及び内容

回数	内容等
１	７月３１日(木)13:30～14:30　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：８名(欠席委員３名 出席率：７３%) 内容等：令和６年度衛生委員会活動報告 令和７年度愛泉会衛生委員会（案）について 令和７年度活動について
２	９月３０日(火)10:30～11:30　協会けんぽ事業所訪問型健康づくりセミナー 参加者：１７名

	会　場：本沢コミュニティセンター 内容等：カラダ年齢測定会＆体力若返り教室
３	１１月１日（土）～１２月１日（月）　協会けんぽビデオオンデマンド型健康づくりセミナー 内容等：ストレスセルフケア

３，評価及び課題

・協会けんぽ事業所訪問型及びビデオオンデマンド型健康づくりセミナーを開催することができた。
・委員会の開催が１回のみとなってしまった。前期後期で１回以上開催できるようにしたい。
・他委員会と重なる内容も多く、啓発運動等は他委員会とも連携しながら、衛生委員会での発信が必要な啓発運動を明確にして取り組みたい。
・今年度取り組めなかった活動等は、確実に実施できるよう振り返りも含めて次年度に引継ぐ。

≪Ｖ－６　　研修検討委員会≫

報告者：吉田　一斉

１，当初目標

①法人実施研修の効果について、事業所長からの意見を事業部（エリア）毎に集約し、あわせて支援現場で必要な研修企画について、法人事務局へ提案していく。
②各委員会、各会議主催の研修、勉強会の調整機能を果たす（実施主体の役割分担、内容、時期、頻度等）。

２，開催日及び内容

回数	内容等
１	６月１２日(木)13:00～14:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：７名(内委員 出席率：　８７％) 内容等：階層別研修についてのエリアからの意見 中堅職員・リーダー・管理職研修についての希望確認 法人内研修の役割分担について
２	９月２２日(月)13:00～14:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：８名(内委員 出席率：　１００％) 内容等：階層別研修についてのエリアからの意見 中堅職員・リーダー・管理職研修についての意見 法人内研修のスケジュール確認
３	９月２２日(月)13:00～14:00　リモート会議(ZOOM 使用) 参加委員：８名(内委員 出席率：　１００％) 内容等：法人研修の進捗確認 法人研修体系（案）について

	令和８年度事業計画について

３，評価及び課題

・法人内階層別研修の内容について、引き続き提言を実施していく。

・義務化研修、法人研修、各委員会／各会議開催の研修と、研修回数が増加している現状である。職員育成の上で必要な研修内容と対象階層の整理、内容及び時期の重複を避けた開催の分担計画の管理を引き続き実施していく。

・法人研修体系について、研修ニーズに合わせて随時更新していく必要がある。

≪Ｖ－７　表現活動推進委員会≫

報告者：深瀬　和美

１，当初目標

①法人事業所を利用している方の表現・創作活動を支援し、それを支援するスタッフへの情報提供と技術的な 支援育成を継続的に行う

２，開催日及び内容

回数	内容等
1	わくわくひょうげんの泉展 企画展担当者会議及び ワークショップ 令和７年３月１７日 顔合わせ、方向性の確認 令和７年４月１０日 テーマ、タイトル決定 令和７年６月２７日 ワークショップ打ち合わせ 令和７年５月１５日 ワークショップ（虹の丘） 令和７年６月１７日　　〃 令和７年６月２４日　　〃 令和７年７月１４日～８月３０日 展示
2	令和８年２月２７日 外部講師による研修会開催 テーマ「福祉になぜアートが必要なのか。～ソーシャルアート、障がいのある人とアートで社会を変える～」 講師：鈴木励滋氏（神奈川県横浜市） 参加者：第１部　８名、第２部　１３名

３，評価及び課題

・委員会会議が未実施となったが、やまがたアートサポートセンターららスタッフを中心に法人展示会の企画運 営や公募展等の情報提供を実施した。

・研修アンケートより、日々の実践について話し合う、学び合い実践に活かしたいという希望が多数ある

ことが分かった。担当者会議の必要性や現場のニーズに合わせた学び（研修会）の機会を検討していく必要がある。

≪Ⅴ－８　感染症対策委員会≫

報告者：渡邊　恵理

１，当初目標

①法人の感染症対策指針、感染症対策及び業務継続に係る検討と協議を行う。

②全職員に対し感染症への基本的な知識や予防対策の周知と啓発を行う。

２，開催日及び内容

回数	内容等
１	5 月 14 日(水)13:30～15:00　集合会議 参加委員：9 名(内委員 出席率： 100%) 内容等：今年度の取り組み、研修会（年２回）内容・日程調整、 PPE の取り扱い、コロナ・インフルエンザ検査キット管理・運用方法説明
２	9 月 10 日(水)13:30～15:00　集合会議 参加委員：7 名(内委員 出席率： 100%) 内容等：第２回感染症対策研修の進め方、車内での嘔吐物処理マニュアル案の協議、第１回感染症対策研修の進捗状況
３	11 月 12 日(水)13:30～15:00　集合会議 参加委員：7 名(内委員 出席率： 80%) 内容等：感染症拡大防止に関する協議、第２回感染症対策研修の動画作成、車内設置用の嘔吐物処理キットの物品振り分け
４	1 月 14 日(水)13:30～15:00　集合会議 参加委員：6 名(内委員 出席率： 80%) 内容等：GH・日中事業所における衛生マニュアル案の協議、各事業所感染症発生状況報告、公用車嘔吐物処理キット設置状況確認、第１回・第２回感染症対策研修進捗状況
５	3 月 11 日(水)13:30～15:00　集合会議 参加委員：6 名(内委員 出席率： 80%) 内容等：危険手当の今後の在り方について協議、今年度の振り返り、来年度にむけて、抗原キットの管理・運用方法の協議

３，評価及び課題

・年２回の研修会の実施の他、現場からの意見を踏まえ、公用車への嘔吐物処理キットを設置することができた。

・嘔吐物処理キットの使用方法の周知は不十分であったため、使用方法を伝える機会が必要である。

・資料配布や動画研修だけでは理解度や実践力に不安を持つ職員もいるため、どのような形で研修を実施するか検討していく必要がある。

≪Ｖ－９　第２期中長期計画策定委員会≫

報告者：亀田　亮一

１，当初目標

①第２期中長期計画の策定

２，開催日及び内容

回数	内容等
１回	R7.1.27（月）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：11 名（出席率 100%）事務局４名（出席率 100%） 1，策定の目的について 2，委員会設置委員選定の趣旨について 3，自己紹介 4，次第 1）策定の方法について 2）第１期愛泉会中期経営計画の総括について 3）計画策定における情報の共有について 4）スワット分析について
２回	R7.3.18（月）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：7 名（出席率 64%）事務局 2 名（出席率 50%） １，第２期中長期計画骨子たたき台について ２，パブリックコメントの発出について ３，スワット分析の実施について ４、事業所・委員会・会議における中長期計画の作成及び中長期計画への提言について
３回	R7.4.15（月）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：　名（出席率　%）事務局　名（出席率　%） 1，令和７年度愛泉会事業計画基本方針の確認について 2，進捗状況の確認 1）第１期中期経営計画総括の集計状況について 2）スワット分析の実施の確認（第２回策定委員会資料再 3）事業所・施設における中長期計画の策定及び第２期中長期計画への提言の提出について 3，パブリックコメントの様式について
４回	R7.5.20（火）10：00～12：00　集合（法人本部）

	参加委員：8 名（出席率 73%）事務局 3 名（出席率 75%） １、第 2 期愛泉会中長期計画策定に関する基本的な考え方について ２、令和 7 年度愛泉会事業計画基本方針の確認について ３，進捗状況の確認 1）第 1 期中期経営計画総括の集計状況について 2）スワット分析の実施 3）事業所・施設における中長期計画の策定及び第２期中長期計画への提言の提出について
５回	R7.6.24（火）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：10 名（出席率 91%）事務局 3 名（出席率 75%） １、第 2 期愛泉会中長期計画策定に関する基本的な考え方について ２、進捗状況の確認 1）第 1 期中期経営計画総括の集計状況について 2）スワット分析の実施～各事業所における実施状況 3）事業所・施設における中長期計画の策定及び第２期中長期計画への提言の提出について 4）パブリックコメントの様式について ３、中長期計画の全体構想について 1）法人基本理念の検討 2）策定の意義・目的について 3）骨子案について ４，法人の経営状況の確認 ５，役割分担について
６回	R7.7.15（火）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：10 名（出席率 91%）事務局 3 名（出席率 75%） １、進捗状況の確認 1）第 1 期中期経営計画総括の集計状況について 2）スワット分析の実施 3）事業所・施設における中長期計画の策定及び第２期中長期計画への提言の提出について 4）パブリックコメントの様式について ２、中長期計画の全体構想について ３，役割分担について
７回	R7.8.26（火）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：9 名（出席率 82%）事務局 2 名（出席率 50%） １、進捗状況の確認 1）第 1 期中期経営計画総括のコメント記入状況 2）法人スワット分析の集計 3）事業所・施設における中長期計画の策定及び第２期中長期計画への提言の収集状況 4）パブリックコメントの収集状況

	2、本計画の全体構想について 1）法人基本理念の検討 2）策定の意義・目的について 3）骨子案について ３，本計画の予算案について～田中課長補佐 ４，役割分担について再確認
８回	R7.9.16（火）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：10 名（出席率 91%）事務局 3 名（出席率 75%） １、進捗状況の確認 1）第 1 期中期経営計画総括報告～亀田 2）法人スワット分析の集計報告～高橋・岸 3）パブリックコメントの収集状況報告～中村・吉田 4）法人事業所・会議中長期計画集約～武田・寺崎 5）経営計画・予算案作成～田中・中西 6）第２期中長期計画全体構想たたき台作成状況報告～亀田 ２，経営に関する基本的な考え方について
９回	R7.11.18（火）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：10 名（出席率 91%）事務局 2 名（出席率 50%） １，前会議の確認 ２、第 2 期愛泉会中長期計画骨子たたき台案について ３、今後の中長期計画策定委員会の進め方について 1）法人理念の検討 2）各大項目の中項目の検討 3）次年度以降の資金（予算）計画案の提案（各事業所）
10 回	R7.12.5（金）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：3 名（出席率 27%）事務局 2 名（出席率 50%） １，前会議の確認 1）10 月調整会議による骨子（5 つの大項目）の承認 2）5 つの大項目に 6 つ目として「イノベーション基本計画」の追加 3）全職員による各大項目の内容（キーワード、中項目）検討のためのキーワード提案 ２，中長期計画（案）における大項目（骨子）の確認 1）経営基本計画 2）福祉サービス基本計画 3）働きがいのある職場づくり基本計画 4）地域福祉推進基本計画 5）社会貢献基本計画 6）イノベーション基本計画

	３，各大項目に対するキーワード、中項目の説明 ４，収益アップに向けた提案 ５，法人理念、本計画理念・ビジョン等への提案
11 回	R7.12.16（火）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：8 名（出席率 73%）事務局 3 名（出席率 75%） １，前会議の確認 1）全職員による各大項目の内容（キーワード、中項目）検討のためのキーワード確認 2）各大項目に対するキーワード、中項目の説明 ２，中長期計画（案）における各大項目に対するキーワード、中項目について
12 回	R8.1.20（火）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：9 名（出席率 82%）事務局４名（出席率 100%） １、進捗状況の確認 ２、スケジュール ３、これからの業務について
13 回	R8.2.17（火）10：00～12：00　集合（法人本部） 参加委員：10 名（出席率 82%）事務局４名（出席率 100%） １，進捗状況の確認 ２，スケジュール ３，第 2 期中長期計画案、資料集について ４，これからの業務について 1）本計画案の作成のための校正・校閲・修正作業～役割分担） 2）資料集の確認（校正・校閲） 3）本計画サブタイトルの検討 4）本計画目標達成確認シートの作成と業務引継ぎについて 5）完成版配布の検討～お礼状含む 6）本委員会総括
14 回	R8.3.17（火）10：00～12：00　集合（法人本部） １、３月６日　調整会議最終提出報告について ２、今後の業務について 1）本計画目標達成確認シートの作成と業務引継ぎについて（理事長提出、3 月末まで） 2）完成版配布の検討～お礼状含む ３、本委員会総括

３，評価及び課題

・策定委員会による計画立案とし、全職員からの意見聴取を行うも具体性のある提案が少なかった。策定の目的や計画策定プロセスが十分に浸透できなかった。

・策定委員会の個別評価から、「法人全体を知る機会」「良い経験になった」との声有、今後の法人経

営に生かされるものと期待する。

・相対的で抽象的な計画にとどまる。今後プロジェクトチームによる具体的な計画立案が待たれる。

Ⅵ　参考資料

１　日中系事業所　利用実績

①　利用状況

令和８年３月 31 日現在(単位：名)

	定員		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
向陽園	40	開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269	
生活介護		実利用者数	805	863	852	871	844	808	845	756	795	817	653	825	9,734	
		利用率(%)	91.4%	93.8%	96.8%	94.6%	91.7%	91.8%	91.8%	85.9%	86.4%	88.8%	81.6%	89.6%	90.4%	
		平均利用者数	36.6	37.5	38.7	37.9	36.7	36.7	36.7	34.4	34.6	35.5	32.7	35.9	36.2	
		工賃支払額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
さくら	20	開所日数	22	22	22	23	19	22	23	20	21	20	20	22	256	
生活介護		実利用者数	496	445	492	515	424	499	517	440	445	423	392	438	5,526	
		利用率(%)	112.7%	101.1%	111.8%	111.9%	111.5%	113.4%	112.3%	110.0%	105.9%	105.7%	98.0%	99.5%	107.8%	
		平均利用者数	22.5	20.2	22.3	22.3	22.3	22.6	22.4	22	21.1	21.1	19.6	19	21.5	
		工賃支払額	135,400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11,283	令和6年度分
たんぽぽ	20	開所日数	22	22	22	23	19	22	23	20	21	20	20	22	256	
生活介護		実利用者数	457	439	464	489	399	465	478	416	442	414	411	428	5,302	
		利用率(%)	103.8%	99.7%	105.4%	106.3%	105.0%	105.6%	103.9%	104.0%	105.2%	103.5%	102.7%	97.2%	103.5%	
		平均利用者数	20.8	20.0	21.1	21.3	21.0	21.1	20.8	20.8	21.0	20.7	20.6	19.5	20.7	
		工賃支払額	119,700	0	0	0	159,150	0	0	0	259,910	0	0	0	44,897	
ちとせんぼ	20	開所日数	25	24	25	26	22	24	26	23	24	23	22	25	289	
生活介護		実利用者数	465	433	482	506	428	458	487	418	438	360	351	446	5,272	
		利用率(%)	93.0%	90.2%	96.4%	97.3%	97.2%	95.4%	93.6%	90.8%	91.2%	78.2%	79.7%	89.2%	91.0%	
		平均利用者数	18	18	19	19	19	19	18	18	18	15	15	17	17.8	
		工賃支払額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
にじいろ	20	開所日数	22	22	21	23	18	22	23	20	20	20	20	22	253	
生活介護		実利用者数	483	473	455	488	372	456	472	354	398	417	409	448	5,225	
		利用率(%)	109.7%	107.5%	108.3%	106.0%	103.3%	103.6%	102.6%	88.5%	99.5%	104.2%	102.2%	101.8%	103.1%	
		平均利用者数	21.9	21.5	21.6	21.2	20.6	20.7	20.5	17.7	19.9	20.8	20.4	20.3	20.6	
		工賃支払額	0	0	0	0	0	24,280	0	0	0	0	0	12,210	3,041	
デイ天花	20	開所日数	21	20	21	22	17	20	22	18	20	19	18	21	239	
生活介護		実利用者数	376	357	367	391	303	347	370	310	339	350	335	393	4,238	
		利用率(%)	89.5%	89.2%	87.3%	88.8%	89.1%	86.7%	84.0%	86.1%	84.7%	92.1%	93.0%	93.5%	88.7%	
		平均利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
		工賃支払額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
虹の丘	10	開所日数	21	20	21	22	17	20	22	19	20	19	18	21	240	
生活介護		実利用者数	178	175	186	197	145	178	186	168	177	167	160	185	2,101	
		利用率(%)	84.6%	87.6%	88.6%	89.3%	85.0%	88.7%	84.6%	88.4%	88.6%	87.6%	89.0%	88.2%	87.5%	
		平均利用者数	8.5	8.8	8.9	8.9	8.5	8.9	8.5	8.8	8.9	8.8	8.9	8.8	8.8	
		工賃支払額	0	0	0	0	0	35,580	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	84,511	10,841	130,091
地活天花		開所日数	21	20	21	22	17	20	23	18	20	19	18	21	240	
－		実利用者数	122	104	115	116	95	128	172	119	130	99	113	101	1414	
		利用率(%)														
		工賃支払額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※生活介護のみ：平均利用者数（７時間未満：0.75、５時間未満：0.5 を勘定したもの）

②　利用状況　就労支援

	定員		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
虹の丘	10	開所日数	21	18	22	22	18	19	21	20	20	19	18	22	240	
就労B		実利用者数	214	211	236	238	192	223	241	206	213	208	190	210	2,582	
		利用率(%)	101.9%	117.2%	107.2%	108.1%	106.6%	117.3%	114.7%	103.0%	106.5%	109.4%	105.5%	95.4%	107.5%	
		工賃支払額	80,300	75,500	255,050	83,250	68,450	76,800	111,800	87,600	313,100	97,650	90,350	296,181	136,336	

①-1　生活介護 利用者居住地（現住所）　　令和８年３月 31 日現在（単位：名）

	定員	山形市	上山市	天童市	中山町	山辺町	その他	計
向陽園	40	44	7	3	1	1	6	62
さくら	20	26	4	2	1	1	4	38
たんぽぽ	20	21	2	1	0	0	0	24
ちとせんぼ	20	31	0	0	0	3	0	34
にじいろ	20	23	1	0	0	0	1	25
デイ天花	20	7	0	8	1	1	6	23
虹の丘	10	3	0	0	7	2	1	13
計		155	14	14	10	8	18	219

①-2　生活介護 手帳保持状況

			療育手帳		身体手帳		精神手帳	
	定員		A	B	1～2級	3～6級	1級	2～3級
向陽園	40		54	8	7	2	1	0
さくら	20		29	9	3	3	0	0
たんぽぽ	20		21	3	4	1	0	0
ちとせんぼ	20		26	8	4	3	0	0
にじいろ	20		25	0	1	1	0	0
デイ天花	20		22	1	0	0	0	0
虹の丘	10		10	2	1	0	0	0
計			187	31	20	10	1	0

①-3　生活介護 年齢構成　　令和８年３月 31 日現在（単位：名）

	定員	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計 （平均年齢）
向陽園	40	0	7	18	18	13	6	4	0	66 （45.7歳）
さくら	20	1	5	9	13	4	3	5	0	40 （46.2歳）
たんぽぽ	20	0	5	7	4	2	3	3	0	24 （43.1歳）
ちとせんぼ	20	0	8	7	7	4	3	3	2	34 （45.1歳）
にじいろ	20	0	13	1	2	3	4	2	0	25 （40.8歳）
デイ天花	20	0	8	5	8	1	1	0	0	23 （36.1歳）
虹の丘	10	2	6	1	3	0	1	0	0	13 （32.3歳）
計		3	52	48	55	27	21	17	2	

①-4　生活介護 障害支援区分

	定員	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計 （平均区分）
向陽園	40	0	0	0	0	6	21	35	62 （5.5）
さくら	20	0	0	0	0	7	14	17	38 （5.3）
たんぽぽ	20	0	0	0	0	5	14	5	24 （5.0）
ちとせんぼ	20	0	0	1	1	8	10	14	34 （5.0）
にじいろ	20	0	0	0	0	2	14	9	25 （5.3）
デイ天花	20	0	0	0	0	6	14	3	23 （4.9）
虹の丘	10	0	0	0	1	6	5	1	13 （4.5）
計		0	0	1	2	40	92	84	219

②-1　就労事業所　利用者居住地（現住所）

	定員	山形市	上山市	天童市	中山町	山辺町	その他	合計
虹の丘 就労B	10	1	0	0	10	3	0	14
エコもとさわ 就労A	10	2	1	0	0	0	0	3
計		3	1	0	10	3	0	17

②-2　就労事業所 手帳保持状況

	定員	療育手帳		身体手帳		精神手帳	
		A	B	1～2級	3～6級	1級	2～3級
虹の丘 就労B	10	5	8	0	0	0	0
エコもとさわ 就労A	10	0	3	0	0	0	0
計		5	11	0	0	0	0

②-3　就労事業所　年齢構成

	定員	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計 (平均年齢)
虹の丘 就労B	10	0	3	5	0	3	3	0	0	14 (44.6歳)
エコもとさわ 就労A	10	0	0	1	0	1	1	0	0	3 (50.3歳)
計		0	3	6	0	4	4	0	0	17

②-4　就労事業所 障害支援区分

	定員	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計 (平均区分)
虹の丘 就労B	10	2	1	2	5	3	1	0	14 (2.6)
エコもとさわ 就労A	10	3	0	0	0	0	0	0	3
計		5	1	2	5	3	1	0	17 (3.0)

③-1 地域活動支援センター　利用者居住地（現住所）

	山形市	上山市	天童市	中山町	山辺町	その他	合計
地活天花－	11	0	52	0	0	16	79

③-2 地域活動支援センター　手帳保持状況

	療育手帳		身体手帳		精神手帳	
	A	B	1～2級	3～6級	1級	2～3級
地活天花－	0	4	0	1	5	34

③-3 地域活動支援センター　年齢構成

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計 （平均年齢）
地活天花－	1	8	15	20	21	12	2	0	79 45～55

③-4 地域活動支援センター 障害支援区分

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計 （平均区分）
地活天花－	0	0	0	0	0	0	0	0

２　居住事業所　利用実績

①　利用状況

令和８年３月 31 日現在（単位：名）

	定員		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
向陽園	40	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
施設入所支援		実利用者数	1,126	1,167	1,194	1,204	1,186	1,159	1,193	1,124	1,124	1,132	1,013	1,152	13,774	
		利用率(%)	93.8%	94.1%	99.5%	97.0%	95.6%	96.5%	96.2%	93.6%	90.6%	91.2%	90.4%	92.9%	94.3%	
GH向陽園	17	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
共同生活援助		実利用者数	502	510	501	517	503	500	515	493	511	494	438	485	5969	
		利用率(%)	98.4%	96.7%	98.2%	98.1%	98.1%	98.0%	97.7%	96.6%	96.9%	98.7%	92.0%	92.0%	96.2%	
GH心音	30	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
共同生活援助		実利用者数	865	895	884	884	880	876	885	866	865	857	771	833	10361	
		利用率(%)	96.1%	96.2%	98.2%	95.0%	94.6%	97.3%	95.1%	96.2%	93.0%	92.1%	91.7%	89.5%	94.6%	
GHみらい	33	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
共同生活援助		実利用者数	950	980	981	1002	971	953	984	952	979	949	861	953	11515	
		利用率(%)	95.9%	95.7%	99.0%	97.9%	94.9%	96.2%	96.1%	96.1%	95.6%	92.7%	93.1%	93.1%	95.5%	
GH天花	10	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
共同生活援助		実利用者数	290	294	290	299	296	276	272	259	249	281	270	302	3,378	
		利用率(%)	96.6%	94.8%	96.6%	96.4%	95.4%	92.0%	87.7%	86.3%	80.3%	90.6%	96.4%	97.4%	92.5%	
GHなかやま	16	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
共同生活援助		実利用者数	443	446	450	461	447	443	458	454	479	467	427	465	5440	
		利用率(%)	92.2%	89.9%	93.7%	92.9%	90.1%	92.2%	92.3%	94.5%	96.5%	94.1%	95.3%	93.7%	93.1%	

②　居住系事業所 利用者居住地（現住所）

	定員		山形市	上山市	天童市	中山町	山辺町	その他	計
向陽園	40		27	4	3	1	1	3	39
施設入所支援									
GH向陽園	17		10	4	0	0	1	1	16
共同生活援助									
GH心音	30		22	3	1	0	0	2	28
共同生活援助									
GHみらい	33		22	0	1	2	3	3	31
共同生活援助									
GH天花	10		2	0	7	0	1	0	10
共同生活援助									
GHなかやま	16		5	0	1	4	1	5	16
共同生活援助									
計			88	11	13	7	7	14	140

③　居住系事業所 手帳保持状況

	定員		療育手帳 A	療育手帳 B	身体手帳 1～2級	身体手帳 3～6級	精神手帳 1級	精神手帳 2～3級
向陽園 施設入所支援	40		35	4	4	1	0	0
GH向陽園 共同生活援助	17		13	3	2	0	0	0
GH心音 共同生活援助	30		10	15	3	2	1	1
GHみらい 共同生活援助	33		18	13	1	1	0	1
GH天花 共同生活援助	10		8	2	0	0	0	0
GHなかやま 共同生活援助	16		11	4	0	1	0	0
計			95	41	10	5	1	2

④　居住系事業所　グループホーム別平均年齢

	定員		1	2	3	4	5
GH向陽園 共同生活援助	17	ホーム名 (平均年齢)	GHみるく 50(歳)	GHくれよん 58.6(歳)	西の家 49.4(歳)		
GH心音 共同生活援助	30		GHさくらんぼはうす (44.3歳)	GHいちごはうす (62.6歳)	GH未来(くるみ) (55.1歳)		
GHみらい 共同生活援助	33		GHよつば (61.2歳)	GHつばさ (58.2歳)	GHあすなろ (54.2歳)	GHひのき (46.7歳)	GHはなだて・すまいる (70.3歳)
GH天花 共同生活援助	10		GHぶどうの木 (38.9歳)				
GHなかやま 共同生活援助	16		GH雨宿舘 (41.1歳)	GHサニーハウス (44.5歳)			

⑤　居住系事業所 年齢構成　　令和８年３月 31 日現在（単位：名）

	定員	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計 （平均年齢）
向陽園 施設入所支援	40	0	4	11	11	8	4	1	0	39 （44.4歳）
GH向陽園 共同生活援助	17	0	0	1	7	4	2	2	0	16 （52.5歳）
GH心音 共同生活援助	30	1	5	0	5	6	5	6	0	28 （54歳）
GHみらい 共同生活援助	33	0	2	2	3	8	6	6	4	31 （58.1歳）
GH天花 共同生活援助	10	0	1	3	6	0	0	0	0	10 （38.9歳）
GHなかやま 共同生活援助	16	1	3	3	5	1	3	0	0	16 （42.6歳）
計		2	15	20	37	27	20	15	4	

⑥　居住系事業所 障害支援区分

	定員	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計 （平均区分）
向陽園 施設入所支援	40	0	0	0	0	1	16	22	39 （5.5）
GH向陽園 共同生活援助	17	0	0	0	0	4	5	7	16 （5.2）
GH心音 共同生活援助	30	1	0	4	4	12	5	2	28 （3.8）
GHみらい 共同生活援助	33	0	0	3	5	3	9	11	31 （4.6）
GH天花 共同生活援助	10	0	0	0	0	2	8	0	10 （4.8）
GHなかやま 共同生活援助	16	0	0	1	3	5	6	1	16 （4.2）
計		1	0	8	12	27	49	43	140

3-1　短期入所事業所　利用実績

①　利用状況

令和８年３月 31 日現在（単位：名）

	定員		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
SS向陽園	4	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
併設型		実利用者数	14	15	11	12	7	17	11	11	7	8	10	5	128	
SS心音	1	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
併設型		実利用者数	47	47	48	56	52	53	50	48	43	42	41	47	574	
あすなろSS	1	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
併設型		実利用者数	32	27	34	34	27	30	32	18	32	26	28	31	351	
ぶどうの木SS	2	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
併設型		実利用者数	74	69	73	86	78	71	76	68	79	68	69	79	890	
SSゆるっとなかやま	1	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
併設型		実利用者数	31	30	34	30	30	36	36	36	35	34	33	41	406	
SS月のひかり	3	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
単独型		実利用者数	92	101	106	106	99	105	100	97	119	105	107	114	1251	

②　短期入所 利用者居住地（現住所）

	定員		山形市	上山市	天童市	中山町	山辺町	その他	計
SS向陽園 併設型	4		7	0	0	0	0	1	8
SS心音 併設型	1		12	5	0	0	2	1	20
あすなろSS 併設型	1		1	0	0	1	0	0	2
ぶどうの木SS 併設型	2		5	0	10	1	0	3	19
SSゆるっとなかやま 併設型	1		5	0	1	3	1	5	15
SS月のひかり 単独型	3		0	0	0	0	0	0	0
計			30	5	11	5	3	10	64

③　短期入所 手帳保持状況

	定員		療育手帳 A	療育手帳 B	身体手帳 1～2級	身体手帳 3～6級	精神手帳 1級	精神手帳 2～3級
SS向陽園 併設型	4		5	2	2	0	0	0
SS心音 併設型	1		14	6	2	0	0	0
あすなろSS 併設型	1		2	0	0	0	0	0
ぶどうの木SS 併設型	2		19	0	0	0	0	0
SSゆるっとなかやま 併設型	1		8	7	2	0	0	0
SS月のひかり 単独型	3		0	0	0	0	0	0
計			48	15	6	0	0	0

④　短期入所 年齢構成

	定員		～12	13～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～
SS向陽園 併設型	4		0	0	1	4	0	1	0	1	0
SS心音 併設型	1		0	1	4	11	3	0	1	0	0
あすなろSS 併設型	1		0	0	1	1	0	0	0	0	0
ぶどうの木SS 併設型	2		0	0	11	7	1	0	0	0	0
SSゆるっとなかやま 併設型	1		0	1	5	4	1	1	3	0	0
SS月のひかり 単独型	3		8	28	3	0	0	0	0	0	0
計			8	30	25	27	5	2	4	1	0

⑤　短期入所 障害支援区分

	定員	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計 (平均区分)
SS向陽園 併設型	4	0	0	0	0	3	1	3	7 (5.0)
SS心音 併設型	1	0	0	0	2	7	5	6	20 (4.8)
あすなろSS 併設型	1	0	0	0	0	0	2	0	2 (5.0)
ぶどうの木SS 併設型	2	0	0	0	0	7	11	1	19 (4.7)
SSゆるっとなかやま 併設型	1	0	0	3	2	5	1	4	15 (4.0)
SS月のひかり 単独型	3	0	1	13	19	1	3	2	39 (2.9)
計		0	1	16	23	23	23	16	102

※児童は、支援区分１～３まで

３ - 2　日中一時支援事業所　利用実績

①　利用状況　　令和８年３月 31 日現在(単位：名)

	定員		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
向陽園 併設型	4	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
		実利用者数	39	27	32	29	28	23	25	25	21	21	19	26	315	
		利用率(%)	32.5%	21.7%	26.6%	23.3%	22.5%	19.1%	20.1%	20.8%	16.9%	16.9%	16.9%	20.9%	21.5%	
虹の丘 併設型	1	開所数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
		実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	6	
		利用率(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.4%	6.4%	0.0%	6.4%	1.6%	

4　相談支援事業所　利用実績

①　利用状況　特定相談

令和８年３月 31 日現在（単位：名）

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
相談心音		計画者	31	19	23	38	21	25	50	28	24	36	27	26	348	
		計画児	8	1	4	2	5	3	3	2	5	3	4	3	43	
		モニタ者	26	25	33	28	25	39	21	28	46	19	26	65	381	
		モニタ児	1	4	4	2	3	4	1	2	1	4	3	2	31	
		計	66	49	64	70	54	71	75	60	76	62	60	96	803	
		利用率(%)	62.9%	46.7%	61.0%	66.7%	51.4%	50.7%	53.6%	42.9%	54.3%	44.3%	42.9%	68.6%	53.8%	
		相談支援専門員数	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
相談天花		計画者	11	7	1	13	4	5	13	4	8	13	2	9	90	
		計画児	41	9	13	23	10	14	10	13	11	17	17	11	189	加算のみの請求を除いた件数
		モニタ者	9	13	20	7	8	10	3	3	10	5	6	15	109	
		モニタ児	8	7	7	13	10	9	6	2	3	5	4	9	83	
		計	69	36	41	56	32	38	32	22	32	40	29	44	471	
		利用率(%)	98.6%	51.4%	58.6%	80.0%	45.7%	54.3%	45.7%	31.4%	45.7%	38.1%	27.6%	41.9%	51.6%	
		相談支援専門員数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2.3	

※相談支援専門員:1名につき35件で、100%計算　➡ 最大39件／月になるので検討

②　利用状況　一般相談

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
相談心音		地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		地域定着	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
相談天花		地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		地域定着	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	

４－１　向陽園地域生活支援センター心音　利用実績

①　利用者居住地（現住所）

	対象		山形市	上山市	天童市	中山町	山辺町	その他	計
相談心音	障害者		278	13	3	15	14	10	333
	障害児		30	1	0	0	2	1	34
計			308	14	3	15	16	11	367

② 対象

	対象		実人員	知的障害	身体障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
相談心音	障害者		332	271	53	86	100	7	12	14
	障害児		35	13	4	3	22	0	3	3
計			367	284	57	89	122	7	15	17

③ 相談内容

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
相談心音	福祉ｻｰﾋﾞｽの利用	障がい者	101	115	108	124	123	139	163	115	143	117	99	171	1518	
		障がい児	10	14	5	6	7	17	10	7	11	28	18	22	155	
	障害や症状の理解	障がい者	1	2	0	2	0	4	6	1	3	3	0	8	30	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	健康・医療	障がい者	22	32	21	25	6	16	17	21	17	27	21	28	253	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	不安の解消・情緒安定	障がい者	4	2	0	0	3	0	5	0	3	3	2	3	25	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	保育・教育	障がい者	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
		障がい児	2	0	1	0	0	2	2	0	0	0	4	3	14	
	家族関係・人間関係	障がい者	2	2	0	2	6	0	0	3	2	0	2	2	21	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	家計・経済	障がい者	2	3	1	5	1	7	2	1	5	4	2	1	34	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	生活技術	障がい者	4	3	0	1	4	2	2	0	1	1	0	0	18	
		障がい児	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	就労	障がい者	0	0	0	2	1	2	2	1	1	7	0	3	19	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	社会参加・余暇活動	障がい者	10	10	8	8	13	9	10	12	12	1	14	21	128	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	権利擁護	障がい者	0	0	0	0	0	8	7	3	0	0	0	2	20	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ケア会議	障がい者	4	5	4	11	4	1	6	7	7	5	9	14	77	
		障がい児	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	
	申請関係	障がい者	54	13	3	0	2	0	1	0	0	2	3	2	80	
		障がい児	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	虐待	障がい者	4	0	3	0	0	0	0	0	0	0	7	1	15	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	障がい者	3	6	0	2	3	3	6	4	5	6	3	3	44	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

４－２　地域生活支援センター天花　利用実績

①　利用者居住地（現住所）

	対象		山形市	上山市	天童市	中山町	山辺町	その他	計
相談天花	障害者		25	0	113	5	2	6	151
	障害児		1	0	171	2	0	0	174
計			26	0	284	7	2	6	325

②　対象

	対象		実人員	知的障害	身体障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
相談天花	障害者		151	58	12	61	5	4	9	7
	障害児		174	48	15	16	91	0	6	89
計			325	106	27	77	96	4	15	96

③　相談内容

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
相談天花	福祉ｻｰﾋﾞｽの利用	障がい者	92	124	135	181	82	83	140	119	142	148	122	122	1490	
		障がい児	182	132	157	172	95	74	126	88	114	136	149	149	1574	
	障害や症状の理解	障がい者	5	3	1	2	2	2	8	26	6	2	3	3	63	
		障がい児	8	0	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	14	
	健康・医療	障がい者	9	6	2	9	8	28	13	14	5	11	5	5	115	
		障がい児	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
	不安の解消・情緒安定	障がい者	26	14	22	17	5	28	22	31	21	20	11	11	228	
		障がい児	2	2	1	0	3	0	0	0	0	4	0	0	12	
	保育・教育	障がい者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		障がい児	1	3	1	0	1	3	0	0	1	4	3	3	20	
	家族関係・人間関係	障がい者	9	2	1	6	4	3	5	15	9	3	3	3	63	
		障がい児	2	1	2	0	0	0	0	0	0	1	2	2	10	
	家計・経済	障がい者	2	0	1	13	3	5	12	10	2	5	6	6	65	
		障がい児	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	生活技術	障がい者	3	0	2	0	0	2	1	1	0	1	0	0	10	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	就労	障がい者	1	24	13	12	9	13	14	5	9	1	0	0	101	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	社会参加・余暇活動	障がい者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	権利擁護	障がい者	0	5	2	0	3	0	0	2	0	0	1	1	14	
		障がい児	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	ケア会議	障がい者	3	1	1	5	2	0	5	7	3	2	2	2	33	
		障がい児	1	2	1	1	2	0	3	3	2	0	2	2	19	
	申請関係	障がい者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	虐待	障がい者	0	0	0	0	0	15	0	2	2	0	0	0	19	
		障がい児	0	0	5	0	3	3	0	0	0	0	5	5	21	
	その他	障がい者	5	3	11	9	0	6	5	1	2	4	0	0	46	
		障がい児	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	4	

5　放課後等デイサービス事業所　利用実績

①　利用状況

令和８年３月 31 日現在（単位：名）

	定員		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
月のひかり	10	開所日数	25	24	25	26	22	24	26	24	24	24	22	25	291	
放課後等デイ		実利用者数	239	225	233	253	207	211	217	198	217	210	205	217	2,632	
単位:月のひかり班		利用率(%)	95.6%	93.7%	93.2%	97.3%	94.0%	87.9%	83.4%	82.5%	90.4%	87.5%	93.1%	86.8%	90.5%	

月のひかり	10	開所日数	25	24	25	26	22	24	26	24	24	24	22	25	291	
放課後等デイ		実利用者数	222	208	217	237	189	229	243	200	229	221	198	222	2,615	
単位:ぷるぷる班		利用率(%)	88.8%	86.6%	86.8%	91.1%	85.9%	95.4%	93.4%	83.3%	95.4%	92.0%	90.0%	88.8%	89.8%	

計	20	開所日数	25	24	25	26	22	24	26	24	24	24	22	25	291	
		実利用者数	461	433	450	490	396	440	460	398	446	431	403	439	5,247	
		利用率(%)	92.2%	90.2%	90.0%	94.2%	90.0%	91.6%	88.4%	82.9%	92.9%	89.7%	91.5%	87.8%	90.1%	

②　放課後等デイサービス事業所 利用者居住地（現住所）

	定員	山形市	上山市	天童市	中山町	山辺町	その他	計
月のひかり 単位1：	10 月のひかり班	23	2	0	0	1	0	26
月のひかり 単位2：	10 ぷるぷる班	26	1	1	0	0	0	28
計		49	3	1	0	1	0	54

③　放課後等デイサービス事業所 年齢構成

	定員	～6	7～12	12～15	16～18	19～	計（平均年齢）
月のひかり 単位1：月のひかり班	10	0	0	19	13	0	32（15.2歳）
月のひかり 単位2：ぷるぷる班	10	0	25	0	0	0	25（9.6歳）
計		0	25	19	13	0	57（12.7歳）

６　ホームヘルプ　利用実績

令和８年３月 31 日現在（単位：名）

①　ホームヘルプ 利用者居住地（現住所）

	対象		山形市	上山市	天童市	中山町	山辺町	その他	計
ヘルプ心音	障害者		132	7	10	6	4	8	167
	障害児		2	0	1	0	0	0	3
計			134	7	11	6	4	8	170

②　ホームヘルプ 障害支援区分

			非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計 (平均区分)
ヘルプ心音			39	2	20	24	34	25	26	170 (3.1)

③　ホームヘルプ 年齢構成

			～12	13～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計 (平均年齢)
ヘルプ心音			0	7	38	43	15	22	26	13	6	170

④　令和７年度「障害者等移動支援事業委託契約書」契約締結市町村

契約締結市町村	山形市	上山市	天童市	中山町	山辺町
	寒河江市	西川町	村山市		

⑤　愛泉会グループホーム利用者と在宅者等の利用割合

	利用者数	割合(%)
令和7年度ホームヘルプを利用した方	170	-
愛泉会グループホーム利用者	44	25.9%
在宅生活者、他法人グループホーム等利用者	126	74.1%

⑥　向陽園ホームヘルプステーション心音　利用実績　　令和８年３月 31 日現在(単位：名)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
居宅介護	居宅における身体介護	実利用者数	7	6	6	6	5	6	8	4	7	6	6	6	73	
		時間数	6h	5h	5h	5h	4h	5h	7h	4h	6h	5h	5h	5h	62h	
	通院等介助(身体介護を伴う場合)	実利用者数	23	26	23	24	17	21	22	23	22	17	21	20	259	
		時間数	32h	46h	40h	46h	29h	39h	32h	33h	40h	29h	40h	41h	443h	
	家事援助	実利用者数	12	15	13	13	7	6	13	14	14	11	9	10	137	
		時間数	11h	13h	12h	13h	5h	6h	11h	14h	12h	10h	8h	10h	122h	
	通院等介助(身体介護を伴わない場合)	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	
同行援護		実利用者数	32	32	35	25	31	30	29	22	22	22	25	23	328	
		時間数	76h	60h	76h	57h	62h	52h	57h	54h	47h	51h	61h	61h	712h	
行動援護		実利用者数	48	53	55	59	50	55	50	56	45	47	48	51	617	
		時間数	90h	95h	92h	100h	95h	94h	94h	96h	78h	80h	99h	94h	1,105h	
重度障害者等包括支援		実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	

※　月の利用率の出し方　利用率＝ﾍﾙﾌﾟ・福祉有償等の月の計／(全ﾍﾙﾌﾟ職員の月の勤務時間計×0.8)

※　ヘルプの稼働率を計算する：ﾌﾙﾀｲﾑﾍﾙﾊﾟｰ　１日６時間稼働で計算

⑦　利用予定　　移動支援(地域生活支援事業)　　令和８年３月 31 日現在(単位：名)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
山形市	身体介護を伴う場合	実利用者数	81	73	74	72	70	69	79	65	51	71	69	69	843	
		時間数	135h	132h	131h	127h	133h	126h	144h	144h	95h	127h	121h	125h	1,537h	
	身体介護を伴わない場合	実利用者数	5	6	4	5	4	4	5	5	5	5	4	4	56	
		時間数	6h	8h	4h	9h	6h	8h	5h	7h	6h	8h	4h	8h	78h	
上山市	身体介護を伴う場合	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	
	身体介護を伴わない場合	実利用者数	2	2	2	2	1	2	2	1	1	2	2	2	21	
		時間数	6h	5h	6h	6h	2h	6h	6h	2h	4h	5h	5h	5h	54h	
中山町	身体介護を伴う場合	実利用者数	3	4	3	4	3	4	3	4	3	4	3	4	42	
		時間数	9h	8h	9h	8h	9h	8h	9h	9h	7h	8h	8h	8h	97h	
	身体介護を伴わない場合	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	
山辺町	身体介護を伴う場合	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	
	身体介護を伴わない場合	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	
天童市	身体介護を伴う場合	実利用者数	3	3	3	1	4	2	3	2	3	2	3	1	30	
		時間数	4h	3h	4h	0h	5h	2h	4h	2h	3h	2h	3h	0h	34h	
	身体介護を伴わない場合	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	
寒河江市	身体介護を伴う場合	実利用者数	4	4	4	5	3	3	4	4	4	4	4	4	47	
		時間数	7h	6h	11h	9h	6h	6h	7h	8h	8h	8h	8h	8h	90h	
	身体介護を伴わない場合	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	
西川町	身体介護を伴う場合	実利用者数	2	2	2	2	2	2	1	3	2	2	2	2	24	
		時間数	4h	4h	4h	3h	3h	3h	2h	5h	4h	4h	4h	4h	41h	
	身体介護を伴わない場合	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	
村山市	身体介護を伴う場合	実利用者数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	
		時間数	0h	3h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	2h	0h	2h	7h	
	身体介護を伴わない場合	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	
その他市町村	身体介護を伴う場合	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	
	身体介護を伴わない場合	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間数	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	

８　居宅介護支援事業所　　利用実績

①　利用状況

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
相談心音	居宅介護	要介護1,2	16	17	18	17	18	18	18	17	18	19	18	19	213	
		要介護3,4,5	3	3	3	3	3	3	2	3	4	4	4	3	38	
	介護予防	要支援1,2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	4	4	4	38	
		合計	22	23	24	23	24	24	23	23	24	27	26	26	289	
		(内委託連携)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ケアマネ	1	利用率(%)	62.9%	65.7%	68.6%	65.7%	68.6%	68.6%	65.7%	65.7%	68.6%	77.1%	74.3%	74.3%	68.8%	

※ ケアマネ１名につき 35 件で, 100%計算

⑨≪実習受け入れ≫

	実習名	実習期間	学校名	実習事業所	人数
1	保育実習	6月16日　～　6月27日	東北文教大学	向陽園・さくら・たんぽぽ工房	4
2	保育実習	8月18日　～　8月29日	東北文教大学	向陽園・さくら・たんぽぽ工房	2
3	社会福祉援助技術実習【SWⅠ】	8月19日　～　9月 3日	東北文教大学	向陽園	2
4	社会福祉援助技術実習【SWⅡ】	5月26日　～　6月26日	東北福祉大学	グループホーム支援センター心音	2
5	社会福祉援助技術実習【SWⅠ】	8月4日　～　8月14日	仙台白百合女子大学	グループホーム支援センター心音	1
6	市民後見人養成研修体験授業	12月3日			3
7	保育実習	2月9日　～　2月24日	羽陽学園短期大学	天花(生活介護・相談・地活)	2
8	保育実習	3月9日　～　3月24日	羽陽学園短期大学	天花(生活介護・相談・地活)	2
				計	18